



STAMP EXHIBITION

STAMPEX  
JAPAN

25

STAMPEX  
JAPAN  
2025

29TH-31ST MARCH  
NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION

公式ガイドブック

# この展覧会はなんでしょか？

この展覧会は、国際郵趣連盟（FIP）の定める審査規則に従い、FIP公認審査員らが審査する全国切手展、かつ出品者への個別指導の場です。

「切手収集」をご存知の方は少なくないと思いますが、『プレゼンテーションを楽しむことが可能な収集趣味』であることをご存知の方は多くないと思います。

プレゼンテーションの1つの方法は、A4判の台紙に、収集した切手や郵便物を並べ、適切な文章を記載し、展示に耐えうるコレクションを作る事で、ある程度収集の進んだコレクターの中では実践している人も多い方法です。

個人で楽しむ分にはコレクション作りは自由ですが、このコレクション作りに競技の概念を持ち込んだのが競争切手展です。ヨーロッパ発祥で100年以上の歴史があり、この間に多くのコレクションが競争切手展の場で、FIP公認審査員により審査されてきました。

競争切手展は、陸上競技の様な絶対価値の測定ではなく、フィギュアスケートの様な、審査規則に従い、審査員が審査を行う審査競技（100点満点）です。

日本人が国際切手展に頻繁に参加するようになったのは1980年代以降です。欧米諸国に比べると歴史が浅い為、ルール違反の作品やルール上大幅な減点を免れない作品もありました。しかしながら、FIP公認審査員の日本人が少なかった為、それ以外の収集家が見ようみまねで審査するしかない全国切手展も少なくありませんでした。この為、国内で良い賞を獲得した作品の中には、世界に進出した瞬間に、大幅に減点されてしまう作品が後を絶たない状態でした。

スタンペックスジャパンは、この様な悔しい思いをする競争展出品者を少しでも減らす為に2019年夏に企画された全国切手展です。原則としてFIP公認審査員（伝統郵趣部門）のみで審査委員会を結成し、各審査員には、FIP規則の更なる理解と最新の運用の動向をご理解いただく様お願いしております。

また、出品者には、会期二日目の会場におけるクリティック（審査員による個別指導）への参加を強く推奨し、作品改善に役立てていただいています。

この結果、過去の本展出品者の多くが、その後開催された国際切手展で、改善された作品を展示できる様になり、期待通りのスコアを獲得することができました。

この様に、本展覧会は、「出品者の為」を第一に考えて開催される全国切手展です。もっとも、高得点を得られるコレクションは、美観の点も含めて優れており、参観しても楽しめる作品ばかりです。本ガイドの説明も合わせてお楽しみください。

**審査結果が最も国際展基準に近い全国切手展 + 個別指導の場**



STAMPEX JAPAN 2025  
29TH - 31ST MARCH  
NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
OFFICIAL GUIDEBOOK

Publisher: Stampedia, inc.  
President & Editor in Chief : YOSHIDA Takashi  
Date of issue: Mar. 11th 2025  
Number of Issue : 1,200

© Copyright by Stampedia, inc.  
4-7-803 Kojimachi, Chiyoda, Tokyo, 102-0083  
Design : Takashi Yoshida, Tokyo  
Printing : Printpac, Kyoto

## 目次

目次等	P. 4
スケジュール	P. 5
郵政博物館 見取り図 / ディーラーブース情報	P. 6
展示作品一覧	P. 7
審査員紹介	P. 8
本展覧会にご寄付を下さった方々	P. 9
ジャパン・フィラテリスト・サミット2025兼スタンペックスジャパン2025授賞式のご案内	P.10
展示作品紹介（24作品）	P.12
全国切手展「スタンペックスジャパン」の歴史	P.108
「スタンペックスジャパン2025」作品募集要綱	P.110
「スタンペックスジャパン」歴代グランプリスト等の紹介	P.115
広告（50音順）	
スタンペディアオーケーション株	P.116
日本郵便切手商協同組合	P.117
東京ワンフレームチャンピオンシップ実行委員会	P.118 - 119
全日本切手まつり実行委員会	P.120 - 121
無料世界切手カタログ・スタンペディア <sup>株式会社</sup>	P.122
特定非営利活動法人 郵趣振興協会	P.123

主催：郵政博物館、特定非営利活動法人 郵趣振興協会

協賛：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

後援：日本郵便株式会社、切手市場、一般社団法人 全日本郵趣連合、公益財団法人 日本郵趣協会

協力：日本郵便切手商協同組合

美術支援：岩崎 朋之

郵政博物館（公益財団法人 通信文化協会）

特任研究員 藤本 栄助  
学芸員 富永 紀子

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

代表理事 吉田 敬

審査委員会

審査委員長 アンドリュー チョン  
審査員 設楽 光弘 山田 廉一 吉田 敬

実行委員会

実行委員長 横山 裕三  
ブース担当 守川 環  
実行委員 鎌倉 達敏 菊地 恵実 木戸 裕介 斎 享 中畑 智文 丹羽 昭夫 水谷 行秀  
宮崎 幸二 山崎 太郎 (50音順)

## スケジュール

### 3月29日(土)

- 10:00 開場  
 17:30 閉場（最終入場受付は 17:00）  
 18:00 ジャパン・フィラテリスト・サミット 2025（兼スタンペックスジャパン 2025 表彰式）開場  
 18:30 同上 開宴（事前申込制：3/22 締切、詳細 P.10-11 参照）

### 3月30日(日)

- 10:00 開場  
 10:10 クリティーカー  
     \* 審査員により出品者へ作品改善の指導を行います。  
     出品者以外の方も、クリティーカーを傍聴していただいて構いません。  
     ただし、クリティーカー中の審査員・出品者に話しかけることは禁止します。  
 17:30 閉場（最終入場受付は 17:00）

### 3月31日(月)

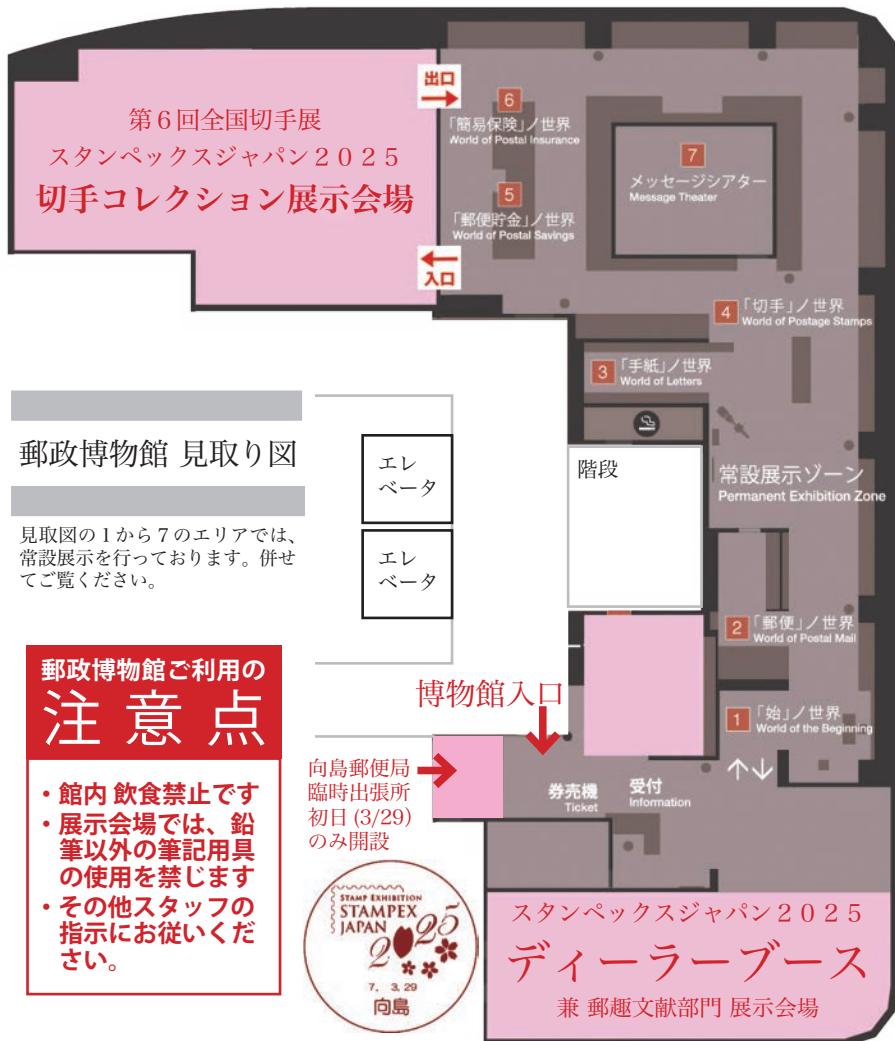
- 10:00 開場  
 17:30 閉場（最終入場受付は 17:00）

### 関連行事会場への移動方法（詳細 P.10-11）

日本外国特派員協会 (FCCJ) / パーティールーム

住所：東京都 千代田区 丸の内 3-2-3 丸の内二重橋ビル 5 階





### ディーラーブース開場時刻、並びに出店ディーラーのご案内

開場時刻：初日（3/29）：午前10時30分 初日以外：午前10時00分  
開場時刻までは混乱防止の為ディーラーブースエリアに入場できません。

#### 日本切手社

(3月29日・30日に出店)

#### 切手のガレージショップ

(3月29日・30日に出店)

#### ゼネラルスタンプ

(3月29日・30日・31日に出店)

#### kitteasia

(3月29日に出店)

## スタンペックスジャパン2025 展示作品一覧

12ページより「出品者本人による作品概説」「タイトルページ」「代表的ページ」「出品者プロフィール」を順番に掲載します。

No	部門	Fr.	出品作品名称	出品者名	過去の賞歴
1	伝統郵趣	5	和紙青一錢	高橋卓雄	国内展 LV
2	伝統郵趣	5	Japan Etched Stamps 1871-1876	黒田卓	国内展 LG
3	伝統郵趣	5	日本普通切手 1913-1938	菊池達哉	国内展 V
4	伝統郵趣	8	昭和切手 1937-46	伊藤純英	国際展 G
5	伝統郵趣	5	Ryukyu Airmail Issue 1950-1954	木戸裕介	初出品
6	伝統郵趣	5	スウェーデン オスカーニ世時代の普通切手 1885-1911	五島直	初出品
7	伝統郵趣	8	France 1849-1860	有吉伸人	国際展 G
8	伝統郵趣	5	URUGUAY 1856-1884	楳原晃二	国内展 G
9	郵便史	5	私製はがきの外国宛使用	安藤源成	国内展 S
10	郵便史	8	在中国アメリカ郵便の活動 1802-1922	大場光博	国内展 LG
11	郵便史	8	Postal History of Kiautschou in China 1898-1949	福田真三	国際展 LV
12	郵便史	8	インド中国遠征軍 1900-1923	小岩明彦	国内展 G
13	郵便史	8	第二次世界大戦期の英國郵便史：太平洋戦争	佐藤浩一	初出品
14	ステーショナリー	8	Postal Stationery under Japanese Naval Occupation Area	守川環	国際展 G
15	ワンフレーム	1	Stamps of The Russian Empire Used Abroad Ship Mail to Japan	飯塚博正	国内展 82
L-1	文献 単行本		国際切手展 JAKARTA2024 金賞受賞作品 ジャワ1942年2月～1945年8月	増山三郎	
L-2	文献 単行本		西村寿一郎コレクション SWEDEN 1855 - 1873	西村利子	
L-3	文献 単行本		在横浜ベイル兄弟洋菓子店	小林彰	
L-4	文献 単行本		戦後の歐文櫛型印	神宝浩	
L-5	文献 単行本		ウラジオストク航路と郵便(下)～日本海航路を中心に～ 1876年10月～1910年9月～(明治29年～明治43年)	立山一郎	
L-6	文献 単行本		世界植物切手分類体系 第1巻	石田徹	
L-7	文献 単行本		世界の大収集家 [第1部] フェラリとその時代の郵趣	正田幸弘	
L-8	文献 単行本		全日本切手展 第74回 <<全日本切手展 2024>>	小藤田紘	
L-9	文献 雑誌		小判切手とその時代 最近の情報 (2023.1-2024.12)	小判振舞処	

\* 過去の賞歴は公式な賞歴の内、最高となる賞を掲載しています。

## 郵趣文献部門の展示および展示作品の販売について

郵趣文献部門は、競争切手展の大事な一部門です。しかしながら、欧米開催と比較すると、アジアで開催される競争切手展では、国内展・国際展を問わず、その取り扱いはあまりよくない為、文献部門の出品者からは不満の声が寄せられることがあります。

欧米では、郵趣文献部門の参観者の為に読書スペース（リーディングルーム）を設ける展覧会も増えてきました。本展覧会は「国際展郵趣文献部門の審査経験」が豊富な審査員による審査を受けられる日本初の国内競争展で、リーディングルームも設けております。本年からはさらにその横で出品作品（出品者による販売希望文献のみ）を購入できる取り組みも開始しました。郵趣知識・ノウハウの習得にご活用いただければ幸いです。

# 審査員

## Jury



審査員長 アンドリュー・チョン  
Mr. Andrew CHEUNG  
FIP Jury  
Jury President



審査員 設楽 光弘  
Mr. SHITARA Mitsuhiro  
FIP Jury



審査員 山田 廉一  
Mr. YAMADA Ren-ichi  
FIP Jury



審査員 吉田 敬  
Mr. YOSHIDA Takashi  
FIAP Jury

### Andrew CHEUNG (アンドリュー・チョン)

香港郵趣協会副会長  
FIP 郵便史委員会の委員・セクレタリー (2008-2022)  
FIP 伝統郵趣委員会セクレタリー (2022-)  
国際郵趣鑑定家協会員 (香港、在中国ロシア局)  
2000 年より FIAP 登録審査員 (郵便史部門)  
2006 年より FIP 登録審査員 (伝統郵趣部門、郵便史部門)  
国際展における審査経験多数 + FIAP エキスパート委員会メンバー  
FIAP Jury Academy 講師

### 設楽 光弘 (したら みつひろ)

昭和 27 (1952) 年、群馬県前橋市生まれ

小学校 3 年より収集を開始。記念切手収集を経て学生時代より小判切手、上野国郵便印の収集を開始する。2004 年より FIP 登録審査員となり伝統郵趣部門資格を有す。AIEP 会員

#### 受賞歴

Old Koban Series 1876-79	
Large Gold Medals—Phila NIPPON2001, Phila KOREA2002 and BANGKOK2003	
UPU 小判切手	大金賞 + 郵便事業会社会長賞—JAPEX2009
上野国の記番印	大金賞 + 日本郵便文化振興機構賞—全日展 2015
上野国の不統一印	大金賞 + グランプリー JAPEX2016

### 山田 廉一 (やまだ れんいち)

昭和 39 年 (1964) 神奈川県生まれ、東京都在住

小学生より切手収集を始め、中学生で小判切手収集を開始。2001 年、米国カリフォルニア在住時に、ハワイ切手の収集開始。2018 - 2020 年、英国ケンブリッジ在住時に英國切手、特に King George V の収集開始。2014 年に FIP 登録審査員となり伝統郵趣部門資格を有す。

#### 受賞歴

JAPAN Definitives 1883 - 1892, UPU and New Koban	LV INDONESIA 2012
--	-------------------

## 吉田 敬（よしだ たかし）

昭和42年（1967）東京都練馬区生まれ、東京都在住

1977年6月から1988年頃まで、戦後日本（切手・ステーショナリー・マルコフィリー）を熱心に収集するもその後20年間ほど切手の購入をほぼ中断。2007年8月に偶然切手収集を思い出し、世界ゼネラル収集を開始。収集再開時点で念頭になかった競争展参加は、PHILANIPPON2011への参加を契機に四半世紀ぶりに開始し、それ以降10年間、競争展の魅力を楽しんでいる。

### 受賞歴

Classic Switzerland	LG	HELVETIA 2022
Kingdom of Prussia	LG	WSS ISRAEL 2018, WSC INDONESIA 2022, Thailand 2023
富士鹿・風景切手	G	PHILANIPPON 2021 (FIAP)
Philatelic Journal	G	Brasilia 2016
南方占領地	SB	JUNEX 81 (国内ジュニア展)

### アブレンティス審査員について

スタンペックスジャパン審査員会では、国際切手展における審査に通用する審査員の育成の為、アブレンティス審査員の応募を通年で受け付けておりますが、本年は応募がありませんでした。

## 本展覧会にご寄付を下さった方々 Donors to the Exhibition

スタンペックスジャパン運営寄附（1口二千円）にご協力くださった皆様

松田伸裕 Mr. MATSUDA Nobuhiro (5口) 小藤田紘 Mr. KOFUJITA Hiroshi (4口)

佐藤浩一 Mr. SATO Koichi (3口) 木戸裕介 Mr. KIDO Yusuke (3口)

立山一郎 Mr. TATEYAMA Ichiro (2口) 横原晃二 Mr. MAKIHARA Koji (2口)

斎享 Mr. SAI Toru (2口) 守川環 Mr. MORIKAWA Tamaki (2口)

横山裕三 Mr. YOKOYAMA Hiromi (2口) 菊地恵実 Ms. KIKUCHI Emi (2口)

水谷行秀 Mr. MIZUATANI Yukihide 菊池達哉 Mr. KIKUCHI Tatsuya 五島直 Mr. GOTO Sunao

伊藤純英 Mr. ITO Sumihide 正田幸弘 Mr. SHODA Yukihiro 飯塚博正 Mr. IITSUKA Hiromasa

増山三郎 Mr. MASUYAMA Savuro 有吉伸人 Mr. ARIYOSHI Nobuto 小岩明彦 Mr. KOIWA Akihiko

鎌倉達敏 Mr. KAMAKURA Tatsutoshi 小判振舞処 KOBAN FURUMAIDOKORO

敬称略、2025年3月2日受付分までを掲載

「スタンペックスジャパン運営寄附」は、会期中も、1口2千円で、博物館入口近くの「ディーラーブース 兼 郵趣文献部門 展示会場」にて承ります。

### 大口寄附

吉田敬 Mr. YOSHIDA Takashi 25万円（外国人審査員派遣への協力費として）

### ジャパン・フィラテリスト・サミット2025 特別協賛

スタンペディアオークション株式会社 Stampedia Auction, inc. 25万円

# ジャパン・フィラテリスト・サミット2025

## 兼 スタンペックスジャパン<sup>2025</sup>授賞式

※2025年3月29日(土)

※18時 開場 18時半 開宴

※日本外国特派員協会(FCCJ) パーティルーム

※特別協賛：スタンペディアオーケーション株式会社

服装：男性はネクタイの着用をお願い致します

「ジャパン・フィラテリスト・サミット」は、フィラテリストが一堂に介して、ゆっくり食事をしながら親交を深めることができる、欧米並みの着席パーティーが、年に一度くらいあっても良いのではないか、というアイディアを下に、2017年より年一度開催されてまいりました。

コロナ禍で3年間の中止を余儀なくされましたが、2023年に再開されてからは、全国切手展「スタンペックス ジャパン」の授賞式も兼ねて、毎年3月に開催されるようになりました。

本宴は、トップフィラテリストが参加するパーティーとしては国内最大規模で、50名を超えるご参加をいただいております。着席のフレンチのコース料理を提供し、参加者が交流しやすい雰囲気のパーティーです。

会場は「フォーリンプレスクラブ」とも呼ばれ、度々記者会見の開かれる「日本外国特派員協会」の宴会場で、一般の方がなかなか足を踏み入れない場所です。是非、この機会にご参加ください。初めての方のご参加も大歓迎いたします。

本パーティーへのご参加を希望される方は、3月22日までにお申込のほど、お願い申し上げます。ご夫婦・パートナーの方とのご参加も歓迎いたします。

### 参加申込方法

本宴への参加には入場券（有料、7,000円）が必要です。以下の方法でお求めください。  
入場券（下図）は、申込完了の方に3/1より順次発送致します。

（1）（「スタンペディア日本版」本年度会員）マイスタンペディアから申込

「ご注文はこちら！」タブを押してお申し込みください。1分で終わります。

（2）郵便等で申込

郵便：102-0083 海事ビル内局留 スタンペディア

電子メール：info@kitte.com FAX：03-6700-1585

会費： 7,000円

食事： フランス料理（コース、着席）

席数に限りがありますので、ご参加をご希望の場合は、お早めにお申込ください。



## ジャパン・フィラテリスト・サミット2024（昨年3月開催）のご紹介



司会：三宅民夫さん  
(元 NHK アンウンサー)

黒田卓さんへの手嶋康賞授与  
(プレゼンター手嶋康之様)



参加者集合写真。ご夫婦・パートナーの方とのご参加を歓迎いたします。

# スタンペックスジャパン2025

*Japan Cherry Blossoms 1 Sen Stamps Native Paper*

## 和紙青一錢

作品番号 No. 1

伝統郵趣部門部門 (5 フレーム)

出品者：高橋卓雄

四隅に桜の花があしらわれた桜切手は、明治5年7月20日に発行されました。

最初は仮名なしで発行されましたが、その後仮名入りに移行しました。

桜切手は半錢から30銭まで、用紙やカナの有無も含めて多数発行されましたが、私は和紙一錢について専門的に収集しました。

和紙青一錢の原版は26版あります。26の原版それぞれに40枚の切手が手で彫られました。ということは、印面の違う1,040種類の切手があるということです。

一人で全面集めた人は今まで聞いたことがありません。しかも、1,040枚で完集ではありません。印刷所の違いや仕上げの方法まで違う切手が存在します。

1版から4版までの版には、松田印刷と政府印刷の2種があり、さらに中間印刷と言われる切手もあります。先ほどの1,040枚に、政府印刷160枚、中間印刷160枚を加えると、青一切手1枚を1,360種類に分類できることが分かります。

青一の1版から26版は、シート写真が撮影されていたので、市田左右一氏が判別特徴を研究し26版までのそれぞれの切手のポジションが確定しています。したがって、もし青一をお持ちでしたら、この写真より、どの版のどの位置かが判別出来ます。

この版の区別が分かるようになると楽しみが倍増し、掘り出し物を見つけるチャンスが高くなります。

目打ちで集めるのも楽しみの一つです。青一にはMLL目打ちがあります。大きな穴の目打穿孔で、一度覚えると忘れません。

エンタイヤで青一を集めるのも面白いです。消印では大型検査済、不統一印、二重丸型印、記番印等多数あります。配達経路で集めたり距離制の料金から均一料金になったり、高額切手の発売遅延で多数枚の使用例があったりして、楽しめます。

ところで、印刷版の製造にあたり、26版分を1人の彫師が彫るのは不可能なため、数人の彫師で分担して作業を行いました。版によっては、1つの版を2人の彫師が分担した事例もあります。それは8版と25版の二つです。

例えば8版において、Pos.1-16とPos.17-40は別々の彫師が担当しました。この違いを分類したリーフがありますのでご覧ください。

このように、手彫切手を集める上で青一に勝るものはありません。原版分類の手頃さそれが確定されていること、印刷所の変革、いわゆる松田・中間・政府印刷の相違、使用例の多様性、大型地名入り検査済から記番印等への種類の変化、どれをとっても尽きない面白さがあります。

# 和紙桜青1銭

四隅に桜の花があしらわれている桜切手は明治5年7月20日に発行された。最初は和紙仮名無で発行されたがその後洋紙仮名入りに移行した。桜切手は和紙1/2銭から洋紙改色30銭仮名入りまで、多數発行されたが、本作品では和紙桜青1銭について専門的に分類した。

## — 松田印刷と政府印刷及び中間印刷の分類 —

- ・松田印刷は明治5年7月20日に発行された。この印刷は第1~4版のみにあり、刷色は特有の深藍色をしている。目打は全て短器具を使用している。用紙は無地紙である。
- ・政府印刷は明治6年3月に松田の原版4面を使用して発行された。刷色は淡青~青色である。目打は長短目打である。
- ・中間印刷は1~4刷だけ明治6年1月~2月頃、政府中間工場で印刷された。刷色は淡青~青である。
- ・松田印刷、政府印刷、中間印刷の事例をあげた。



松田印刷



政府印刷



中間印刷

## 展示プラン

本作品では、下記の展示プランのもとに、構成展示了。

1. 松田印刷と政府印刷及び中間印刷の分類。
2. 原版は26版あり、1シートは40枚の切手成り立っているが、その版と40枚の切手の位置(ポジション)を示した。
3. 郵便初期で種々郵便印があり、解明できる郵便印の説明(不統一印、二重丸型日付印等)を示した。
4. 切手の原版上の代表的なエラーを現物と共に、図で示した。
5. 版の判る切手貼付の代表的なエンタイヤも、消印データとともに示した。

### 展示フレーム構成

1. 第1フレーム 序文 松田印刷・中間印刷・政府印刷 1版~4版
2. 第2フレーム~第5フレーム 政府印刷

### 注目のマテリアル

1. 第1フレーム 松田印刷第3版 MLL目打ちエンタイヤ
2. 第1フレーム 松田印刷第2版再構成シート
3. 第4フレーム 政府印刷第15版 未使用シート
4. 第4フレーム 政府印刷第19版エンタイヤ

本展示の構成に際し、下記の文献を参考にした。

- 1)市田左右一、「桜切手」和紙青一銭、1970
- 2)伊東由巳、「和桜青一集、ジャパンフィラテリッククラブ」、1978
- 3)高野昇郎、「手影切手」日專を読み解くシリーズ、日本郵趣協会、2005
- 4)手影切手専門カタログ 2007年版 手影切手研究会
- 5)郵便消印百科事典、山崎好是編、株式会社鳴美、2007
- 6)日本切手専門カタログ 戦前編2011-12、(財)日本郵趣協会、2010

## 和紙桜青1銭

政府印刷

第15版

未使用シート

pos11.12



pos 3



pos 40

# 出品者プロフィール



*Mr. TAKAHASHI Takuo*

## 高橋卓雄 氏

1940年2月8日生まれ 85歳

切手の収集は中学生時代友人と交換して始めました。高校生時代に市田左右一氏「切手の愉しみ」を読み、手彫切手のおもしろさを知りました。リタイヤし時間、資金に多少ゆとりが出来たので、手彫切手青一銭に挑戦しました。市田左右一氏の参考書「青一」に26版ある各版のシートの写真及びそれぞれの版の解説があり参考になりました。又アドバイスをしてくれた友人がおり、勉強になり助かりました。

収集範囲：日本切手全般 手彫切手  
ハワイ切手  
戦前の船内郵便  
One Penny Red Plate 1 to 175

### 主な切手の受賞歴

2017年 JAPEX	和紙桜青一銭	大銀賞
2019年全日本切手展	和桜青一銭	大金銀賞
2020年 JAPEX	和紙桜青一銭	大金銀賞
2022年全日本切手展	ハワイ	銀賞

## スタンペックスジャパン2025

*Japan Etched Stamps 1871-1876*

# Japan Etched Stamps 1871-1876

作品番号 No. 2

伝統郵趣部門部門（5 フレーム）

出品者：黒田卓

本作品は、1871（明治4）年に発行が始まった手彫切手の伝統郵趣コレクションです。

20年余にわたって基本的に一人で手彫切手専門カタログはじめ関連の専門書籍・研究論文を参考にしながら、メインナンバーに沿ってコツコツと収集してきたものです。一昨年のスタンペックス・ジャパンに8フレームで初出品したのに続き、昨年同展には少々図に乗って国際展出品仕様の5フレームにコンパクト化し、クリティークで受けた懇切なアドバイスに従いフルシートやメジャーなエラー切手を入れて多少なりともグレードアップする工夫を施しました。

その結果、多分に励ましの意味の側面があったとは思うのですが、初めて大金賞をいただくことができました。加えて、JAPEX 2023に続き、本展では初めて設けられました手嶋康賞を受賞することもでき、授賞式では手嶋さんのご子息手すから賞状を授与していただき感激もひとしおでした。

今年も同じ作品名で懲りずに出品した主な狙いは、スタンペックス・ジャパンの本来の目的である国際展への出展を促進するという趣旨に沿って、今年開催の国際展に挑戦してみよう、それにはたってクリティークにおいて審査員の方々から忌憚のないご批評を仰ぎ、国際展で一定の評価が得られるように改善を図るヒントにさせていただこうということです。

前回出品作品から大きな変動はありませんが、いくつか微細ながらリーフの向上を図ったところがあります。その改善の眼目の一つは、クリティークで指摘されていた竜五百文貼カヴァーを入れたことです。残念ながら初期発行の黄緑色切手を貼り、大型地名入印などで抹消された名品ではありませんが、後期使用のルックスも相応に良好なアイテムといえるかと思います。和紙では6銭仮名入り(ヌ)が無声印の情けない状態であったのを、明治7年という初期使用が判る大阪N1B1鮮印のものに取り替えました。洋紙では30銭(イ)で未使用田型を、同改色で半銭(ニ)の横浜ボタ使用済を、そして同图案改正では房1銭の未使用目打バラエティにP. 12に加えて、いわゆるルーレット目打(P. 14½)の单片を新たに展示しました。

竜切手のパートを大きくしたい、稀少な、状態の良いカヴァーを入れたいなどレベルアップの余地はまだまだあると自覺しています。ご批正・ご助言よろしくお願いします。

## Japan Etched Stamps 1871-1876

### Purpose of the Exhibit

All of the Etched Stamps were produced by an unparalleled way of hand etching each position separately on copper plates of 40 stamps, which means even the stamps from the same plate are slightly different one another and abound in a wide variety of errors and design flaws (missing parts illustrated in red and lightly engraved ones in blue in the exhibit).

The exhibitor tries to classify and integrate forty-nine kinds of those stamps (excluding 20 Sen Dull Reddish Violet on Native Paper) into this collection largely on the basis of the chronological order proposed by the most authoritative specialized catalogue. With regard to the production aspect, much attention is paid to collecting unused stamps from the plates without and with syllabics as completely as possible (out of 278 plates at least), sometimes blocks & multiples, and taking up shade, paper material, perforation, specimen, pin-hole and error varieties with some study on crop marks on the corner selvages [Interlude:P.43]. From the viewpoint of the usage aspect, the exhibit attempts to emphasize the covers of postal historical significance such as registration, express delivery, cash-enclosed, overseas mails.

### Plan and Noteworthy Items

- I. **1871-72 Dragon Issue** [P. 2-18] consists of 1) Mon Unit and 2) Sen Unit. One of the highlights is a **100 Mon/Plate 1 cover sent on the first day of enforcement of the Meiji 6 Postal Regulation** proclaiming the nationwide uniform rate regardless of distance, shown in contrast with a 100 Mon first-year cover [P. 6]. Two covers, namely **200 Mon/ Plate 1 (1871)** and **Plate 2 (1872)** are displayed side by side with an analysis of distance & rate [P. 9]. A **500 Mon franking cover** also might be of interest in terms of the late usage [P. 12]. Among Sen Unit stamps with a lot of paper and perforation varieties, a page related to 1 Sen Blue/Plates 1 & 3 exhibits three outstanding copies of **Plate 1 Extremely Thick Wove Paper Unused, Plate 3 Laid Paper Unused and Plate 3 Brittle Thick Wove Paper Used** [P.15].
- II. **1872-1873 Cherry Blossom Issue on Native Paper** [P. 19-36] is divided into two groups depending on stamp production actors: 1) Matsuda Printing and 2) Government Printing [cited as MP & GP hereafter]. Remarkable items of this section are as follows: **Unused copies from Plates 2,7 & 14 of 1 Sen Blue/GP** [P. 21-22], the **only known combination cover** carried with the cooperation between official postal and old courier 'Hikyaku' services franked with a 2 Sen Vermillion/MP [P. 25] and **two assemblages of unused 4 Sen Carmine-Rose and 2 Sen Yellow copies from all the known plates** [P. 32, 34].
- III. **1874 Cherry Blossom Issue/Transitional Phase** [P. 37-42] is divided into two groups: 1) Native Paper with Syllabics and 2) Foreign Paper without Syllabic. Notable items among the former group are the **sole cover franked with a 6 Sen Violet Brown with Syllabic 'Chi'** tied by local Fancy Mark, and 20 Sen Reddish Violet with Syll. 'Ro' & 'Ha' unused copies [P. 39, 41]. As for the latter, a 4 Sen Carmine-Rose without Syll. franking cover is highly remarkable [P. 42].
- IV. **1874 Cherry Blossom Issue on Foreign Paper** [P. 44-58] is comprised of 8 denomination stamps. Here are noticeable items such as **an assortment of 2 Sen Yellow unused copies with all the Syllabics** [P. 48], a double-weight cover franked with 4 Sen Red with Syll. 'I' [P. 50], the **cover regarded as a forerunner of 'Fourth Class Mail'** franked with 10 Sen Green with Syll. 'Ro' [P. 54], 20 Sen Violet with Syll. 'Ho' to England [P. 56] and **30 Sen Gray with Syll. 'I' overseas covers to USA** (as for the latter as many as a dozen covers reported to exist) [P. 58].
- V. **1875 Bird Issue** [P. 59-61] contains pictorial 12, 15 & 45 Sen stamps, issued at the same time as the inauguration of the Postal Agreement between US and Japan. The **only known mixed-franking cover** with a British 1 Penny & two copies of 12 Sen Syll. 'I' and the well-known error 'Hand-written Ten (Kaki-ju)' on 15 Sen Syll. 'Ro', together with an early usage cover franked with single 15 Sen Syll. 'I' are the items that might attract notice [P. 59, 60 respectively].
- VI. **1875 Cherry Blossom Issue on Foreign Paper/Revised Color** [P. 62-75] includes two groups: 1) With Syll. and 2) Without Syll. Highlights in this section are as follows: a cover jointly franked with 1 Sen Brown with Syll. & without Syll. [P. 63], a **cash-enclosed cover** franked with a 6 Sen Orange copy 'Re' [P. 70] and a **registered cover to Germany** franked with a 20 Sen Rose Syll. 'Chi' [P.74].
- VII. **1875-1876 Cherry Blossom Issue on Foreign Paper/Revised Design** [P. 76-80] consists of three stamps. An illustration of transitional stages of 1 Sen Brown with Ribbon/ 3 Positions of Plate 2 [P. 77], and a **variety of perforation & an assortment of Fancy Markings** of 2 Sen Yellow with Ribbon [P. 78-79] are eye-catching items in this section.

### Literature (in Japanese)

Study Group of Hand Engraved Stamps, *The Specialized Catalogue Japanese Hand Engraved Stamps*, 7<sup>th</sup> ed., Tokyo, 2007.  
Japan Philatelic Society, *Japanese Stamp Specialized Catalogue: Etched Stamps*, Tokyo, 2023 (partly in English).

## Dragon Issue/ Mon Unit

## 1871 Dragon 500 Mon Light Greenish Blue on Native Paper

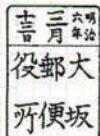
Plate 1/ Pos. 7



Postbox location handstamp  
(‘Hakoba-in’): Honmachi-  
bashi Nishi-zume



reverse (reduction 75%)



Osaka P.O.’s large-box  
handstamp for acceptance  
with ‘Gengo’ (Meiji 6)/13  
March in red

Osaka P.O.’s small-  
box cancellation

Cover from Osaka to Miyuchi, Uzen Province, manuscript date 13 March [1873 (Meiji 6)], franked with a single 500 Mon (Late Printing), tied by small-box type ‘Osaka Ken’. On reverse large-box type handstamp with ‘Gengo’ Meiji 6, transit Tokyo P.O.’s handstamp with ‘Eto’ (17 March). The distance from Osaka to Miyuchi is approximately 850 km, more than 200 Ri (=785 km), the postage rate came to 5 Sen (=500 Mon).

# 出品者プロフィール



*Mr. KURODA Takashi*

## 黒田卓 氏

1955年京都市生まれ、現在仙台市在住。郵趣振興協会 贊助会員

世紀転換期に、職を得ていた大学で仕事と研究に追いまくられ、何か嬉しいことをした~い、と切実に思い、30数年振りに切手取集を再開、最初はご多分に漏れず日本切手のポストカード収集に努めていましたが、そのうち手彫収集に専念するようになりました。手彫だと入手できても一ヶ月に数枚の切手、整理も楽だし長く続けられると考えたからです。

でも浅はかでした。この道は進めば進むほど奥が深く、限られた資金からはより限界が見えてきます。しかしやれるところで身の丈にあった形でやってみようと思い直し、定年退職を一つのきっかけにリーフに再整理し、一昨年多少無理無体を承知で一つの形として提示してみました。それが思わぬ好結果に結びついたのに気を良くして、一昨年のJAPEX、昨年の最後の全日展にも出品し、両方で金賞をいただくとともに、それぞれ手嶋康賞、全日本郵趣連合賞の特別賞を受賞いたしました。

しかし人に観ていただくべくリーフ作成に取り組んで、まだ数年しか経っていません。入手したいアイテムのハードルが年々高くなりすぎる、リーフ、フレームのレイアウトやディスクリプションをどうするか、理想と現実の折り合いをどうつけるかで日々模索中です。

学問の専門分野としてイランの歴史や文化を専攻してきましたので、10数年前からイランの切手やカヴァー類の収集も併せて楽しんでいます。その一端を現在「郵趣仙台」誌に「イラン郵趣散歩」と題するエッセイにて連載中です。ご関心ある方は、ご覧のほど。

# スタンペックスジャパン2025

*Japan Definitive Stamp, 1913-1938*

## 日本普通切手 1913-1938

作品番号 No. 3

伝統郵趣部門部門 (5 フレーム)

出品者：菊池達哉

[作品概要] 本作品は1913から38年までの時期に、当時の大日本帝国において、異なるタイプの普通切手が異種同額面を含めて入り混じって発行された中でも、田沢昌言によってデザインされ1913年から発行された所謂（田沢型切手）の1/2銭から1円までの17額面に、1924年から発行された5円、10円の高額切手2額面を加えた19額面を、同時代の全額面を網羅したメインストリームにあたるシリーズとして捉え、これを額面順に収集した伝統郵趣作品です。

[作品作製の目的] 1913年に発行を開始された日本の普通切手シリーズ19額面を額面順に収集する。26年間に多様な形態変化を遂げた同シリーズを可及的に単純な分類に従って収集する。形態変化の詳細な各論的追及の優先順位を高くせず、5フレーム作品において可能な（田沢型切手）への必要かつ十分な総論的理解のあり方を示す作品を作製することを目的とした。

[作品の構成] 1/2銭から10円切手までの19額面を低額から額面の順に収集する。製造面では、各額面において、発行時期によって変化した形態を、紙質、印面サイズ、銘版、野線、目打ちによって分類し、5フレーム作品に相応しいバランスを維持しながら可及的に網羅的に収集することを目指した。日本の収集家によって伝統的に用いられてきた、大正白紙、旧大正毛紙、新大正毛紙、昭和白紙という（田沢型切手）のdomesticな基本分類は、初見の方、外国人の方にも理解していただき易い表現とする試みとして、発行あるいは出現した時期によって1913シリーズ、1914シリーズ、1926シリーズ、1937シリーズと本作品では呼称する。使用面では、基本国内料金一度、基本外信料金三度の変更、そして航空郵便の開始による新料金の設定に伴う多様な使用例の変遷を可及的に網羅的に収集することを目指した。

[参考文献] 「单片にみる田沢切手」魚木五夫著 1962年。「田沢切手」西野茂雄 編集 1978年。「田沢型1銭5厘ハンドブック」天野安治 著1997年。「日本の航空郵便」成田 弘 著 2000年。「田沢切手 作品と解説」宮崎博司 著 2003年。「大正切手」山口充 監修 2014年。他。

[主な展示品] 1/2銭 1926シリーズ全型目打未使用シート。1銭 1937シリーズ櫛型目打未使用シート。11/2銭 1926シリーズ全型目打未使用シート。3銭 1角 20枚ブロック 無双野、1914シリーズ櫛型目打未使用シート、1914シリーズ目打单線12露野 6枚ブロック未使用、目打单線12中子持野 3角4枚ブロック未使用、1913シリーズ 单線12無双野1枚貼、第一種書状カバー、1926シリーズ 出現最初期データ1枚貼第一種書状カバー。4銭 1913シリーズ外信葉書適性1枚貼り初日使用例 カバー。10銭 1913シリーズ中子持野 シート。20銭 1913シリーズ单線12 中子持野ペア。25銭 1913シリーズ目打单線12ペア。50銭 1914シリーズ目打单線11貼外信使用オンピース。10円 1926シリーズ貼り実通外信書留便カバー。

## 日本普通切手 1913－1938

本作品は1913から38年までの26年間に、当時の大日本帝国において、二度のUPU料金改定、関東大震災の影響、航空郵便の開始によって、多様な普通切手が異種同額面を含めて発行された中でも、田沢昌言によってデザインされた所謂「田沢型切手」17額面に「新高額切手」2額面を加えた19額面を同時代の全額面を網羅したメインストリームにあたるシリーズとして捉え、これを額面順に収集した伝統郵趣作品です。

### 作品作製の目的

所謂「田沢型切手」「新高額切手」19額面を額面順に収集する。26年間に多様な形態変化を遂げた同シリーズの全期間を収集範囲とし、可能な限り、単純な分類に従って整理し、作品化する。形態変化の詳細な各論的追及の優先順位は高くせず、同シリーズを5フレームの伝統郵趣作品化する場合の、必要かつ十分な総論的理解のあり方を追及することを目的とする。

### 作品の構成

1/2銭から10円切手までの各額面においては、発行時期によって変化した形態の変化を、紙質、印面サイズ、銘版、目打ち、罫線によって分類し可及的網羅的に収集する。使用面においては、基本国内一度、基本外信三度の料金変更、そして航空郵便の開始に伴う、各料金を反映した標準的な使用例の変遷を可及的に網羅的に収集する。

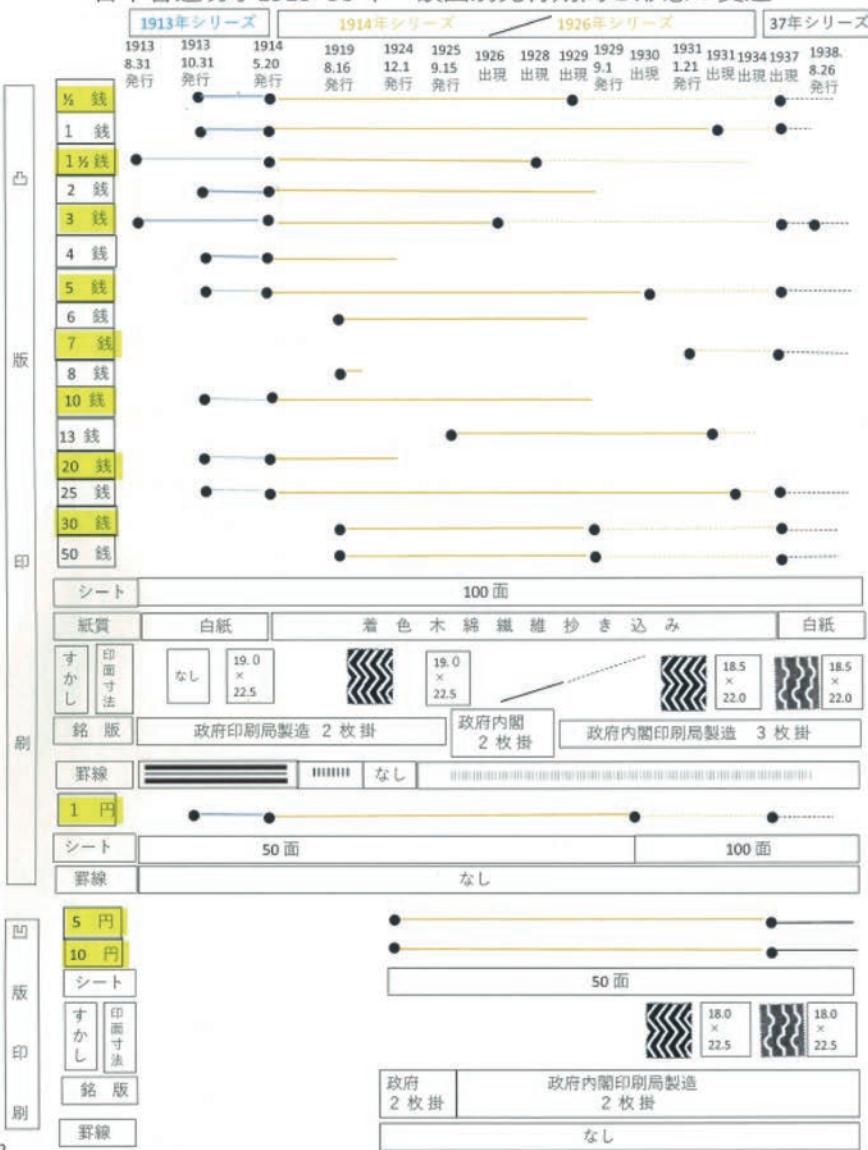
### 参考文献

「单片にみる田沢切手」	魚木五夫 著	日本郵趣協会出版部	1962 年
「田沢切手」	西野茂雄 編集	日本郵趣出版	1978 年
「田沢型 1 銭5厘ハンドブック」	天野安治 著	財団法人日本郵趣協会	1997年
「日本の航空郵便」	成田 弘 著	財団法人日本郵趣協会	2000年
「田沢型3銭ハンドブック」	天野安治 著	財団法人日本郵趣協会	2001年
「田沢切手 作品と解説」	宮崎博司著	私家版	2003年
「大正切手」	天野安治 著	日本郵趣出版	2006年
「日本切手専門カタログ戦前編 2011-12」	山口 充 監修	日本郵趣協会	2010年
「大正切手」	山口 充 監修	公益財団法人日本郵趣協会	2014年

### 主な展示品

3銭 1913年シリーズ(大正白紙)	1角 20枚ブロック 無双罫
3銭 1914年シリーズ(旧大正毛紙) 1914年シリーズ	未使用 目打單線12 3角4枚ブロック中子持罫 未使用 目打單線12 6枚ブロック霞罫
3銭 1926年シリーズ(新大正毛紙)	全型目打 三つ穴シート 未使用
3銭 1926年シリーズ(新大正毛紙)	出現最初期データ 1枚貼り適正使用例
4銭 1913年シリーズ(大正白紙)	外信葉書 1枚貼り適性初日使用例
10銭 1913年シリーズ(旧大正毛紙)	中子持ち罫 シート
25銭 1913年シリーズ(大正白紙)	目打單線12綴ペア(作製者データ 最大マルチブル)
50銭 1914年シリーズ(旧大正毛紙)	目打單線11貼外信使用オンピース

## 日本普通切手1913-38年 額面別発行期間と形態の変遷



# 出品者プロフィール



*Mr. KIKUCHI Tatsuya*

## 菊池達哉 氏

1958(昭和33)年生まれ。66歳。郵趣振興協会 正会員

父の影響で小学生時代に切手収集開始。当時の収集仲間に植松豊君がいました。祖父は旧通信省下級官吏。父は旧制弘前工業学校時代に収集開始。

16歳、全日展に「田沢切手」で入選。以後なっか~い冬眠に入る。52歳、ヤフオク「新潟上大川前」の消印が目に留まった瞬間、不思議なスイッチが入り、収集再開。今日に至る。

### 収集領域

1. 伝統「日本普通切手 1913 - 1938」
2. マルコフィリー「越後國・佐渡國の初期郵便消印」
3. オープン「フィンランド共和国」

### 受賞歴

2021 日本国際切手展

Republic of Finland -its independence and the struggle 73点 Silver

2023 JAPEX

「佐渡國・越後國の記号入番号消印 80点 大金銀

# スタンペックスジャパン2025

*JAPAN : Showa Series, 1937-46*

## 昭和切手 1937-46

作品番号 No. 4

伝統郵趣部門部門 (8 フレーム)

出品者：伊藤純英

本年は昭和100年となる年である。昭和の初めは大正切手の延長で10年ほど過ぎたが、当時の世界的切手の図案改正傾向—装飾図案から具象図案へ—の流れを受け、新切手の改正機運が高まってきた。国家的事業として多方面から選抜された人材による図案審議会を立ち上げ、数度の協議を経て昭和12年(1937年)5月11日に最初の切手2銭乃木大将が発行された。これは葉書料金であった。次いで8月1日に封書料金の東郷元帥切手、というように昭和15年2月1日富士桜図案切手発行まで19種類の切手が発行された。同図案の切手帳2種とコイル切手4種も含めた戦前発行のシリーズを第1次昭和切手という。意匠となった図案は「世界に冠たる日本」を体现する、自然風景・神社・仏閣・人物・装飾図案である。大日本帝国の版図が最大だった時期で、国力が戦前最大の時期を表現した素晴らしい出来栄えである。ぜひ作品で「みほん」加工等で初期印刷の出来栄えを見てほしい。

昭和16年12月8日米英との戦争に突入。中国戦線をも含めて、大東亜戦争と閣議決定。欧米の植民地支配からの解放を目指した戦争であった。17年4月1日封書料金等の改正。同日5銭東郷元帥切手発行。まだ連戦連勝の気分に浮かれた時期であった。しかし同年6月ミッドウェイ海戦の大敗で暗転。次第に国民生活に陰りが見え始め、19年4月1日に封書料金7銭・葉書料金3銭に改訂する頃には、用紙・印刷ともその製造能力の低下は否めない状況になってきた。20年4月1日封書料金10銭・葉書料金5銭に改訂された頃には目打なし、糊なしの切手も出現するほどの製造能力低下であった。8月15日終戦の詔勅。9月2日ミズーリ号での降伏文書調印。占領下日本の時代に入る。この戦時中に発行された22種類(目打・糊区別)の切手を第2次昭和切手と称する。この時期は南方占領地に持ち込まれて使用されたので大日本帝国史上最大の勢力圏を形成した。タイトルリーフの地図がそれである。この地図は欧米の認識で作成されたものなので、満洲・蒙古・中国占領地も含んでいる。

20年東京大空襲により印刷局消失。残った紙幣寮で少数製造できるのみになったので、民間会社のオフセット(平版印刷)による製造を計画。実際には終戦後の10月頃出現。戦時に計画、戦後に占領下日本で使用されたオフセット印刷の切手10種を第3次昭和切手と称する。

以上のように、第1次～3次は使用された歴史的背景も製造面も異なる。伝統郵趣作品として、冒頭にアーカイブ展示後は、1～3次切手ごとに、額面順に配置した。この作品でしか見られないアイテムが多数、赤枠に注目して見てもらいたい。

# JAPAN: Showa Series, 1937-46

After the first series of the Tazawa stamp appeared, 20 years passed until a new stamp issue was planned. Note that although revision of postage occurred on April 1st 1937 (Showa 12), which became the 4 sen sealed letter and 2 sen postcard, the First Showa stamp was published later on May 10th.

A feature of this series is that it has a concrete design with a different field and a new watermark came to be used.

On the manufacturing side, the differences between the printing technology of the beautiful stamp and the poor stamp of the pre-war days are interesting. This was the time when Japan had the maximum territorial gain in the war and places that could accept the postmark. During World War II the postmark was brought to the occupied territory and used with the stamps supplied there, and stamps published on the spot. It can be said that this stamp series tells us about the rise and fall of the Japanese Empire, from the time when it reached its peak to the shift in time during the war when goods were insufficient.



- I The First Showa Stamp (1937 - 1940 Issue)  
The stamp group of the issue before World War II. The 19 main number stamps, and booklet and coil stamps
- II The Second Showa Stamp (1942 - 1945 Issue)  
The stamp group of the issued in World War II.
- III The Third Showa Stamp (1945 - 1946 Issue)  
This issue was mainly planned during war. This stamp group was issued after the war.

## Contents

Classification	Engraved	Typographed	Lithographed	Gum	Perf.
First Showa Stamp	○	○	×	○	○
Second Showa Stamp	○	○	×	△	△
Third Showa Stamp	×	×	○	×	×
First Showa Stamp		(1) 5 rin-5 Sen (2) 6 sen-20 sen (3) 25 sen-10 yen (4) booklet pane & coil stamps			
Second Showa Stamp		(5) 1 sen-7 sen (6) 10 sen-20 sen (7) 27 sen-40 sen			
Third Showa Stamp		(7) 3 Sen-10 sen (8) 10 sen blue- 10 yen      ※(1)~(8)Frame number			

### FEATURES:

Collections containing the most number of items with only one known item

In this series

- 1 The rarest item (P. 113,117)
- 2 The rarest error stamp (P.37) • (p.10) NEW!
- 3 The rarest cover (P.116)

A collection containing four items above. No one else can exhibit this four leaves.

## Reference books

Title	Author	Publisher	Year
The study of Showa Series	ARAI Toshimoto	Hosunkai,JAPAN	1974
Gallery of JAPANESE STAMPS Vol.7 SHOWA Era	JPS	Japan Philatelic Publications Inc.	1981
Showa Series and the method of Collection	NARTA Hiromu	Japan Philatelic Publications Inc.	1985
Collection of the Third Showa Stamp Series	COMURA Kousaku	Japan Philatelic Publications Inc.	2000
Practical Showa Series collection CD-ROM	ITOH Sumihide	Kyushu Philatelic League,JAPAN	2003
Practical Showa Series collection	ITOH Sumihide	Nagasaki Branch of JPS,JAPAN	2006
JAPAN Specialized Catalogue 2011-2012	JPS	Japan Philatelic Publications Inc.	2010
Showa Stamp Specialized Catalogue 2015	YAMAZAKI Yoshiyuki	Narumi Co.	2015

## JAPAN:Showa Series,1937-46

First Showa Series 30 Sen Torii of Itsukushima Shrine,Miyajima issued:3 April 1939  
Engraved

Late Printing imperforated error  
only one known as imprint block of 10



This error stamp was discovered in the post office in the Sapporo city at December 1943. Afterwards, these were divided. This is a block at No.85-100 position in this seat.



# 出品者プロフィール



*Mr. ITOH Sumihide*

## 伊藤純英 氏

昭和32年(1857年)長崎県生まれ、島原市在住。公益財団法人日本郵趣協会九州・沖縄地方本部長。長崎郵趣会会长(日本郵趣協会会长崎支部長)。郵趣振興協会賛助会員。

1970年万博参観時ソ連館での1,000種貼込帳の購入を契機に、蒐集開始。1977年中央大学法学部入学、大学公認の切手研究会を立ち上げ、3年次には大学郵趣連盟(常任理事校4校、加盟20校)の会長を務めた。

卒業後、在京の出版社勤務、近畿支社配属。日本郵樂会会員、日本郵趣協会関西専門例会世話人、関西郵趣連盟昭和切手例会世話人。大阪時代5年で帰郷、長崎県立高校国語科教諭40年近く。在任中長崎県教育庁と中国国家教育部提携の国家重点大学/東北師範大学派遣、日本語専門教師として2期半計5年勤務。日本人初の優秀外国人教員表彰を受けた。現在も長崎県非常勤講師として勤務。

全日展、JAPEX出品多数。両切手展昭和切手金賞受賞は唯一。また記念切手が発行された日本開催の国際切手展5回連続出品は日本切手関連で唯一。国際展に40年以上前から昭和切手出品。地位向上に寄与した自負を持つ。

PHILATOKYO81(S), PHILANIPPON91(S), PHILANIPPON2001(V), PHILANIPPON2011(LV&V), PHILANIPPON2021(G&V)。

他にFIP展 THAILAND2018(G)。

昭和切手蒐集50年間で主要珍品/キーアイテムを一点ずつ獲得し、余人が決して再現できないリーフが多数(赤枠付アイテム参照)。昭和切手の万束60個以上所有。昭和切手では既に1次昭和作品がFIP展LG、1次・2次作品FIAP展LGに達しているが、フルスケールの1次~3次作品でFIP展LG獲得が当面の目標。

## スタンペックスジャパン2025

*Ryukyu Airmail Issue 1950-1954*

# Ryukyu Airmail Issue 1950-1954

作品番号 No. 5

伝統郵趣部門部門 (5 フレーム)

出品者：木戸裕介

本作品は琉球初期の航空郵便と航空切手を対象とした伝統郵趣作品です。1945年9月の太平洋戦争終戦後、米国統治下となった琉球では、物資不足等の状況から、昭和切手を台切手とした暫定切手発行など、郵便制度は暫定的な運用として各四群島政府（奄美、沖縄、宮古、八重山）により実施される状況が3年程続きました。その間、1948年3月にマニラ - 那覇 - 東京 - 米国間の航空路線開設に伴う航空郵便取扱が開始され、主に本土と米国を結ぶ郵便の急速通送に寄与し、取扱は拡大しました。最初の航空切手であるハト航空が1950年2月15日に、1951年10月1日に天女航空が発行され、地帯区分等も整理されながら琉球の航空郵便は世界に開かれていきます。

(作品の展開)

1. プロローグ スタンプレス時期：1948年3月15日の航空郵便取扱開始以後、1950年2月15日に最初の航空切手が発行されるまでの2年間については、航空郵便は主に料金別納印での対応がなされました。それは、従来の切手不足によるもので、航空取扱の高額な料金を切手貼付で処理することは不可能に近い状況であったためです。1948年7月1日の琉球最初の第一次普通切手が発行されるまでの間は内国、外国の平面便についても別納対応が主でしたが、航空郵便に限っては別納対応のみの状況が1年7ヶ月後まで続くことになります。

2. 第一次航空切手 ハト航空：1950年2月15日に琉球最初の航空切手であるハト航空切手が発行されました。距離別増料金の3区分に対応した額面で発行され、6月に増料金制から統合料金制に移行した後は単貼でそれぞれ3区分の適正料金となりました。琉球最初の航空切手は、当時の琉球切手最高額面3種類であり、内国郵便の特殊取扱等にも流用され、幅広く使用されました。

3. 第二次航空切手 天女航空：1951年10月1日に第二次航空切手として天女航空が発行されました。料金改定後の距離別料金3区分に対応した額面で発行され、料金制度が距離別から地帯別に移行した後も単貼でそれぞれ3区分の適正料金となりました。ハト航空と同じく、当時の琉球切手最高額面3種類となり、内国郵便の特殊取扱等にも流用され、幅広く使用されました。1954年8月16日に追加で2額面が発行され、地帯別5区分となった料金体系に合計5種類の天女航空切手で対応しました。

(本作品対象の重要性)

本作品は、琉球初期における航空郵便と航空切手について整理した作品です。琉球における郵便が安定期を迎える前の時期における、暫定的で流動的な非常に不安定な時期を対象として取扱いました。高額切手としての琉球内の内国特殊取扱にも利用された本時期の航空郵便物と切手は、琉球切手の中でも各マテリアルの収集は難しく、集積も困難な対象となっています。

# Ryukyu Airmail Issue 1950-54

## Purpose of the Exhibit

This exhibit is a study of Ryukyu Airmail Issue about the period from begining service of Airmail to 1954. This work focuses on stamps from the period before the airmail handling in Ryukyu is stabilized. This is a difficult subject to collect because of the chaotic postwar period. It shows many study and many largest multiple frankings. Detail analysis of printing variety are also shown with the exhibitor's original study.

## Plan and Remarkable Items

This section describes the outlines and Remarkable Items in each chapter. Chapters in this work were organized by purpose of issue.

### **1. Stampless period (Page 2-8)**

For the two years after the start of airmail handling on March 15, 1948, until the first airmail stamp was issued on February 15, 1950, airmail was handled mainly with postage stamps. Until the first ordinary stamp of Ryukyu was issued on July 1, 1948, both domestic and foreign airmail were mainly handled by separate payment, but only airmail was handled by separate payment. However, only airmail was handled as separate payment until one year and seven months later.

### **2. First Airmail Issue (Page 9-32)**

On February 15, 1950, Ryukyu's first airmail stamp, the Dove airmail stamps, were issued. They were issued in denominations corresponding to the three categories of increased charges by distance, and after the shift from the increased charge system to the integrated charge system in June, they were single-page with the appropriate charge for each of the three categories. The first Ryukyu airmail stamps were the three highest denominations of Ryukyu stamps at the time, and were widely used for special handling of domestic mail.

### **3. Second Airmail Issue (Page 33-80)**

The Heavenly Maiden stamps were issued on October 1, 1951 as the second airmail stamps. It was issued in denominations corresponding to the three distance-based rate categories after the rate revision, and even after the rate system was shifted from distance-based to zone-based, the rates were still appropriate for each of the three categories on a single affix. On August 16, 1954, two additional denominations were issued, bringing the total to five types of The Heavenly Maiden stamps to meet the new five-zone rate system.

## Importance of This Theme

This work is about airmail and airmail stamps in the early Ryukyu period. It covers a very unstable period in the Ryukyu Islands, when the postal service was tentative and in flux, before it reached a period of stability. The air mail and stamps of this period, which were used for special handling within the Ryukyu Islands as high value stamps, are among the most difficult of Ryukyu stamps to collect and accumulate.

## Literatures

The All Catalogue of Okinawa stamps (Japan Philatelic Society,2022)

Specialized Catalogue of the postal issue of The Ryukyu Islands Fascicle 1 (RPSS,2010)

A Postal History of OKINAWA under the occupation and Early post war (SAITO Akio,1997)

*Ryukyu Airmail Issue*

8Yen



Fourth Franking Triple Weight  
Airmail Letter destination to Japan

Since Dove Airmail issues were issued in conjunction with airmail rates, examples of the use of numerous affixes are scarce. This example is the Largest Franking Cover of this stamp.

宮古中央 (Miyako Central) 52.4.20

Airmail from Miyakojima was transported by ship to Naha and then transshipped to an airplane.

# 出品者プロフィール



*Mr. KIDO Yusuke*

## 木戸裕介 氏

1992年8月31日生 32歳 神奈川県藤沢市出身 郵趣振興協会 正会員

2004年に切手収集開始。収集対象は伝統郵趣ゼネラルとしての日本、琉球、韓国、北朝鮮、満州、南方占領地（主にビルマ）、中国占領地、イス風景、フランス種まき、エストニア、チェコスロバキア等々。郵便史として在朝鮮日本局、朝鮮戦争軍事郵便等を収集。

### 国内展賞歴

Republic of Korea Wartime Definitive	LV+SP	2021 JAPEX
South Korea 1945-46	G	2022 全日展
North Korea 1945-52	G	2022 JAPEX
Republic of Korea First Definitive Issue	G	2023 全日展
South Korea 1945-46	G	2023 JAPEX
South Korea 1945-46	G	2024 Stampex Japan

### 国際展賞歴

South Korea 1945-56	V	2021 YOKOHAMA
Ryukyu Dollar Currency Provisional Issue	V	2022 HELVETIA

## スタンペックスジャパン2025

*Sweden Definitives of OSCAR II period 1885-1911*

### スウェーデン オスカーII世時代の普通切手 1885-1911

作品番号 No. 6

伝統郵趣部門部門（5 フレーム）

出品者：五島直

本作品は、スウェーデン最初の国王の肖像切手として1885年から発行された国王オスカーII世を描いた普通切手、同時期に補助額面として発行された2色数字切手、およびオスカーII世により開局されたストックホルム中央局を描いた当時の最高額面である5Kr切手からなるオスカーII世時代の普通切手について、製造面と使用面からこの時期の特徴を俯瞰する展示とした伝統郵趣作品です。

展示構成として、製造面では国王の肖像を描いた凸版印刷から凹版印刷への移行、および製造時期による用紙の変更や色調変化を未使用と使用済みの各額面で分類し、ブルーフやテスト印刷の無目打切手に加え印刷技術の未熟により生じた多くの版バラエティのうち特徴的なものを示しています。また、この時期はオフセンターの切手が多く、できるだけ状態の良いマテリアルを取捨選択しています。

使用面では、国内の鉄道郵便と湖沼航路の蒸気船郵便、およびバルト海諸国への主要な海上郵便ルートでの使用など、この時代に顕著に発達したスウェーデンならではの郵便遞送手段を背景とした消印と使用例を分類してまとめてみました。また、本シリーズの使用時期である19世紀後半は経済活動の活発化と都市化が進展した時期であり、クラシカルな封書に見られた旧来の記述や証示印から証示ラベル加貼への移行期を示す特殊扱い郵便の例、普及し始めた企業広告封筒使用や感染症の流行に伴う検疫郵便など社会的背景を映し出す使用例の他、大陸への郵便としてスウェーデンの探検家スペン・ヘディンの中央アジア探検時の使用例を加えました。

今回の作品は、20年以上未整理ストックとともに中断していた収集を再開して初めての出品になります。作品の作成にあたり、上に述べた本シリーズ発行時期の特徴を俯瞰できるような構成を試み、そのためにふさわしいと思えるマテリアルを丹念に探して加えました。これまで国内展ではあまり馴染みのないタイトルであり、タイトルリーフと各リーフへの説明を日本語で記述しました。まずは、今回の評価を今後の改善に繋げたいと思っています。

# SWEDEN

## Definitives of OSCAR II period

### オスカーII世時代の普通切手

**1885-1911**

#### 展示の目的

本作品では、国王オスカーII世時代の1885年に凸版印刷で発行されたスウェーデン最初の国王の肖像切手、同スウェーデン最初の凹版印刷切手、合わせて発行された低額2色数字図案切手、および当時の最高額面で発行された5Kr切手までの一連の普通切手を展示します。展示内容としては、新たな印刷技術の導入に伴う製造面の変化とバルト海と湖沼に囲まれたスウェーデンならではの鉄道や船による郵便通送手段の発達や経済活動の広がりと都市化を背景とした使用面から、この時期の特徴を俯瞰する展示としています。

#### 本シリーズ発行の経緯

スウェーデンでは、1858年以来12øreであった国内郵便基本料金が1885年に10øreに値下げされるとともに、初めて国王の肖像を図案とする切手が額面10øreの凸版印刷で発行されました。その後、用紙の改善と偽造防止のために裏に青い郵便ラッパが印刷された用紙が使用されました。しかし、凸版印刷では国王の肖像に多くの版欠点が生じ色味も冴えなかったため、1886年より初めての凹版印刷導入が計画されることになりパリから新しい印刷機が導入されました。その後、4年以上にわたり凹版印刷技術の醸成と試験印刷が繰り返され、1891年3月25日にスウェーデン最初の凹版印刷切手が新たに王冠透かし入りの用紙に印刷されて発行されました。まずUPU勧告に沿って5øre緑、20øre青、10øre赤、が発行され、続いて各種郵便料金用に合わせて9種類が発行されました。併行して、市内便や補助額面用に低額の2色数字図案切手4種が発行されました。また、当時最高額となる5Kr額面切手の需要と必要性が調査され、1903年にオスカーII世によるストックホルム中央郵便局開局を記念して同郵便局を図案とする5Kr切手が発行されました。1911年になって、20øreと25øre切手が不足したため後継のグスタフV世シリーズ向けに用意されていた透かしのない紙で印刷されました。

#### 展示構成

順序	図案	版式	発行年	用紙
1	Oscar II	凸版	1885	透かしなし
2	Oscar II	凸版	1886	裏に青郵便ラッパ
3	Oscar II	凹版	1891-1911	王冠透かし、最後期透かしなし
4	2色数字	凸版	1892	王冠透かし
5	ストックホルム中央局	凹版	1903	王冠透かし

#### 展示内容

**製造面:** 凸版印刷における国王の肖像の見映え改善によるタイプ違いと版欠点、裏面郵便ラッパの有無による用紙違い、凹版印刷開始に伴うブルーフの例とテスト印刷による無目打切手、印刷技術の未熟に起因する版バラエティその他、王冠透かし入り用紙と最後期の透かしなし用紙違い、およびUPU勧告色と製造時期による色調変化を分類しています。

**使用面:** スウェーデン国内の鉄道郵便と湖沼航路の蒸気船郵便、およびバルト海域諸国への海上郵便、特にヨーロッパ交易の中心となったデンマーク、ドイツへの船郵便と鉄道郵便との連絡ルートなど、この時代に顕著に発達した郵便通送手段を背景とした消印と使用例を中心にマテリアルを選んでいます。また、クラシカルな封書に見られた旧来の記述や証示印から証示ラベル加貼への移行期を示す特殊扱い郵便の使用例、普及し始めた企業広告封筒使用や感染症の流行に伴う検疫郵便など経済活動の活発化と都市化による社会的背景を映し出す使用例の他、大陸への郵便としてスウェーデンの探検家スペン・ヘディンの中央アジア探検時の使用例を加えました。

Engraved

Oscar II

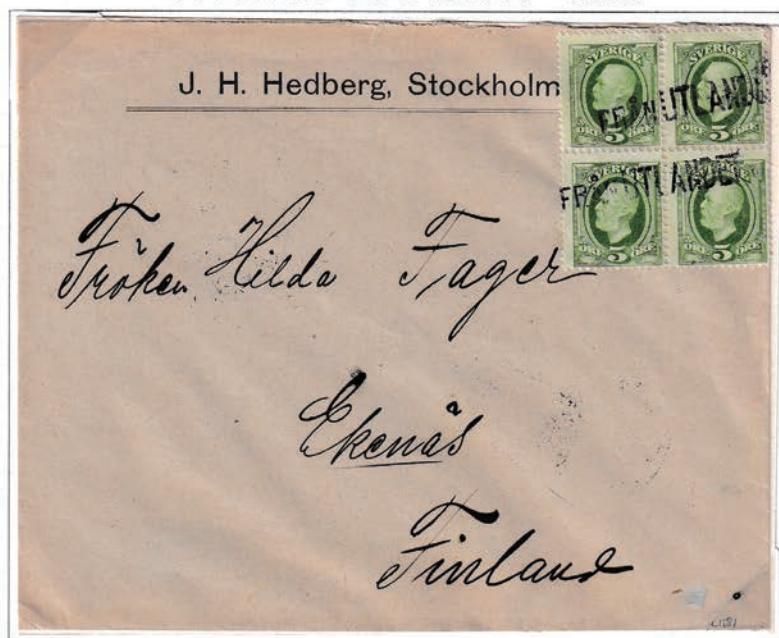
## Ship Mail to Finland Route

"FRÅN UTLANDET" (=外国より) パクボーカー扱い消印



ストックホルムからハンコ（フィンランド）への船郵便

J. H. Hedberg, Stockholm



5 öre Green 4枚ブロック貼り

ストックホルムからハンコへの船内で投函され、ハンコ到着時に  
 "FRÅN UTLANDET" 印で抹消。HANGÖ 1904.9.23 経由印（裏面）  
 EKENÄS (エケナス) 1904.9.23 到着印（裏面）  
 1895.1.1～1921.1.31のUPU外国宛て封書料金 20 öre

3か国語表記到着印（裏面縮尺80%）



# 出品者プロフィール



*Mr. GOTO Sunao*

## 五島直 氏

昭和32年 熊本県生まれ。東京都在住。

高校生時代にスウェーデンの文通友達を見つけてやり取りをする中で、スウェーデン切手の美しさに魅了されたことがきっかけで、スウェーデン切手を集めようになりました。

1980年代初めにJPS北欧切手部会の存在を知り、入会。スウェーデンのクラシックからゼネラル収集を始めるうちに、当時スウェーデン収集の第一人者として活躍されていた志垣雅文氏と出会い、人気シリーズであるグスタフVI世シリーズやライオン立像シリーズに傾注するようになり、JAPEXへ初出品しました。これらを土台に作品の拡充を進めミニペッカスなどへ出品を続けるかたわら、1987年末から志垣氏とともに北欧切手部会報の編集を担当しました。また、当時は広島へ住んでおり、スタンプショウ広島への企画展などの活動にも関わっていました。

その後、2001年に東京へ転職となったことをきっかけに収集は中断、未整理品を残したまま郵趣活動は長い休眠状態に陥りました。定年退職後、少し時間的余裕ができたことで、収集品を整理しようとアルバムやストックを調べていたところ、逆にかつての興味が蘇り、ライオンや今回展示のオスカーII世など発展途上で中断していたコレクションを再度まとめてみようと収集再開、現在に至ります。

### 国内展受賞履歴

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| JAPEX '87 グスタフ VI世シリーズ | 銅賞      |
| JAPEX '88 ライオン立像シリーズ   | 銀銅賞、住野賞 |

## スタンペックスジャパン2025

*France 1849-1860*

# France 1849-1860

作品番号 No. 7

伝統郵趣部門部門 (8 フレーム)

出品者：有吉伸人

本作品は、フランス・クラシックの伝統郵趣コレクションです。

スタンペックス・ジャパンへの出品は4回目になりますが、クリティイークで指摘された高いハーダルを少しずつでもクリアすることを目標に、コツコツと作品の改善に取り組んできました。今回、4回目にして最大規模の改変にチャレンジしています。

これまでフランスのファーストイシュー・セレスからプレジダンス、ナポレオン無目打ち、ナポレオン目打ちありの4シリーズで構成してきました。今回はナポレオン目打ちを外し、無目打ち切手3シリーズだけで8フレームを作りました。最初の出品時には28リーフあった目打ち手を去年は12リーフにまで減らし、そして今回ついに無目打切手のみに！タイトルは「France 1849-1862」から「France 1849-1860」となりました。

そして、もう一つ。最初の出品時のクリティイークから「ここを目指すべき」と言われ続けてきた「ファーストイシューのセレスだけで4フレーム」という課題に挑戦しました。クリティイークでご指摘を受けてから足かけ4年、こちらもようやく形になりました。

拙作は第1フレームにTOPICとして目玉のマテリアルを展示しています。セレスだけで4フレームというのは、冒頭のTOPICもセレスだけで構成することになります（去年はナポレオンが入っていました）。この1年、もっとも頭を悩ましたのがこの第1フレームです。展示したのはセレスの象徴ともいべき「テートベッシュ」（セレスは世界で初めてテートベッシュが登場した切手です）、初日使用カバー、そして最古カバー。運に恵まれ、とても手が届かないと思っていた複数のレア・マテリアルの入手が叶いました。（切手の神様に感謝！）。その他、全体としてもブロッケや多数貼りカバーの增量に努め、60リーフを作りました。ご高覧いただければ幸いです。

## France 1849-1860

### 【Purpose of the Exhibit】

This exhibit is a traditional philately collection of definitive stamps issued in France between 1849 and 1860, *Cérès*, *Présidence*, *Empire non dentelé* and *Empire dentelé*. Regarding manufacture, the difference of shades would be the central theme of exhibition adding die proofs, essays, many blocks and rare items represented by “*Tête-bêche*”. I also demonstrated the varieties which are the peculiar features of classic stamps. The purpose of this exhibit is to convey the features and charms of the series from both aspects, production and usage of stamps.

### 【Exhibit Plan & Remarkable Items】

The first exhibit featured representative rarities from this collection, followed by 15 stamps displayed basically in a chronological order of the date of issue. On the classification I followed examples of Maury Catalogue trying to show more delicate difference of shades. If the classification of the printing, year of the issues, plate and position could be clearly distinguished, I displayed them explicitly. Various varieties are exhibited, many of which are based on original studies. Particularly emphasis was made on the diverse usages of the stamps, which are major fascinations of this issues. This exhibit shows the various usages according to the revision of postal rates, various kinds of foreign letter, military mail and combination covers.

#### *Cérès*

[2-9p] **TOPICS:** First on display is *Tête-bêche*. 20c: Essay block of 9. Two unused pairs, block of 6 and two covers, 25c : Used pair and two covers, 1fr : Two used pairs and a cover, 10c : Two used pairs and a cover. Other **two first day covers** (20c & 25c) and the **earliest cover**(15c) are also on display.

[10-64p] Starting with essays. Remarkable items are listed below. 20c : Block of 24 and block of 25 with varieties and three 1849 January covers (Usages of month of issue cancelled in different way). 1fr *vermillon* : Four *vermillon* stamps. One of them is unused stamp with a variety showing the early stage of “*a la barbiche*”. 1fr *carmin* : Sixth weight foreign cover to Peru with twelve 1fr stamps attached. The early cover posted from French colony. 40c : Unused block of 4, used block of 8 and two famous variety “*4 Retouche*” pairs. Foreign letter mixed franking with *Cérès* and *Empire non dentelé* 10c is only two covers recorded. 15c : Strip of four. Unissued 20c : Different shades are aligned. 25c : Block of 8 (The largest block of *bleu fonce* shade) and block of 9 (the second largest block of *bleu* shade). 10c : The largest strip of 10 and the largest block of 9.

#### *Présidence & Empire non dentelé*

[65-68p] **TOPICS:** First on display is *Tête-bêche*. *Empire non dentelé* 20c : Essay block of 9 and 6 with margin , 1fr : strip of 3, 80c : used pair and cover. Other one **first day cover** (20c) and **two earliest covers**(40c and *Présidence* 25c) are also on display.

[69-76p] **Présidence** : Starting with essays and unaccepted essays. Remarkable items are listed below. 10c : Unused stamp. 25c : Different shades unused and aligned. “*Ligne d'encadrement*” stamp and “*Thurn und Taxis*” cover.

[77-128p] **Empire non dentelé** : Starting with die proof and essays. Remarkable items are listed below. 1fr : Different shades and “*Ligne d'encadrement*” stamp are aligned. Foreign cover addressed to Cuba. 40c : The second largest block of 19 and 15. 25c : last day usage of 25c rate and first day usage of new 20c rate. 20c : The military cover for the French Expeditionary force in china. 80c : Foreign letter from french post office in Alexandria. 1c : Three unused block of 4 with different shade and unused block of 24 with margin.

### 【Literature】

Maury *Cérès & Dallay Catalogue de Timbres de France 2009* / Spink Maury Catalogue de Timbres de France 2020  
*Timbres de France Le Spécialisé* (Yvert & Tellier 2000) *Catalogue Timbres de France Tom 1* (Yvert & Tellier 1975)

## FRANCE

TOPIC

*Tête-bêche*

Cérès 20 centime

Essay

*brun sur bistre**thin paper**noir sur blanc**noir sur jaune*

Cérès 20c noir is the first stamp with tête-bêche. On the left half-plate of plate 1 , position 92 110,148 is inverted. Plate 2 have no tête-bêche. Position 92 on the left half-plate of plate 3, position 115 on the left half-plate of plate 4 is inverted.

# 出品者プロフィール



*Mr. ARIYOSHI Nobuto*

## 有吉伸人 氏

昭和38年生まれ。団体職員。郵趣振興協会 正会員

小学、中学時代に切手収集を楽しむものの、長らく中断。2004年頃に、  
収集を再開し、フランス・クラシック切手を中心に、フランスの郵便史、  
スイスの不足料切手などを楽しんでいます。

### 国内受賞歴

Napoléon non lauré ~France 1852-1862~ 5 F  
 J A P E X 2 0 1 5 G 住野賞  
 全日展 2 0 1 6 L G 通信文化協会賞

France 1849-1862 8 F  
 J A P E X 2 0 1 7 L G  
 スタンペックスジャパン 2024 L G グランプリ

Ceres 1849-1850 3 F  
 全日展 2 0 1 8 G

### 国際展受賞歴

Napoléon non lauré ~France 1852-1862~ 5 F  
 China 2016 G  
 Indonesia 2017 G

France 1849-1862 8 F  
 Stockholmia 2019 G

## スタンペックスジャパン2025

### URUGUAY 1856-1884 ウルグアイ 1856-1884

作品番号 No. 8  
伝統郵趣部門部門 (5 フレーム)  
出品者：槇原晃二

本作品は、1856年から1884年の間に南米のウルグアイで発行された初期の切手を対象として製造面と使用面で示した伝統郵趣の作品です。製造面に関して、ブルーフ、シェード、版の位置、版欠点、用紙、目打など変化に富んだシリーズが多く、合わせて国内及び外国郵便のカバーを示し、この時期のウルグアイでの切手全体の流れを概観できるものとしました。

ウルグアイでは、1856年10月に最初の切手3種類を発行しました。国家による郵便制度を確立しないまま、政府は有力な駅馬車会社経営者ラピドを郵便管理官に任命して公用書状の配達を委託しましたが、ラピドは切手を発行し、民間の書状も取り扱いました。最初に出された切手には、国名表示や郵便切手という文字ではなく、乗合馬車を意味するディリゼンシア (DILIGENCIA) という文字が書かれています。また、これらの切手が使用された書状は、消印が使われなかったため、切手が抹消されていなかったり、ペン消しがされていました。

1858年3月には、ラピドから新たに3種類の新切手が出されましたが、政府は同年8月に切手の使用を禁じ、ウルグアイでは約1年間の切手の空白期間が続きました。その後、1859年6月には、ウルグアイ政府による正式な切手が発行されました。ウルグアイ初期の一連の切手には、太陽をかたどった自由の女神像が描かれ、「モンテビデオ・サン」と呼ばれています。1866年以降は、英國や米国など海外印刷の切手も発行されています。

初期の切手は石版で印刷されましたが、石版印刷は細かい模様には向いていません。そのことは多くの版欠点につながり、初期のウルグアイ切手では、2次原版のタイプ別リコンストラクションが可能となっています。

この展示では、リコンストラクションや初期のカバーを注目材料としています。ウルグアイの初期切手は、南米の中でも奥行きが深い収集対象といわれ、様々な展開ができるものとなっています。

# URUGUAY 1856-1884

## Purpose of the Exhibit

The purpose of this exhibit is to show the early stamps issued in Uruguay between 1856 and 1884.

## Scope

The scope of this exhibit is a study of definitive stamps issued in Uruguay from 1856-1884, primarily printed using lithography or typography. This exhibit shows the characteristics of each series from both the manufacturing and usage aspects.

## Plan and Remarkable Items

It consists of classification in the manufacture: proof, impression, varieties, color shades, papers, plate positioning, perforation, postmarks; and the usage including covers of domestic and overseas mail. It also provide an overview of how the stamps were changed in this period. My original studies include the classification of paper and the display of various plate flaws.

series	page	Plan and Remarkable Items
<b>1856 Carrier Issue</b>	2-4	Starting Carrier Issue. Classification is based on type. <b>80c cover(one of thirteen covers recorded)</b> <b>1r cover(one of five covers recorded)</b>
<b>1858 Carrier Issue</b>	5-8	Classification is based on type. <b>180c Plate Reconstruction</b> <b>240c Plate Reconstruction</b>
<b>1859 Government Issue</b> <b>Thin Numerals</b>	9-14	It shows blocks, type, shade. 60c block of 6, 180c block of 21, 100c cover, 240c cover
<b>1860 Government issue</b> <b>Thick Numerals</b>	15-24	It consists of reconstruction, shade, cancels. 60c Slate Green reconstruction, 100c block of 4, 80c reconstruction, 120c reconstruction, 180c cover
<b>1864-1866 Escudos Issue</b>	25-32	It shows many blocks, type. 6c cover, 10c Tete-Beche Pair
<b>1866 Numeral Issue</b> <b>Imperf</b>	33-39	It consists of proof and type 5c die proof, 10c block of 15
<b>1866-1867 Numeral Issue</b> <b>with Perforation</b>	40-53	5c reconstruction, 10c reconstruction, 15c reconstruction 10c cover with Italian postage due stamps. 20c cover
<b>1876 The Welker Essay</b>	54-66	Welker Essay, 1c cover
<b>1877 -1880 Value Issue</b>		It shows various cancels.
<b>1881-1884 National Symbols</b> <b>Issue etc</b>	67-76	<b>Overprinted Issue 2c Printed matter wrapper to abroad (only one known).</b>
<b>Sheet of 100</b> <b>National Symbols etc</b>	77-79 (Wide)	National Symbols Issue 2c(1882 No1-100), El Sol de Mayo Issue 5c(1884) etc

## Literature

“THE POSTAGE STAMPS OF URUGUAY” (EMANUEL J.LEE)

“CIARDI CATALOGO ESPECIALIZADO DE LOS SELLOS DEL URUGUAY 2006”(CIARDI)

“TARIFAS” (Dario Ciardi)

“URUGUAY STUDY OF POSTMARKS ON LARGE “NUMBERS” Issues 1866-1868”(Club Filatelico del Uruguay)

## URUGUAY

Montevideo Suns

1858

"El Sol de Mayo" Carrier Issue

240c Red

Complete Plate Reconstruction(Type 1 to 30)

The "blank space" in position 23

Initially issued for exclusive use on mail carried on the regular packet boat service between Montevideo and Buenos Aires, this issue was withdrawn from sale on 5 August 1858 although the Post Office allowed.



## Ex Magnolia

The 240c printing stone of 204 subjects, arranged in seventeen rows of twelve, was created by making six separate transfers from the intermediate transfer block of thirty for the first fifteen rows (180 subjects). To make the two bottom rows (24 subjects), the printer divided the transfer block into two blocks of twelve. The transfer block of thirty included one 180c design in error, which was transferred to seven positions on the printing stone. After a short print run, the printer erased the 180c transfers and left seven blank spaces, rather than entering the correct 240c transfers.

# 出品者プロフィール



*Mr. MAKIHARA Koji*

## 楨原晃二 氏

昭和30年(1955年)広島県生まれ、広島市在住 広島蒐郵会代表、郵趣振興協会 贊助会員

大学時代に、田辺猛さんの名著「小判切手の集め方」の影響を受けて小判切手収集に憧れ、1977年地方郵趣会としては小判切手収集が盛んだった広島蒐郵会に入会しました。同じ広島県(尾道市)在住の天野安治さんや大橋武彦会長の指導を受けながら、切手の分類、収集の深さ、面白さを知りました。

JAPEX'84へ日本ゼネラル作品「日本普通切手 1871-1952」を出品した後は、長い長い中断時期に入りました。20年後の2008年eBayでの切手購入を知り、米国切手の収集でフィラテリーの世界に戻っています。ウルグアイ切手については、渡辺勝正さんのJAPEX'71グランプリ「19世紀のウルグアイ切手」のリーフを「郵趣」誌上で拝見し、いつかこれらの魅力的な切手を集めたいと思っていました。郵趣活動では、現在、日本郵趣協会中国・四国地方本部、スタンプショウ広島実行委員会などにも関わっています。

### 切手展受賞歴

JAPEX2019 「南方占領地オランダ領東インド 1942-1945」	金銀賞
JAPEX2021 「米国普通切手 1847-1888」	大金銀賞
JAPEX2023 「日本普通切手 1871-1937」	大金銀賞
STAMPEX JAPAN2024 「オランダ領東インド 1845-1932」	大金銀賞
JAPEX2024 「ブラジル普通切手 1843-1878」	大金銀賞
FIP 専門世界展 URUGUAY2025 「URUGUAY1856-1884」	金銀賞

# スタンペックスジャパン2025

*International Usage of Post Cards*

## 私製はがきの外国宛使用

作品番号 No. 9

郵便史部門部門 (5 フレーム)

出品者：安藤源成

小生の収集のモットーは、「切手は使用されて蘇る」である。「何時？何処で？どの様に？」使用されたかに趣をおいて収集してきたので手紙・はがきに無駄なものは一才無い。

今回の展示は「The Japanese Foreign Postal Card」シリーズの「連合はがき」「外国宛国内はがき」に次ぐ「外国宛て私製はがき」である。

明治33年10月1日に「外国宛て私製はがき」が使用可能になったので、菊切手が使用された、はがき料金「4銭」を中心で展示了した。2009年に、昨年で終了した「全日本切手展」に3フレーム出品したものに、大正切手、在外地の日本局、外国クラシックに切手を加貼したものを加えて2フレーム展示了。即ち、日清戦争以降の在中国ドイツ軍、フランス軍MILITARYが合わせて展示了されている。

## The Japanese Foreign Postal Card

### 私製はがきの外国宛使用 The Foreign country for the use of the original postcard

小生の収集のモットーは、「切手は使用されて蘇る。」である。「何時?何處で?どの様に?」使用されたかに趣を於いて収集してきたので手紙。はがきに無駄なものは一才無い。

今回の展示は「The Japanese Foreign Postal Card」シリーズの「連合はがき」「外国宛国内はがき」に次ぐ「**外国宛私製はがき**」33年10月1日に「**外国宛私製はがき**」が使用可能にあったので、菊切手が使用されたた。はがき料金「4銭」を中心展示了。2009年に「全日本切手展」に3フレーム出品したものに大正切手、在外地の日本局、外国クラシックはがきに切手を加貼したものを加えて2フレーム展示了。即ち、日清戦争以降の在中国ドイツ軍、フランス軍 MINITALY MAILを合わせて展示了。

明治28年日清戦争に凱旋した日本は文明開化が加速し、外国との交流が盛んになり、外国宛郵便物が激増し、日本の様子を海外に伝える写真や絵はがきが海外に多数送られた。そのために「小判」切手の2銭・4銭の需要が増し32年1月1日に2銭、4銭が菊切手の他の額面に先駆けて発売された。

#### 私製はがきに関するする事項

- M.10(1891). 6.20. UPU 加盟 はがきの外国宛料金設定 3銭、5銭、6銭。
- 11.20. 万国郵便連合はがき 3銭、5銭、6銭 発売。
- 24.(1891)10.13. 通達により 加盟国宛の葉書は「万国郵便連合はがき」に限る。
- 26.(1893) 3. 3. 国内はがき、切手を貼ったはがきは印面、切手を抹消せし無効として親書扱い。
- 27.(1994). 5.12. 国内はがきの外国宛使用開始。
- 30(1899). 10. 1. UPU加盟国宛 はがき 4銭 印刷物(絵はがきを含む 50g迄) 2銭。
- 32.(1899). 1. 1. 菊切手 2銭・4銭 発売 後に 菊切手順次発売。
- 33(1900). 1. 11. 「支那」「朝鮮」加刷発売。1901.3.31.「朝鮮」使用禁止
- 10. 1. 私製はがき使用可
- T. 2.(1913). 8.31. 大正切手 1½銭、3銭 発行。 10.31.他額面発行
- 11. (1922). 12.8. 在「支那」國。「志那」字入り切手使用禁止。

#### 私製 萬国郵便聯合葉書



局で発売?

## The Japanese Foreign Postal Card

私製はがきの外国宛使用 The foreign country for the use of the original postcard

1912

DAMAGED BY FIRE



菊 4 錢 Cherry Blossom 4-Sen ◎神奈川・( ) 1.12.12.前 8-11. → Siberia → England  
山下隊員から、英國在隊中の吉岡司令官に宛てたものです。途中火災により損傷。地上火災か飛行事故か判断  
できない。

From Yamashita's unit, addressed to Commander Yoshioka while he was in the UK. Damaged by fire en route. Unable to determine whether it was a ground fire or a flight accident.



裏面

前コレクターの書き込み

PIONEER AVIATION

JAPAN-1912. THIS CARD RECORDS THE CONSTRUCTION OF THIS AIRPORT AT ZUSHI ISLAND OPPOSITE NATSU SHIMA. THIS STAMP IS STATED THAT THIS ISLAND HAS BEEN COMPLETELY RUINED BY IT. THIS CARD WAS POSTED AT ZUSHI ON 1.12.12. THIS CARD ALSO CONGRATULATES LIGHT COMMANDER YOSHIOKA ON HIS PROMOTION.  
IT IS OF INTEREST TO NOTE THAT VICKERS BUILT THIS FIRST BRITISH AIRSHIP IN 1911. (THIS CARD BEING ASSIGNED TO VICKERS)

THIS CARD WHICH HAS BEEN DAMAGED BY FIRE, IS INSCRIBED AT BASE, TYPE B AIRSHIP WITH OFFICIAL PILOTS. THE SENIOR HAS ADDED THE CITY ZUSHI.  
THE SENIOR IS 6-45 AND HIS NAME YAMASHITA. IT IS OF INTEREST TO NOTE THAT JAPAN PURCHASED ITS FIRST PARASOL AIRSHIP FROM GERMANY LATER IN 1912. (FLIGHT MAGAZINE 1912.)

# 出品者プロフィール



*Mr. ANDO Gensei*

## 安藤源成 氏

昭和13年生まれ、自営業。郵趣振興協会 正会員

小学4年生の夏休みの自由研究の宿題に自宅に沢山あった切手、収入印紙、取引高税証紙を藁半紙に貼って、提出したのが蒐集の始まり。中学校を岡山市内に転校して「岡山郵趣会」に入会し吉田景保氏の消印講座を毎回聴き、「消印党」と成了た。

平成5年、自宅が全焼し、コレクションの8割を焼失したので蒐集を一時止めと思ったが、幸い、アルバムに整理していた地元のエンタイヤ、葉書は大部分がキズモノと成了たが焼け残った。その後、3名の先輩からコレクションを譲り受けて収集に火が着いて今日に至る。「切手、葉書は使用されて甦る」が小生の蒐集のモットーである。

### 国際展・アジア展

2001	JAPAN WORLD	LV
2010	LONON INTERNATIONAL	V
2011	JAPAN WORLD	LV, V
	ROCUPEX TAIPEI	G
2013	THAILAND WORLD	LV
	FIP WORLD AUSTRALIA	LV
2014	PHILAKOREA	LV
2016	NEW YORK WORLD	V
	PHILATAIPEI	LS
2017	FIAP MELBOURNE	V
2022	HELVETIA 2022	G

### 個 展

平成12年8月 大阪 (財) 郵趣文化センター  
 平成30年3月 東京 郵政博物館

## スタンペックスジャパン2025

*U.S. Postal Activity In China 1802-1922*

# 在中国アメリカ郵便の活動 1802-1922

作品番号 No. 10

郵便史部門部門 (8 フレーム)

出品者：大場光博

アメリカと中国の 19 世紀は激動の時代です。

1. 西部開拓 アメリカはイギリスから 1776 年に独立した大西洋沿岸東部 9 州の国家です。ア巴拉チア山脈を超えて先住民の土地を略奪しながら西部開拓を進め 1848 年のメキシコ戦争でカリフォルニアを手に入れて太平洋岸に届きアジアへの関心が高まりました。
2. 阿片戦争 中国の清朝時代はアジアの大國で隣接する朝鮮・ベトナム・琉球等とは朝貢のみでした。イギリスが貿易超過の銀流出を防ぐ為に阿片戦争で勝利し 1842 年南京条約で五港を開港させ、アメリカも 1844 年望廈条約で同様の恩恵を享受しました。
3. 鯨を追って西太平洋へ 中国への関心が高まったのはアメリカの一大産業だった 18-19 世紀の捕鯨です。大西洋近海の抹香鯨を取り尽くすとアメリカの船団は捕鯨母港 Nantucket, Rhode Island 沖から南米大陸南端のホーン岬を経由して西海岸沿いに太平洋を北上しました。1819 年頃からアメリカの捕鯨船が西太平洋の日本近海を目指し、1822 年には 60 隻以上の捕鯨船が鯨を追って 2 ~ 3 年間追撃しました。鯨油は照明にそして髪はコルセット等に活用されました。冷蔵庫のない時代では鯨肉は海へ投棄されました。アメリカ捕鯨は Nantucket 島周辺に 1844 年頃には捕鯨船が 644 隻になり鯨取り船員は 17,600 人へと拡大しました。
4. ベリー提督の黒船来航 1853 年ベリー提督が来日して函館開港を目論んだのは津軽海峡を年間約 200 隻のアメリカ捕鯨船が通過して日本海の抹香鯨を捕獲していたからです。ベリー艦隊は再来日の翌年 5 月 17 日から 2 週間を箱館と松前沖に滞在しました。
5. 航路日数の短縮 ニューヨークからの中国航路はイギリス郵船時代には大西洋から希望峰へとインド洋を経由して 100 ~ 150 日でした。1867 年上海アメリカ局の開設時に太平洋横断航路も新設して 1869 年アメリカ大陸の横断鉄道も開通しました。更にスエズ運河が 1869 年に開通後はロンドンとボンベイ間の距離が 1/3 に短縮されました。
6. 交通手段と料金 帆船から蒸気船になり駅馬車から鉄道や自動車が現れて時間の短縮がなされました。中国とアメリカ間の郵便料金はイギリス経由の 45-57 ¢ から 1867 年上海局開設時に封書 10 ¢ から 5 ¢ へ。1903 年に国内料金と同一の 2 ¢ に値下げしました。

アメリカと中国の 120 年間の郵便史 ( 料金・経路・消印 ) を研究しました。

各リーフをご覧下さい。

# 在中国アメリカ郵便の活動

## 1802～1922

1786年アメリカ領事館が広東に設立されて「中国貿易」が始まり、1867年6月11日に上海のアメリカ領事館内に郵便取扱所が設けられた。そして1887年天津局が短期間活動した。この作品は1802年最初期のスタンプレス時代から1919年の加刷切手を経て1922年12月31日閉局迄の120年間の郵便史(料金・経路・消印)を研究しました。

### 第1部 郵便取扱所設立の前史 1802-66

#### 第1章 前史 1802～1838

1784年8月 アメリカ商船 Empress of Asia が広東に到着し中国貿易が始まる。1786年広東に最初のアメリカ領事館を設置。  
(参照. 3 page) 1802 広東から捕鯨港Nantucket, Rhode Island宛、中国からの最初期のカバー。  
(4 page) 1812広東の特許商人HouquaからRhode Island宛の商業文。夷人(外人)は特許商人としか取引できず大変不便を被っていた。

#### 第2章 阿片戦争・南京条約 1839～1866

1839年11月第1次阿片戦争が勃発する。  
1842年英国は南京条約を締結して広東・福州・廈門・寧波・上海の5港を開港。アメリカも1844年望厦条約で同様の恩恵を享受する。  
1846年米国領事Sir.Rutherford Alcockが上海に着任、しかし郵便事業は未設で英國領事館郵便、或いは商船を活用した。上海居住の外国人は1848年159名、米国人のシェアが増大。1848年 米国から中国宛の郵便は英國経由で郵送。1852年上海から米国宛の英國郵便の料金は半オンス1シリングを1シリング8ペンスに値上げする。  
(18 page) 1851 ベリー提督艦隊サラトガ号宛カバー  
(17 page) 1855 広東からアメリカ1¢切手貼 Boston 宛の最古カバー。

#### 参考文献 ①. 郵便史研究. 第50-51号. 2020-21年

- 「在中国アメリカ郵便史」大場光博、②. 華郵集錦.II
- 1. 「在中国アメリカ郵便史」水原コレクション1982、
- ③. "The United States Post Office in China and Japan 1867 to 1874" R.C.Frajola ④. SPINK London,2003. M.Mizuhara Collection "The United Post Offices in China."

### 第2部 アメリカ郵便局の設立 1867～

#### 第1章 アメリカ上海局の活動開始 1867～1874

1867年1月香港とSan Francisco間にThe Pacific Mail Steamship companyが就航。1867年6月上海アメリカ領事館内に郵便取扱所設置。1869年2月香港より東廻り米国経由で英國宛料金は西廻り経由と同じ24¢に値下げ。1869年5月米国大陸横断鉄道開通し上海-New York間は英國経由より1ヵ月以上短縮。

#### 第2章 アメリカ局の展開・天津局 1875～1902

1875年11月上海から本国宛の料金10¢を5¢に値下げする。天津局は1887年に設置された。

#### 第3章 Shanghai Local Post 1863～1896

1863年6月英米仏により上海工部局設立。米国コンビネーションカバーは大変少ない、

#### 第4章 アメリカ局の繁栄 1903～1918

1903年6月米国宛は国内料金2¢を適用して値下し、1907年9月取扱量が激増して上海36号に新局舎を建設する。

#### 第5章 1919-1922無加刷カバー

1919年7月加刷切手発行後も通常切手の使用が並行されて加刷切手活用は窓口提出のみ。

#### 第6章 加刷切手の発行 1919～1922

1919年5月24日上海加刷切手16種(1¢～2\$)を発行。7月1日上海局窓口で本国宛郵便のみに使用。1922年7月3日 Cts.の加刷切手2種を発行。1922年12月31日上海郵便局長C.S. Ford大佐はアメリカ上海郵便局を閉局する。

**United States Post Offices****Forerunner-Pre-Agency Period****Naval Lyceum at New York****1852 U.S. Ship Saratoga of the East India Squadron, Via Naval Lyceum at New York**

"US Naval Lyceum/  
full-rigged ship"



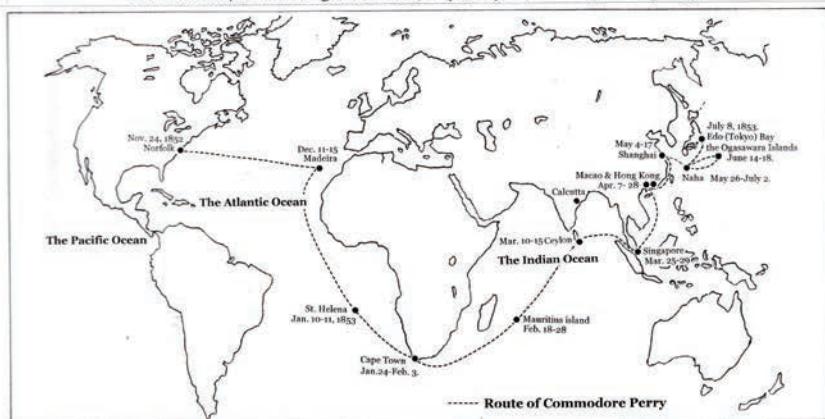
1852 oval cachet

The Lyceum at the Brooklyn Naval Yard in New York acted as the forwarder for the U.S. Navy.

1850 (30 Dec.) envelope (with original enclosure) to "U.S. Ship Saratoga of the East India Squadron, Via Naval Lyceum at N. York", showing "Brunswick, Me." dispatch c.d.s. (3.1) in red with matching "Paid 10" Straight-line h.s. and "US Naval Lyceum/full-rigged ship" oval cachet, endorsed "Rec'd. Hong Kong February 9, 1852, Per Susquehana", scarce usage from the Sewall correspondence.

**1852 Warship cover for Saratoga of fleet flagship SASUKEHANA sending of a U.S. Navy Commodore Perry**

**Flagship route figure of Commodore Perry**  
From Norfolk, State of Virginia to Edo (Tokyo) bay. 24 Nov. 1852-8 July 1853



# 出品者プロフィール



*Mr. OHBA Mitsuhiko*

## 大場光博 氏

北海道網走郡美幌町 1946 年出生。郵趣振興協会 正会員

### 学歴

日大工学部建築学科 1969 年卒業、工学院大学大学院修士課程 1971 年修了

### 職歴

日大工学部建築学科 1971 年助手、(株)日白都市建築研究所 1980 年副所長、(株)都市建築デザイン研究所 2002 年専務取締役、現職 2025 年不動産経営。

### 最近の国内展受賞歴

- JAPEX' 97 金賞・グランプリ「中国書信館」
- JAPEX' 14 大金賞・グランプリ「アメリカ上海郵便局とその前史 1802-1922」
- JAPEX' 22 大金賞・チャンピオンクラス「在中国初期外国郵便 1745-1898」
- 2024 第 74 回 全日本切手展 金賞「中国アメリカ郵便局 1802-1922」

### 最近の国際展受賞歴

- F.I.P. ST.PETERSBURG 2007 "China Municipal Post of Treaty Ports 1865-97" 大金賞
- F.I.A.P. MACAO 2018 "U.S. Postal Activity in China 1802-1922" 大金賞
- F.I.P. iBRA 2023 "Early Mail and The Foreign Post Offices in China, 1745-1897" 金賞
- F.I.A.P. THAILAND 2023 "Early Maritime Mail and The Foreign Post Offices in China, 1745-1897" 金賞

### 文献

- 郵便史研究 第 50-51 号 2020-2021 『カバーが語る 在中国アメリカ郵便史 1802-1922』

# スタンペックスジャパン2025

*Postal History of Kiautschou in China 1898-1949*

## 膠州地域の郵便史

作品番号 No. 11

郵便史部門部門 (8 フレーム)

出品者：福田真三

この展示は、中国山東半島の南岸に位置する膠州（青島）地域と山東鉄道沿線の郵便史です。期間は1898年青島にドイツ海軍野戦郵便局が設置されてから、日本の占領期間を経て、中華民国が撤退した1949年までです。以下の順序で展示しました。

### 1. ドイツ租借時代

- ①ドイツ青島局の開局、②ドイツ局の発展、③ドイツ租借下の中国の郵政（大清郵政・中華郵政）、④ドイツ租借時代の終焉（日独戦争）

### 2. 日本租借時代

- ①日独戦争、②日本野戦局の展開、③普通局・軍事局に変更、④日本租借時代の終焉

### 3. 日本撤退の中華郵政

- ①北洋政府の時期、②国民政府の時期、④日中戦争、⑤戦後の中華郵政

昨年スタンペックスジャパン2024に出展し、クリティークを参考に修正を行いました。また、新たに入手したマテリアルに交換するなど、郵便史として工夫を行いました。各リーフの主な修正点は以下の通りで、わかりやすくできたと思います。

#### ①マテリアルの貼り付け位置

特に1リーフに2点の横型のマテリアルを貼るときには、上下の貼付位置を左右にずらして、左右のスペースに、遅送路・郵便料金・使用期間を記入しました。従来の展示よりスッキリして見やすくなっています。

#### ②タイトル

各マテリアルのタイトルを太字にしていましたが、強調したいことのみを太字にすることで、マテリアルを展示した理由が強調できたと思います。

#### ③説明文

郵便史では出来事を説明する文章を記入することができます。そのようなときには説明文を最下段にして、その説明文のタイトルには下線付きにしました。

クリティークで指摘された項目を基に修正して、本年2月のウルグアイ国際展に出品してGを受賞できました。国際展に参加できない中で、スタンペックスジャパンは貴重な展示会だと思います。クリティークに制限時間はありませんので、詳しく聞くことができます。国際展を目指していますので、今後も活用させていただきたいと思います。

Postal History of Kiautschou in China 1898-1949

## Postal History of Kiautschou in China 1898-1949

### Purpose of the exhibit

This exhibit shows the postal history in Kiautschou area, southern coast of the Shandong Peninsula in China. It covers the period from the establishment of the German Naval field post office (FPO) in Tsingtau in 1898 through the Japan's lease period until 1949, when the Republic of China Postal Service withdrew from this area.

This exhibition reveals the transition of the postal services and rates administered by Germany, Japan and China during the turbulent period based on my detailed original studies.

### Plan and Remarkable Items

#### 1 GERMANY's LEASE PERIOD: 1898-1914

- 1.1 [p.2-14] **Opening of Tsingtau Post Office:** Opening of the German Tsingtau PO and Postmarks were frequently changed. Revised Postage Rate for Leased Lands, *The Provisional "5 pf" surcharged Stamps (p.7-8)*. Opening of the traveling post offices on Shanghai-Tientsin liners and Shandong Railway.
- 1.2 [p.15-32] **Expansion of Postal Services:** German POs inaugurated at major stations and Leased Territory. The Trans-Siberian Railway opened, but soon suspended due to the Russo-Japanese War, and again reopened. *Combination Cover of German and Russian stamps (p.19)*.
- 1.3 [p.33-48] **Chinese Postal Service under the German's Lease Period:** Special rates to Tsingtau. Mail before joining the UPU (mail from China had to be handed over to one of the foreign POs in China for further forwarding, which made *Combination Covers of Chinese and Foreign stamps as (p.34, 35, 36, 37-lower)*. *Chinese Exchanging PO established (p.37)*. Mail after joining the UPU (from March 1, 1914, mail could be sent directly to foreign countries, p.48).
- 1.4 [p.49-52] **The End of the Germany's Lease Period:** The impact of WWI on mail, among them is mail transported by the Shandong Railway and the Trans-Siberian Railway. *The Latest Mail of the Germany's Leased Period (p.52)*.

#### 2 JAPAN'S LEASE PERIOD: 1914-1922

- 2.1 [p.53-60] **Japanese Field Post Offices in Shandong during the German-Japanese War:** Earliest items from FPOs including FDC. Mail from Naval Ships Post. Prisoner-of-War Mail to and from Japanese POW camps.
- 2.2 [p.61-76] **Period of Japanese Field Post Offices:** Mail of around the time of requesting a lease from China. The Shandong Railway and the Trans-Siberian Railway. The Leased Territory and Shandong Railway Attached lands. Chinese PO under Japanese Administration. Tsingtau-Osaka Liner.
- 2.3 [p.77-92] **Civilian and Military Post Offices:** FPOs changed to civilian POs and MPOs. New POs installed inside and outside the leased territory. *Combination Cover of Japanese and Chinese stamps (p.86)*. Assigned international exchange POs. *Only Two Covers known from Weihaien Exchange PO (p.88)*. Free Military Mail Ended (Limited).
- 2.4 [p.93-96] **The End of the Japan's Lease Period:** Activities of Chinese POs in the Japan's lease territory (p.93), The Earliest and Latest usage of Trial machine cancellation (p.95). *Last Day Covers from Japanese Tsingtau PO (p.96)*.

#### 3 CHINESE POST AFTER JAPAN'S RETREAT: 1922-1949

- 3.1 [p.97-104] **Beiyang Government Period: Tsingtau PO became the 1<sup>st</sup> Class and the International Exchange PO (p.97)**. Domestic postage for only 2 months (p.98-left). Tsingtau Branch POs and 2<sup>nd</sup> and 3<sup>rd</sup> class POs. Name changed to "TSINGTAO". Official Reopening of the Trans-Siberian Railway. Railway POs on the Shandong Railway. Japanese MPOs established during the Tsinanfu Incident.
- 3.2 [p.105-114] **Nationalist Government Period: Consignee's Cover (p.105-106)**. International Postal Rates changed in 5 months. *Combination Cover from Mukden (p108)*. The founding of Manchukuo limited the use of the Trans-Siberian Railway. *Only Recorded Machine Cancel of Tsingtau PO (p.110-left)*. PAQUEBOT mark of Tsingtau. Airmail service started domestically and internationally.
- 3.3 [p.115-122] **The Sino-Japanese War Period:** Postal Rate of CNC and FRBC. Japanese Monopoly of Air Routes in North China. Stamps and postmarks under the Japanese Puppet Regime. Weihaien Civil Assembly Center.
- 3.4 [p.123-128] **Postwar Period:** Stamps issued by the Japanese puppet government. Postage rates revised frequently due to the hyperinflation. *"Tsingtau 10c" Surcharged stamps issued in silver yuan currency (p.128)*.

#### Original Study

1. In Germany's lease period, some literature says the domestic charges were revised on July 1, 1908 in Neutral Zone same as outside Leased Territory. But Neutral Zone was revised on May 1, 1899 same as Leased Territory (p15-lower & p16-upper).
2. In Japan's lease period, I discovered two types of provisional postmarks used and official documents when the Field Post Offices were suddenly converted to Military Post Offices on Feb 5, 1920 (p.81-82).
3. In China Post period, no details have been reported on the Consignee's Covers to date. I have now discovered several letters of consignment to shipping companies under China Post (p.105-106).

#### Reference

- Die Postwertzeichen und Entwertungen in den Schutzbereichen, Albert Friedemann
- Deutsche Kolonien und Auslandspostämter, Dienstzweige und Portotarife, Briefpost, Michael Jäschke-Lantelme
- A Concise Catalogue of Postal Cancellation of China 1892-1949 (1)~(10), Paul K. S. Chang
- Japanese Military History in Tsingtau Nov, 1914 - Sep, 1917, Ministry of the Army

## 1.1. Opening of Tsingtao Post Office

2<sup>nd</sup> Provisional Issue

Route: Tsingtau Jul 23, 1900 → Marseille → München → Dresden Aug 30 → Zeithain Aug 30

Period of Use: "TSINGTAU / KIAUTSCHOU \* a" Jan 5, 1900 to Nov 6, 1914

Validity of this stamp: Jul 19, 1900 to Dec 31, 1900

Rate: 5pf (postcard rate to Germany)

Provisional Surcharges

**5 Pfg.**

"5 Pfg" 1<sup>st</sup> surcharge  
May 9, 1900 ~

**5 Pf.**

"5 Pf" 2<sup>nd</sup> surcharge  
Jul 19, 1900 ~

(scale: 150%)

Provisional Stamp

On May 1, 1899, the postage rate for postcard to Germany was changed from 10Pf to 5Pf. Tsingtao Post office had a large amount of 10Pf stamps, but a small number of 5Pf stamps, which were previously for the printed matter base rate.

When 1,000 replacements arrived by steamer DRESDEN on April 20, 1900, 5Pf postcards and stamps ran out, and then, 50,000 copies of 10Pf stamps were surcharged "5 Pfg." and released on May 9, 1900 for the 1<sup>st</sup> provisional issue.

Shortly afterwards, 1,260 replacements arrived by steamer KÖLN on Jun 16, 1900, and again 5Pf postcards and stamps ran out. Therefore, new "5 Pf." surcharged stamps (2,000 copies) were issued on July 19 for the 2<sup>nd</sup> provisional issue.

# 出品者プロフィール



*Mr. FUKUDA Shinzo*

## 福田真三 氏

1954年生まれ。郵趣振興協会 賛助会員

中学校のときの切手ブームにより収集を開始しました。趣味は色々手を広げましたが、切手収集のみ継続中です。青島占領時期の郵便印に興味を持ち、本格的に収集を開始しましたが、ドイツ租借時期のカバーにも興味を持つようになり、更に、日本撤退後の中国の郵政にも手を広げました。

関西在住の郵趣家からの助言「郵便史をやったら」がきっかけで郵便印から郵便史に変更し、現在に至っています。郵便史の難しさと面白さに終わりがなく楽しんでいます。あの時の一言に感謝しています。

### 受賞歴

JAPEX 2017 LG(8F) : 青島局と山東鉄道沿線局の通送郵便史 (1898 ~ 1949)

JAPEX 2018 LG(8F) : 青島局と山東鉄道沿線局の郵便印

全日本切手展 2019 大金銀賞 (5F) : 青島と山東鉄道沿線地域の郵便史 (1898 ~ 1949)

INDONESIA 2022 LV(5F) : Postal History of Jiaozhou in China 1898-1949

URUGUAY 2025 G(8F) : Postal History of Kiautschou in China 1898-1949

# スタンペックスジャパン2025

*Indian China Expeditionary Force 1900-1923*

## インド中国遠征軍 1900-1923

作品番号 No. 12

郵便史部門部門 (8 フレーム)

出品者：小岩明彦

本作品は、義和団の乱に伴い中国に派遣され、そのまま中国に駐留したインド軍の軍事郵便の郵便史作品です。イギリス本国やオーストラリアからの部隊やイギリス艦船のものも含まれますが、大英帝国軍の主力はインドからの部隊であり他の部隊はその指揮下で活動しており、主に使用された切手はC.E.F.（中国遠征軍）と加刷されたインド切手でしたので、標題の名称を使用することとしたところです。

インド野戦郵便では1900年7月下旬の上陸当初から8月中旬まではインドの通常切手がそのまま使用されておりましたが、C.E.F. 加刷切手10種の発行後は基本的にそれらが使用されました。インド軍の基地局や野戦局も順次拡充され、最終的に3つの基地局、20の野戦局、3つの移動野戦局（鉄道野戦局）の計26局の消印が使用されました。また正確に言えば切手ではありませんが、英國鉄道管理局より清国の切手にB.R.A.と加刷された遅延料金徵収用の切手が発行され、駅で押印されました。

インド野戦郵便が扱った郵便も多様で、C.E.F. 加刷貼やインド通常切手貼ばかりでなくインド公用切手貼やスタンプレスカバーも扱いました。例外的に香港切手貼やC.E.F. 加刷—香港コンビネーション、イギリス切手貼、アメリカ官製封筒使用なども見られます。使われ方でみると、書留便や配達証明便、帯封なども存在します。使用地域も広範囲に及び、北京や天津などばかりではなく、香港や威海衛、上海、山海關などでも使用されました。なかには日本が関連するものも含まれます。また、これまで知られておりませんでしたが、第1次世界大戦中には青島遠征の際にもC.E.F. 加刷貼のものも存在します。宛先もソマリランド野戦軍やコスタリカ、独領南西アフリカなど、想定しづらいものまで見られます。

上述のようにインド野戦郵便関係の使用例のみでも十分多様ですが、大英帝国軍自体が多様な集団であり、またその大英帝国軍も連合軍の一員として活動したことから、少ないものの多様なマテリアルが存在します。例えばイギリス艦船差出香港切手貼カバー、インド野戦郵便到着前の日本在天津局差出便、威海衛差出清仏混貼カバー、香港局や英在上海局、英在威海衛局差出便なども見られます。

過去三十数年間にSattin, Wilson Wong, Hume, Latham, 'Magnolia', Al Kugelなどのコレクションが処分されました。本作品にはそのなかにあった重要なマテリアルが含まれております。本作品は8フレームですが、世界的にもこれまでこの規模の作品は存在しなかったのではないかと思われます。

日本では軍事郵便の作品というと圧倒的に消印に力点を置いた作品が多いのですが、本作品では分かりやすいストーリー展開に重点を置き、時系列にしたがって章を設けたうえで、使用された郵便や使用地域、時期に応じて節を設けました。また、稀少性についてはFIPの郵便史ガイドラインにしたがい、具体的な根拠を示しました。当時の状況に思いを寄せながらご参観いただけましたら幸いに存じます。

## INDIAN CHINA EXPEDITIONARY FORCE 1900-1923

### 【Purpose】

This exhibit shows the postal services of British Indian force, which was sent to China following the Boxer Rebellion, from various angles, revealing their true nature right up to their demise.

### 【Background】

As the Boxer Rebellion broke out in North China in June 1900, the eight great powers decided to send an expeditionary force. Because the British devoted to the Boer War, Indian force which consisted of five brigades were sent to China as the "British Contingent, North China Field Force". On 4<sup>th</sup> August, allied force began to march toward Peking. On 14<sup>th</sup> August, they occupied Peking. On 7<sup>th</sup> September 1901, "The Peking Protocol" was signed, and many of the troops began to withdraw. However, the great powers, including Britain, obtained the right to garrison troops in various parts of northern China.

When the Boxer Rebellion began to spread, no army unit was deployed in North China. Before the arrival of Indian Field Post, British Naval Post and foreign postal systems were used, but it's difficult to find out such usages. After the arrival of Indian Field Post in late July 1900, most mails of Indian force were sent through them. At first, Indian Field Post sold Indian unoverprinted stamps. But on 16<sup>th</sup> August 1900, they were stopped selling and "C.E.F." (China Expeditionary Force) overprinted stamps were issued. They were continued to be used for twenty-three years, until the withdrawal of Indian Field Post in 1923.

By September 1901, cancellations of twenty-six Indian Base Offices, F.P.O.s or Travelling F.P.O.s were in use in various parts of North China, Wei-Hai-Wei, Shanghai and Hong Kong. However, as the garrison was reduced gradually, the number of Base Offices and F.P.O.s was also reduced in 1903 and 1908. On 1<sup>st</sup> November 1923, the last three Base Office and F.P.O.s closed.

### 【Structure】

During this war, units of British Empire came under command of Army of India. Therefore, to express the position of British Contingent as a part of Allied Force, mails of the units from other area are included.

This exhibit is divided into five chapters based on the period and type of postal services available to British Contingent from the beginning of the Boxer Rebellion to the withdrawal of British force in 1923, and focuses on the usages of Indian Base Offices, F.P.O.s and Travelling F.P.O.s

The classification of cancellation and other marks, etc., is based on the book by Virk et al., listed below.

Chapter (Period)	Overview
I) Before Occupation of Peking (1900.6~1900.8.14)	At first, British Navy Post and postal systems of other countries were used. In the end of July, Indian F.P.O.s began to open.
II) Occupation of Peking (1900.8.15~1901.9)	Indian force served in North China, Wei-Hai-Wei, Shanghai and Hong Kong. Postal systems of other countries were used also.
III) Administration of Railway (1901.4~1902.10)	British force administrated Peking Shanhaiwan railway. Indian Travelling F.P.O.s served for it.
IV) Earlier Garrison Period (1901.9~1908.3)	After the Peking Protocol, British garrison served in China. But the strength and numbers of F.P.O.s gradually reduced.
V) Later Garrison Period (1908.4~1923.11)	The strength was small but maintained in North China. Only one Base Office and two F.P.O.s were open.

### 【Highlighted Items】

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>Unfranked mails used before arrival of Indian F.P.O.</li> <li>Covers cancelled at Japanese P.O. or French P.O. before arrival of Indian F.P.O.</li> <li>Various usages franked unoverprinted Indian stamps.</li> <li>Various usages franked Indian Official stamps.</li> <li>C.E.F.-Hong Kong mixed-franking cover.</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>Mails franked stamp of HK / GB /USA and cancelled at Base Office / F.P.O.</li> <li>Various usages cancelled at Travelling F.P.O.</li> <li>Cover written by Ernest Satow and franked Indian Official stamp to Wei-Hai-Wei.</li> <li>Cover franked C.E.F. overprinted KGV 1R.</li> <li>Mails used during WWI Tsingtao Expedition.</li> </ul> |
|---|---|

### 【References】

*The China Expeditionary Force 1900-1923* (1992) Virk, Hume, Lang & Sattin

*History of Indian Army Postal Service Vol. I 1854-1913* (1987) E.W.B. Proud

'WWI British Military Mail during the Siege of Tsingtao': *The London Philatelist* Volume 133, No.1519 (Oct. 2024), & *The Journal of Chinese Philately* No.432, Vol.66, No.4 (Oct. 2024) A. Koiwa

## I) BEFORE OCCUPATION OF PEKING (1900.6-1900.8.14)

INDIAN C.E.F. 1900-1923

## I. 3) JAPANESE P.O. IN CHINA

Cancelled at Japanese P.O. in "TIENTSIN" [25/7/1900].

Probably Unique Known Letter Written by Member of Indian Force and  
Sent through Japanese P.O. in China before Opening of Indian F.P.O.<sup>1</sup>

Written by Officer of 24<sup>th</sup> Punjab Infantry on  
crested envelope.

Photocopy of Reverse (×70%)

## [Route]

Tientsin (Japanese P.O.)—  
Chefoo (Japanese P.O.)—  
Shanghai (Br. P.O. : 6/8/00)—  
Tuticorin (28/8/00)—  
Dharamsala (13/9/00)

[Rate] Japan 10Sen : Overseas Letter (~15g.)

*Though first unit from India reached Tientsin on 18<sup>th</sup> July 1900, Indian F.P.O. didn't open until 27<sup>th</sup> July.*

*Therefore, this cover was sent through Japanese P.O. in Tientsin, exceptionally.*



<sup>1</sup> This is ex-Al Kugel, and was recorded in *The China Expeditionary Force 1900-1923* P.123. No similar usage was sold at the sales of Sattin, Wilson Wong, Hume, Latham & 'Magnolia'.

# 出品者プロフィール



*Mr. KOIWA Akihiko*

## 小岩明彦 氏

1967年 茨城県生まれ

大学に入った頃から英領インドを専門としており、ここ30年程は軍事郵便の古いところに絞って収集しております。始めた頃はイギリスの大収集家のご支援をいただきながらやっておりましたがすっかり代替わりして、最近ではインド系の収集家のパワーを感じることも多く、彼らの熱心さを目の当たりにするにつけ自分も頑張らなければと思うことしきりです。

### 受賞歴

- Indian Campaigns (インドの戦争)
  - FIP Phila Nippon 2011 大金賞 + 特別賞
  - FIAP Hong Kong 2015 大金賞 + 国際グランプリ
  - FIAP Phila Nippon 2021 大金賞
  - FIP Helvetia 2022 大金賞
  - FIP IBRA 2023 大金賞 + 審査員賞詞

英領インド北西辺境地域の軍事郵便 1840-1940

JAPEX 2012 大金賞+グランプリ

JAPEX 2019 大金賞

インド中国遠征軍郵便史 1900-1923

全日本切手展 2008 金賞+日本郵趣連合賞

## スタンペックスジャパン2025

### *British Postal History during the World War II PACIFIC WAR* 第二次世界大戦期の英国郵便史：太平洋戦争

作品番号 No. 13

郵便史部門部門（8 フレーム）

出品者：佐藤浩一

今年は終戦から 80 周年にあたります。この機会に、私がダラダラと 50 年以上集めているイギリスの第二次世界大戦関連マテリアルの中から太平洋戦争に関係するマテリアルを抜き出し、連合国側から見た太平洋戦争を知っていただきたいと考えての出品です。所謂 FIP の郵便史作品ルールには準拠していませんので非競争展への出品の方が相応しかったのかもしれません。歴史は郵便史との相性は悪いのです。従って 8 フレームの郵便史作品としてではなく、個々のマテリアルをご覧いただければ幸いです。

太平洋戦争という大きなテーマでの展示ですので、真珠湾攻撃によりハワイを中継拠点としたクリッパーメールが停止されたことを冒頭で示しました。その後、戦争勃発により「差出入戻し」とされたイギリスからアジア各国に宛てられた郵便物に続き、俘虜郵便を収容所毎に示しました。史実としての沖縄戦は参戦したイギリス軍艦宛の郵便物で、そして原爆投下はグアムに待機していたイギリス兵の郵便物の内容で示しました。展示の最後は解放されたイギリス人俘虜関連の郵便物、降伏文書調印式に参加したイギリス軍艦の記念印と続き、英連邦進駐軍軍事郵便局の使用例で終わります。

何やら騒がしくなっている昨今ですので、この展示を通じて戦争という悲劇を感じていただきたいと願います。

## 第二次世界大戦期の英國郵便史

### British Postal History during the World War II : PACIFIC WAR

#### SCOPE OF THE EXHIBIT

This is an exhibit of a part of personal collection under the concept of "British Postal History during the World War II", of which only materials relating to the Pacific War are displayed here in 8 frames. This exhibit is NOT a standard Postal History collection for competition, but an accumulation of covers and cards relating to the British Postal History for the Pacific War. At the 80<sup>th</sup> year since the end of the Pacific War, it is exhibited to show the materials to present the British involvement into the war. This display includes the following materials;

1. Covers and Cards posted / carried on British Postal Service,
2. Covers and Cards written by and / or addressed to British Nationality individuals

#### PLAN OF THE EXHIBIT

This exhibit is composed of the following orders;

1. Pacific Clipper Mails and its service suspension due to outbreak of the Pacific War,
2. Suspended civil mails from GB to Asian countries,
3. Prisoner of War mails to / from British Soldiers and or Civilians captured by Japanese Army by its location from South to North, including Indonesia, Malay (incl. Singapore), Thailand (incl. Burma & Vietnam), Borneo, Philippines, Hong Kong, China, Taiwan, Korea, Manchuria and Japan
4. Mails addressed to / from British Prisoners after the end of war
5. Mails to represents the end of war and British Commonwealth Occupation Force

#### HIGHLIGHTS OF THE EXHIBIT

Following materials are to be highlighted;

1. POW Mail from Thailand to GB, DAMAGED in Transit by aircraft accident,
2. POW Mail from Hong Kong to GB via the 1<sup>st</sup> POW Exchange Ship operated by USA,
3. POW Mail sent by Civilian under the Japanese Police Civilian Camp,

\* \* \* \* \* REFERENCE \* \* \* \* \*

1. Borneo : The Japanese P.O.W. Camps – Mail of the Forces, P.O.W. and Internees Part 1 & 2  
By Neville Watterson Published in 1989 & 1994
2. Series of "A Postal History of the Prisoners of War and Civilian Internees in East Asia during the Second World War" Written by David Tett
3. The Postal History of the Australian Army during World War II  
By P. Collas Published in 1986

第二次世界大戦期の英国郵便史

太平洋戦争の勃発  
開戦前のクリッパーメール

太平洋戦争勃発前のイギリスより  
ニュージーランドに宛てられた  
クリッパーメール

所謂パシフィッククリッパーメールはサンフランシスコからハワイを経由し、ニュージーランド・オーストラリアに向かうルートとマニラを経由してシンガポール方面とマカオ・香港訪問に向かう方面に分かれた。いずれも1941年12月8日の日本軍によるハワイの真珠湾攻撃によりそのサービスを停止した。

36倍重量便の8ポンド2シリング郵便料金ニュージーランド・ウェリントン宛

ロンドン  
1941年10月9日差出



## 出品者プロフィール



*Mr. SATO Koichi*

### 佐藤浩一 氏

1956年宮城県生まれ。神奈川県在住。

これまでにタスマニア・ハイデラバード・アルゼンチン・英国などを収集。

1. RDP
2. 英国ロイヤル・フィラテリック・ソサエティ、日本における代表者
3. FIP 伝統収集コミッショナ、チェアマン
4. FIP 登録審査員
  - (ア) 伝統収集、郵便史、文献部門各チームリーダー資格
  - (イ) ジュリー・セクレタリー資格
5. FIP グランプリ・クラブ会員
6. FIAP ジュリー・アカデミー講師
7. 郵趣振興協会 正会員

## スタンペックスジャパン2025

*Postal Stationery under Japanese Occupation Area*

### Postal Stationery under Japanese Naval Occupation Area

作品番号 No. 14

ステーショナリー部門部門 (8 フレーム)

出品者：守川環

日本占領下海軍のステーショナリーは、一昨年の国際展で金賞を受賞した作品を、従来の展示方法を全面的に改めて作成し直しました。

カタログを見ても理解しがたく複雑なこの分野の展示を一般的なステーショナリーの分類に即した展示方法に改めました。その結果、見やすくわかりやすい展示なっています。

全てのステーショナリーに未使用、使用済の両方の存在が確認されていませんし、また、現存数も 10 枚以下のものも多くその収集は困難を極めています。

この展示ではこの分野での最高峰のコレクションをお楽しみください。

# Postal Stationery under Japanese Naval Occupation Area

## Plan to Exhibit

This exhibit is a collection of traditional stationery under the Japanese Navy occupied territories.

Due to the vast size of the region, mail uses a unique method for each region, similar to stamps.

In this field of exhibitions, where the number of survivors is low, the work was composed including the usage side while adhering to the traditional technique based on unused.

### 1. Archives P.2

The only proof of cherry blossoms and anchor postcards issued by the Ministry of Civil Affairs of Borneo in the Navy area.

### 2. Andaman Nicobar Islands P.3-4

For counterintelligence reasons, it is the only Navy occupied area other than the former Dutch East Indies area. Similar to postage stamps were used, but no actual use cases have been confirmed.

### 3. Topix P.5-8

This postal card features an anchor postmark from an early period, and there are less than 10 Flores postal cards in existence, both unused and used. It is especially rare among the cherry blossom & anchor postal cards, as it is printed in black.

### 4. Postal card P.9-96

3 1/2 cent era is classified into period overprint postal cards, military postal cards, provisional postal cards, Kusunoki postal cards, cherry blossom & anchor postal cards, Hinomaru postal cards, and regular postal cards.

4 cent era is classified into Hinomaru postal cards, cherry blossom & anchor postal cards.

### 5. Foreign postal card P.97-104

There were four types: farmer, old queen, new queen, and numeral design, and they were sold for 10 cents for foreign mail postcards and 12 1/2 cents for air mail. Only one fragment has been confirmed as an example of its use.

### 6. Change of address card P.105-107

There are two types, a farmer and a dancer design, sold for 2 cents, and no examples of use have been

### 7. Letter Sheets P.108-120

There was only one type with a farmer design, and it was sold for 7 1/2 cents. There were two types, with and without violet print inside.

### 8. Stamped envelope 121-128

There was only one version with the old Queen design, which sold for 10 cents. The use of postcards was encouraged in the naval district due to censorship, so these examples are all valuable.

## Bibliography

J.R.Nieuwkerk The Postal History of the Lesser Sunda Islands, Moluccas and New Guinea during Japanese occupation and Immediate Aftermath 1942-1945

F.J.Nash The Philatelic History of Dutch West Borneo during the WW II era

P.R.Bulterman INDONESIA POSTAL STATIONERY Japanese occupation 1942-1945

## Remarkable Items

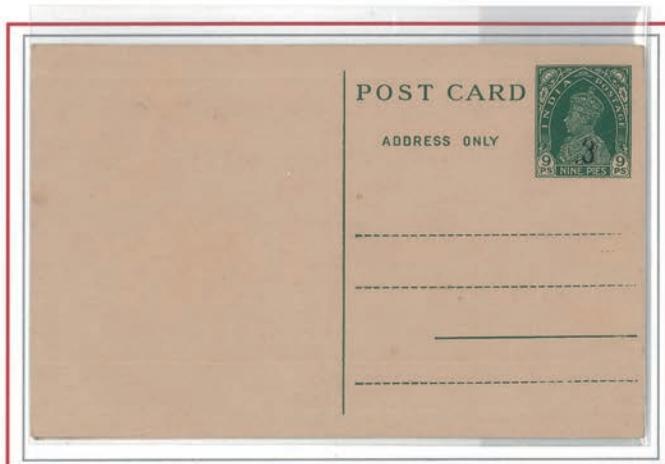
Archives Proof	P.2	Andaman Envelope/Postal card	P.3-4	Flores Island Provisional	P.6-7
Ambon Provisional postal card	P.8	Ambon Overprinted	P.18	Usage at New Guinea	P.19

Provisional Issue

Andaman Nicobar Islands

Postal Stationery  
under Japanese Naval Occupation

Only two copies known

**3 surcharged on 9 ps. India postcard**

Located in the southern part of the Bay of Bengal, the Andaman and Nicobar Islands are under the Union Territory of India. Given the route to the Straits of Malacca, it is India's strategic defense hub. World War II began, and Japan, which had this island as its main point, occupied the capital Port Blair at the end of March 1942 and started a military government by the Navy.

The Port Blair Bureau post office was opened on April 5, 1943 as the only post office on the island. The type of overprint used for postmarking was printed on Indian stamps, postcards and stamped envelopes are also available.

## 出品者プロフィール



*Mr. MORIKAWA Tamaki*

### 守川環 氏

昭和28年東京生まれ。会社社長。郵趣振興協会 監事・正会員

5歳の時から父の影響で切手収集を始める。中学生の時に南方切手と出会い、日本占領切手の収集を始める。高校時代には切手趣味社（自白）の南方切手部会に入会し、独自の南方切手カタログ製作に取り掛かる。

大学時代には、郵趣協会からの依頼で『新日本切手カタログ』が『日本切手専門カタログ』へ変更されることに伴い、その南方切手パートの製作を行う。その後のステーショナリーの掲載時も含めて、出品者の作成した独自のカタログ番号が、日専では採用され現在に至っている。

大学時代には、全日展のジュニア部門に海軍地区を出品し銅賞。その後多くの国内展に出品した。また、JAPEX1983では、南方占領地のステーショナリーを企画・特別展示し、記念出版も行った。

## スタンペックスジャパン2025

### *Stamps of The Russian Empire Used Abroad Ship Mail to Japan* 海外で使用されたロシア帝国切手：日本への船による郵便

作品番号 No. 15

ワンフレーム（郵便史）部門（1フレーム）

出品者：飯塚博正

極東におけるロシア船による郵便通送は、1880 年代にロシア郵政の委託を受けてウラジオストックにあった Shevelev & Co. (Russian Steam Navigation in the East) によって開始された。その後、Russian Volunteer Fleet によるオデッサーウラジオストック間の航路が開設されると、同航路を利用した郵便通送が行われるようになり船内局も開設された。

19 世紀末にロシアが遼東半島を租借し、露清合弁の東清鉄道会社が欧亜を結ぶ鉄道路線の建設を開始したが、ロシア資本の東清鉄道海洋汽船会社 Chinese Eastern Railway Maritime Steam-Shipping Company が設立され、旅順・大連と中国、朝鮮、日本各港及びウラジオストックを結ぶ航路を 1899 年から順次開設し、Shevelev & Co. に代わってロシア郵政の極東における郵便通送を担った。

日露戦争の結果、東清鉄道海洋汽船会社は運航を停止、代わりに Russian East Asiatic Steamship Company がロシア政府と契約を結び 1906 年からロシア郵政の極東における郵便通送を開始した。しかし、翌年、ロシア政府は、Russian Volunteer Fleet に補助金を交付して、Russian Volunteer Fleet が極東におけるロシアの郵便通送を全面的に担うようになる。

本作品は、S.D. Tchilinghirian 及び W.S.E. Stephen による名著「*Stamps of The Russian Empire Used Abroad*」の第 6 巻の「SHIP MAIL TO JAPAN」を展開したもので、基本的には展示者による発表 "Russian ship mail in the Far East" (Journal of BSRP) に従うが、朝鮮での paquebot は含めない。ロシア船内郵便の第一人者 Dr. Raymond Casey の研究成果及び国内外英字新聞、邦字紙掲載の入出港記録、出帆広告等の調査を踏まえて、ロシア船のみならず、日本船が運んだロシア郵便物の希少な使用例を含めて構成し、その活動状況を示した。

# *Stamps of The Russian Empire Used Abroad Ship Mail to Japan*

## Background:

Transporting mail by Russian ships in the Far East began in the 1880s, commissioned by the Russian postal service, and carried out by Shevelev & Co. (Russian Steam Navigation in the East) in Vladivostok. Later, when the Odessa-Vladivostok route was opened by the Russian Volunteer Fleet, postal transportation using this route commenced, and sea post offices were established on board the ships.

At the end of the 19th century, Russia leased the Liaodong Peninsula and the Russo-Chinese joint venture, the Chinese Eastern Railway Company, began constructing a railway line connecting Europe and Asia. The Chinese Eastern Railway Maritime Steam-Shipping Company, a Russian-financed entity, was established, and from 1899, it successively opened routes connecting Port Arthur, Dalny, and various ports in China, Korea, Japan, and Vladivostok, taking over mail transportation in the Far East from Shevelev & Co.

As a result of the Russo-Japanese War, the Chinese Eastern Railway Maritime Steam-Shipping Company ceased operations. In its place, the Russian East Asiatic Steamship Company contracted with the Russian government and began mail transportation in the Far East from 1906. However, the following year, the Russian government provided subsidies to the Russian Volunteer Fleet, which took over all Russian mail transportation in the Far East.

## Scope of the Exhibit:

This exhibit is based on the literature 'Stamps of The Russian Empire Used Abroad' and incorporates the research findings of Dr. Raymond Casey, a leading authority on Russian ship mail. Additionally, it includes the exhibitor's investigations of entry and departure records and departure advertisements published in domestic and foreign English-language newspapers, as well as Japanese-language papers. The work illustrates the activities by showcasing rare examples of the usage of Russian stamps carried by Russian and Japanese ships calling Japanese ports.

## Original Research:

This field has not yet been fully studied, and there are only a few papers on this topic. The exhibitor has tried to verify and advance the research conducted by previous authors.

## Plan:

- 1.Before the Russo-Japanese War
  - Mail transportation by Russian ships
  - Mail transportation by Japanese ships
- 2.After the Russo-Japanese War
  - Mail transportation by Russian ships
  - Mail transportation by Japanese ships

## Remarkable Items:

- Postal card cancelled on board SS.Nonni with a violet double circle cachet
- Cover cancelled on board SS.Mongolia with a blue double circle cachet
- Last mail from the REASC' ship

## Sources & Literature:

- S.D. Tchilinghirian and W.S.E. Stephen: Stamps of The Russian Empire Used Abroad
- Raymond Casey: The Captain's Log., Journal of BSRP
- Hiromasa Itsuka: Ship Mail from and to Japan, Journal of BSRP
- Hiromasa Itsuka: Russian ship mail in the Far East, Journal of BSRP
- Sakon Yukimura :Russia toward the Ocean: Shipping in a Eurasian Empire and Global Economy

## Russian Ship Mail in the Far East

Russian Volunteer Fleet

Vladivostok-Odessa Line : S.S. Nijni Novgorod



Ex. Raymond Casey

Cover to Spokane, Washington, U.S.A. with Russian 10k stamp, posted on the ship of the Russian Volunteer Fleet Association from Vladivostok and cancelled by

"STEAMSHIP / 10 / VLADIVOSTOK-ODESSA 10 V 1901" (Old Style)

with another CDS below in Latin characters with same date in New Style,

"PAQUEBOT No.10 / 23 V 1901" (New Style)

Nagasaki June 5, 1901, Yokohama June 7, Tacoma June 22 transit and Spokane June 23 arrival,  
from Yokohama to Tacoma was transported by NPSS S.S.Victoria.

S.S. Nijni Novgorod : left Vladivostok, called at Nagasaki June 5, 1901, Port Arthur, Hankow,

Singapore June 21/June 22, and arrived at Odessa

## 出品者プロフィール



*Mr. IITSUKA Hiromasa*

### 飯塚博正 氏

基本的にはゼネラリスト。

1970年代に郵趣誌「フィラテリスト」に掲載された満洲国消印の記事に興味を惹かれ、当時は人気、物がなかった満洲国切手を集めようになる。同じ頃に中国切手の多種パケットを購入し中国切手を収集するようになる。

1980年に出版された水原明窓コレクション華郵集錦第5巻「東北近代史」に強い影響を受け、満洲郵便史や極東におけるロシアの郵便に力を入れるようになる。その後、日本と中国間の郵便通送にも興味を持ち、また、極東における船による通送の調査を今まで継続している。

主な出品作品：PHILANIPPON2021“Postal History of Manchuria”

# スタンペックスジャパン2025

*Java February 1942 - August 1945*

## ジャワ 1942年2月～1945年8月

作品番号 No. L1

郵趣文献部門（単行本）

出品者：増山三郎

南方占領地切手の収集・研究は戦争中から始まり、面白の切手趣味社 吉田一郎氏を中心に「切手文化会南方切手部会」が結成され、情報をを集め、戦時下の趣味誌「切手文化」終刊記念1944年4月号として「大日本南方切手明鑑」が発行されました。戦争中日本に送られた切手が判る貴重な資料です。

戦後、そのコレクションは吉田利一氏に引継がれ、青木氏、玉野氏、守川氏、土屋氏、橋本氏、上遠野氏などにより例会が継続し、青木氏により報告されました。吉田氏、青木氏が体調不良となると休会になってしまいました。

2001年国内勤務になった土屋氏を中心に「JPS 南方占領地切手研究会」が発足し、例会が再開しました。面白の切手博物館での南方切手展は1回のみで終わってしまいましたが、郵趣振興協会の吉田理事長、守川監事のご尽力と若い会員のパワーにより、『南方占領地のフィラテリー展』が、郵政博物館で7年連続して開催されています。

また、若手グループにより、オンラインZoom例会も開催されています。日本切手であり外国切手でもある南方占領地切手は、とつつきにくい分野ですが、まだ判らないこともある面白い分野で、皆様の挑戦を期待しています。ご購読ありがとうございました。

皆様があまり注目していない占領地ジャワ伝統郵趣で金賞を得ました。これで一段落。国際展はもうこりごり、今後は「蘭印1939年9月から1942年の検閲郵便」を密かに楽しもうと思います。

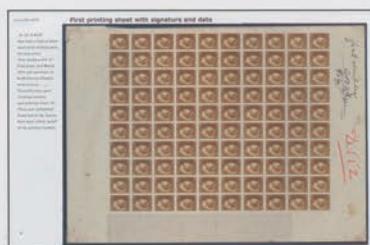
この出品物（郵趣文献）は、郵趣文献部門展示会場における販売対象です  
詳細は本ガイド7ページをご覧ください。

*J.A.K.A.R.T.A 2024 Gold Prize  
Java February 1942 - August 1945*



*Masuyama Saburo Collection*

## 会場で展示された並び（8フレーム中の第1フレーム）



最初の2フレームには、占領直前の切手を展示しました。

# 出品者プロフィール



*Mr. MASUYAMA Saburo*

## 増山三郎 氏

1942年生まれ JPS 南方占領地研究会世話人 郵趣振興協会 贊助会員

中学3年の時、インドネシアからたくさんの手紙がきた友達の依頼で、返事を出した一人が、大の日本ファンで、お互いの新切手を貼った手紙のやりとりをして、インドネシアの切手を集めた。

地元JPS沼津支部が結成され、毎回の例会で先輩達から刺激を受け、蘭印や日本占領期にも挑戦した。また、切手趣味社(自白)で行われていた「南方切手研究会」の青木氏からお誘いが有り、喜び勇んで例会に参加したが、あまりにもレベルが高く、会報を頂くのみの会員でした。

英語はダメでしたが、切手欲しさに、インドネシア、オランダ、イギリス、アメリカの郵趣会に入り、多くの友を得た。特にオランダ航空郵趣会の元会長に郵便史の面白さを教えていただき、「1939年から1942年の蘭印検閲郵便」にのめり込んだ。日本占領期はスマトラ・海軍地区はあきらめ、皆さんが集めていないジャワに集中した。この作品をIndonesia2024アジア展でインドネシアの友に見せることができたことを喜んでいます。

## スタンペックスジャパン2025

*NISHIMURA JUICHIRO Collection, SWEDEN 1855-1873*

### 西村寿一郎コレクション SWEDEN 1855 - 1873

作品番号 No. L2

郵趣文献部門（単行本）

出品者：西村利子

本書は、故 西村寿一郎氏の世界展大金銀賞コレクションである、スウェーデン・クラシックの全ページをフルカラーほぼ原寸で掲載したコレクション集です。親族および親しい友人用にごく少部数作成しましたが、残部について、郵政博物館様に寄贈すべく、今回展覧会に展示させていただくことといたしました。ぜひ、お目通しいただければ幸いです。

*Australia 2013 Large Vermeil Prize  
Sweden 1855-1873*



*Nishimura Juichiro Collection*

## 会場で展示された並び（8フレーム中の第1フレーム）



第1フレームは、1855年に発行された一番切手のうち、3スキリングバンコと4スキリングバンコを展開しています。

# コレクション所有者プロフィール



*Mr. NISHIMURA Juichiro*

**西村寿一郎 氏**

西村寿一郎 (-2022年)

切手研究会 会長、公益財団法人 日本郵趣連合 理事、国際展コミッショナー等を歴任。

収集分野は、スウェーデンクラシック、二つ折り葉書コレクションに加えて国内外の多岐にわたる分野を収集。

## スタンペックスジャパン2025

### *PEYRE Frères, Yokohama* 在横浜ペイル兄弟洋菓子店

作品番号 No. L3

郵趣文献部門（単行本）

出品者：小林彰

開国直後の日本に長期滞在し貿易を営んでいたペイール一族は、著者のライフワークとしての研究対象でした。彼らはフランスから日本へ食品を輸入し、逆に日本切手の代理店としてフランスを中心に西欧に日本切手を輸出していました。

150 年の時を経て、ペイール一族の子孫であるセルジュ・ケンソン氏と交流する機会を持つことができた著者は、当時やりとりされた書状に加えて日本・フランスに残る資料を研究し、その研究成果を雑誌「切手研究」に、足掛け 16 年に渡り、7 回寄稿してまいりました。この成果を一冊の書籍にまとめることができ数年来の念願でありましたが、ようやく発行の目処が立ち、嬉しく思います。

この出品物（郵趣文献）は、郵趣文献部門展示会場における販売対象です  
詳細は本ガイド 7 ページをご覧ください。

# 在横浜ペイル兄弟洋菓子店 PEYRE Frères, Yokohama



小 林 彰

KOBAYASHI Akira

## 2. 続・在横浜ペイル兄弟洋菓子店

20

切手研究

## 続・在横浜ペイル兄弟洋菓子店（1）

小林 彰

## はじめに

本誌2004年（平成16）3月発行の422・423合併号に「在横浜ペイル兄弟洋菓子店」を紹介させていただいた。その後、次男マチュー・ウェジェンヌのひ孫ケンソン＝セルジュ氏が夫人と共に同年5月に初来日されたり、また新たな事実や史資料が見つかったりした。このため、先の紹介記事を追加・訂正する必要が生じた。これらをまとめて、下記項目にしたがって補遺として発表させていただく。

- ・ペイル兄弟三男サミュエル＝ポール
- ・横浜洋菓子事始め
- ・ペイル兄弟ホテル
- ・日本郵便切手総代理店
- ・ペイル兄弟洋菓子店発信郵便物

## ペイル兄弟三男サミュエル＝ポール

a. マルセイユの洋菓子店での修行  
 ペイル兄弟洋菓子店を横浜で創業するに大きな功績を残したのは三男サミュエル＝ポール（Samuel Paul）であった。彼の出生証明書がケンソン氏により新たに発見された。その結果、先の拙稿を一部訂正させていただく。彼は1847年11月16日にムーリエスで誕生した。1866年（慶応2）18歳のときマルセイユにて、同地のセマドゥニ洋菓子店で洋菓子製造の指導を受けた。同店とサミュエルとの契約書が残っている〔図1〕。参考に契約内容を下記する。

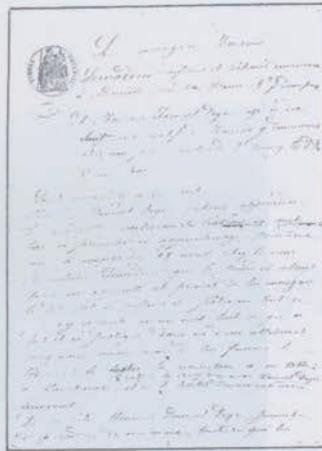


図1 セマドゥニ洋菓子店とペイル兄弟三男サミュエルとの契約書（ケンソン氏所蔵）

マルセイユ市ローマ通7番地の洋菓子店セマドゥニとローヌ河口県サン・レミ郡ムーリエスの実家に居を定めるサミュエル＝ポール18歳とは以下合意する。

サミュエル＝ペイルは1866年4月28日から2年間洋菓子の製造をアントワーヌ＝セマドゥニ（G.Antoine Semadeni）店で見習う一方、セマドゥニは、菓子製造に必要なすべての技術を製造所や販売所において伝授する。また宿泊所や食事

## 出品者プロフィール



*Mr. KOBAYASHI Akira*

### 小林彰 氏

昭和 15 年 4 月 26 日 東京浅草生まれ

昭和 34 年 早稲田大学第一理工学部機械工学科卒業

住友商事株式会社、鴻池組勤務を経て、平成 18 年より令和元年まで、  
カルトール証券印刷株式会社・日本総代表。

郵趣振興協会 正会員

## スタンペックスジャパン2025

*ROMAN LETTER CDS COMB TYPE 1946-1952*

### 戦後の欧文櫛型印

作品番号 No. L4

郵趣文献部門（単行本）

出品者：神宝浩

本書は、スタンペディア機関誌「フィラテリストマガジン」の第24号（2019年秋）から第37号（2022年冬）まで、計14回にわたって連載した「戦後の欧文櫛型印」の記事をベースに、所要の加筆、修正を行ってまとめたものです。

わが国の郵趣界において、「戦後の欧文櫛型印」は、収集も調査・研究もまだ発展途上の分野であり、現在未確認の印が今後新たに発見される可能性もあります。また本書は個人の収集をまとめたものであるため、当然のことながら未収の欧文櫛型印がいくつか存在していますし、調査が行き届いていないところもあります。ただ、筆者の知る限りでは、これまでのところ、「戦後の欧文櫛型印」に絞って刊行された郵趣図書は存在していないようです。その意味で、本書が戦後の欧文櫛型印の収集ならびに調査・研究の一助になれば、筆者として大変うれしく思う次第です。

この出品物（郵趣文献）は、郵趣文献部門展示会場における販売対象です  
詳細は本ガイド7ページをご覧ください。

# 戦後の歐文櫛型印

ROMAN LETTER CDS COMB TYPE

1946-1952



神 宝 浩

SHINPOU Hiroshi

stamped

戦後の欧文櫛型印

## II. 各局の欧文櫛型印

### 1. C 欄 NIPPON グループ

C 欄 NIPPON 印は、戦前のタイプを戦後も引き継いだもので、外国郵便再開後の約3年間、外信日付印の中心となって使われました。使用局は、外国郵便の取り扱い量の多い TOKYO、YOKOHAMA、OSAKA、KOBE の4大局が主体ですが、HAKODATE、KIOTO、HAKATA、NAGASAKI など地方の有力局でも使われています。これをまず上記4大局、ついで4大局以外の各地の欧文櫛型印について、みていきましょう。

#### (1) 4 大局

ア. TOKYO

##### (ア) 金属印

東京中央局のC欄 NIPPON の金属印は、C欄の NIPPON の文字がC欄の枠いっぱいに広がっているもの（いわば拡張タイプ）と、枠の中心に集まっているもの（いわば収縮タイプ）の2種類があります。図1は拡張タイプの例で、FDCとして東京通信展記念の小型シートを貼ったカナダ宛船便書状にC欄 NIPPON 拡張タイプの金属印が押されたものです。



【図1】TOKYO 1948.4.27

## 出品者プロフィール



*Mr. SHINPOU Hiroshi*

### 神宝浩 氏

- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| 1946年  | 岡山県生まれ。その後兵庫県姫路市で育つ      |
| 1956年頃 | グリコの切手ブームで切手に触れるが、その後中断  |
| 1976年頃 | 収集再開。2001年より JAPEX に数回出品 |
| 2012年  | JAPEX にて「第1次国立公園切手」で金賞   |
| 2013年  | JAPEX にて「戦後の欧文櫛型印」で大銀賞   |
| 2014年  | 「第1次国立公園切手の体系的収集」刊行      |

## スタンペックスジャパン2025

*Vladivostok Shipping Routes and Postal Service (2) ~Focusing on the Japan Sea Shipping Routes*

ウラジオストク航路と郵便(下)~日本海航路を中心に~1876年10月~1910年9月~(明治29年~明治43年)

作品番号 No. L5

郵趣文献部門 (単行本)

出品者:立山一郎

これまで「朝鮮航路」、「北太平洋航路」、「横浜上海航路」についてのシッピングリストを作成してきました。

次のテーマとして「ウラジオストク航路と郵便」は予てより興味のあった分野であり、これを取り上げ調査・執筆を開始しました。

「ウラジオストク航路」は、次の二つの航路に区分されます。

A. ウラジオストクと長崎・上海を結ぶ航路 (上海ウラジオストク航路)

B. ウラジオストクと日本海各地 (新潟、函館、小樽、七尾、敦賀、門司) を結ぶ航路 (日本海航路)

本来は「ウラジオストクと郵便」として1冊の図書にまとめる予定でしたが、利便性向上のため「日本海航路編」(下巻)と「上海～長崎～浦塩編」(上巻)の二つに区分しての出版となりました。上巻の出版についてもできるだけ迅速に出版できるように努力するつもりです。

## ウラジオストク航路と郵便（下）

～日本海航路を中心に～

—1896年10月～1910年9月—

（明治29年～明治43年）



2024年11月

小判振舞処

## B.交通丸カバー（使用期間：1902.5.27～1903.12.17）（冬季休航）（運航便数：14便）

No	台葉書・切手	差出地	抹 消	中 繙	到 着	出 典
K1	私製葉書 菊2銭貼	浦塩	KOTSU MARU 1902.6.		四日市 M.35.6.26 (MSA184)	マリタイム
K2	露国4k葉書	浦塩	KOTSU MARU 1902.6.23	敦賀バクボー	京都 M.35.6.25	本書81頁
K3	菊切手单片 茶3銭		KOTSU MARU 1902.7.17			
K4	露国4k葉書	浦塩	KOTSU MARU 1903.6.11	—	長崎 M.36.6.15	消46号
K5	露国4k葉書	浦塩	KOTSU MARU 1903.6.22	敦賀バクボー	京都 M.35.6.25	フェデルマン
K6	私製葉書 菊1/1/2銭貼	浦塩	KOTSU MARU 1903.7.20	—	千葉 M.36.7.26	外信印ハン ドブック
K7	露国絵葉書 菊1/1/2銭貼	浦塩	KOTSU MARU 1903.7.20	—	神戸 M.36.7.26	〃
K8	露国絵葉書 菊1/1/2銭貼	浦塩	KOTSU MARU 1903.8.11	—	千葉 M.36.8.15	船内郵便と バクボー印
K9	露国絵葉書 露国4k切手貼	浦塩	KOTSU MARU 1903.10.27	敦賀経由（書込） 東京牛込 36.10.31	長崎本博多 M.36.11.2	マリタイム
K10	露国私製葉書	浦塩	KOTSU MARU 1903.11.23	—	大阪	消43号
K11	露国連合葉書 切り抜き		KOTSU MARU 1903.11.23			本書12頁

## C.愛國丸カバー（使用期間：1903.5.20～11.10）（冬季休航）（運航便数：5便）

No	台葉書・切手	差出地	抹 消	中 繙	到 着	出 典
A1	菊3銭茶單片		1903.5.30			
A2	菊切手多数貼り 書留カバー	浦塩	AIKOKU MARU 1903.5.27	神戸 1903.6.2 コロンボ経由	印度 カルカッタ	谷勝信本
A3	連合葉書4銭	浦塩	AIKOKU MARU 1903.8.19	—	丹後・宮津 M.38.8.26	マリタイム
A4	露国私製葉書 3kと1k切手貼	浦塩	AIKOKU MARU (1903.) 11.20、年号空	東京 M.36.11.25	千葉 M.36.11.25	日本切手名鑑 本書15頁

（注）本表A4は、愛國丸の船内印で抹消ですが、実際は宮島丸での使用です。宮島丸就航のとき船内郵便印の配布が間に合わなかったため、それまでの愛國丸郵便印が暫定的に使用されました（年号空欄で使用）。

次頁カバー画像参照

# 出品者プロフィール



*Mr. TATEYAMA Ichiro*

## 立山一郎 氏

昭和18年生まれ、小判振舞処、いづみ切手研究会、郵便史研究会会員

会社退職後に、切手収集を再開（郵趣歴20年）、小判振舞処故長田伊玖雄の指導を得て小判切手、肥後国関係初期カバー等の収集を中心に郵趣の世界を愉しむ。最近は郵便史の研究に取組んでいます。

競争展出品および受賞歴（国内展）

「肥後国熊本郵便局に見る明治前期の郵便」 2015年日本郵趣協会文献賞受賞  
 「肥後国の郵便印—明治前期—」 JAPEX2016 金賞受賞  
 「明治前期の大坂肥後航路と汽船便」 JAPEX2019 文献部門金賞受賞  
 「明治前期における朝鮮航路と郵便」 JAPEX2021 文献部門大金銀賞受賞

著作

- ・明治前期における朝鮮航路と郵便（上巻）（2021年3月出版）
- ・明治前期における朝鮮航路と郵便（下巻）（2022年4月出版）
- ・北太平洋航路シッピングリスト（2023年1月出版）
- ・横浜上海航路シッピングリスト（2023年11月出版）

会社退職後、郵趣の世界に参加し、多くの友人を得ることができ、また、ご指導、御支援を受けて多忙な毎日を過ごしています。現在は、「ウラジオストク航路と郵便」（上巻）の上梓にむけて奮闘中です。

# スタンペックスジャパン2025

*World plant postage stamps based on Plant classification system Vol. 1*

## 世界植物切手分類体系 第1巻

作品番号 No. L6

郵趣文献部門（単行本）

出品者：石田徹

世界の植物を切手によって進化体系順に展開したコレクション集です。本シリーズでは生命の発生から、藻類、地衣類、コケ、シダ、裸子植物、被子植物と進化を辿りながら、世界中で切手として発行されている植物の「科」を全て調査し収録します。またその中では、特に植物切手の分野ではあまり取り組みがなされていない、絶滅種、化石や藻類、植物プランクトンなども調査し収録します。本巻では Introduction に「世界初の花切手ノバスコシア」「植物の来た道」などを置き、続いて藻類、地衣類、コケ、シダ、裸子植物まで生命の誕生から植物の進化を紹介します。

切手図案のみの分類では単なる「絵合わせ」に陥り、博物的趣向は満足しても、切手類の印刷や、郵便制度、歴史といった従来郵趣が目指してきた「マテリアル（切手類）の調査分析を通じ得た希少性や価値観の共有」といった観点からは今一つ物足りない感があるため、このシリーズでは、クラシック切手の分類や、切手の原画、試刷、印刷、紙、糊、目打、定常変種など切手のアーカイブやバラエティにも多く目を向け、切手は郵便に使用されるといった観点からも、カバーなどの使用例も含め奥深い郵趣の世界を体现するよう努めています。

索引（学名、和名、事項名）の他、凡例と解説には郵趣家向けに植物分類を、植物愛好家向けには郵趣用語とクラシック切手の解説を置き、双方分野の方々にも利用できるよう配慮しました。本シリーズが単に植物を楽しむだけでなく、より一般にも郵趣本来の姿を認識される郵趣振興の一つの材料となり、単なる物集めといった認識を払拭する一助となる事を願ってやみません。

A4判 オールカラー 268ページ Wood'Core 2024年10月17日刊

頒布価 2500円（送料430円）

# 世界植物切手分類体系

World plant postage stamps  
based on Plant classification system



## 第1巻

藻類・地衣類・コケ・シダ・裸子植物

Vol. 1: Algae, lichens, mosses, ferns, and gymnosperms

編・石田 徹

Compiled by ISHIDA Tooru

Wood's Core

渦鞭毛藻類  
Dinophyceae渦鞭毛藻類 *Dinophyceae*ディノフィス科 *Dinophysiaceae*

1998

*Dinophysis acuta*

1998

*Noctiluca scintillans = N. miliaris*

2022



1992

*Ceratium hexacanthum**C. ramos**C. vultur*シムビオディニウム科 *Symbiodiniaceae*

←

*Symbiodinium microadriaticum*

1991

渦鞭毛藻類 2本の鞭毛をもつ单細胞生物で、渦巻くように細胞を回転させて泳ぐ、渦鞭毛藻類の仲間にはヤコウチュウなど生物発光を行う種類が知られるが、葉緑体をもつ生物のなかで渦鞭毛藻類のみが発光能力をもつ。サンゴやイソギンチャクなど海産無脊椎動物の組織内や細胞内にはゾーキサンテラ（褐虫藻）とよばれる藻類が共生する例が多く知られているが、ほとんどの場合、渦鞭毛藻類のシムビオディニウム属である。

# 出品者プロフィール



*Mr. ISHIDA Tooru*

## 石田徹 氏

昭和34年生まれ 郵趣振興協会 賛助会員

物心ついた頃より切手に親しみ、幅広く伝統分野を楽しむが、昨今は植物切手や日本万国博切手の分野で知られるようになってしまった。風景印90年や、はがき150年では作品展示や記事執筆などを行う。郵趣記事執筆のほか文献出版も手掛ける。

### 受賞歴

JAPEX2022 普通はがき 1873-1945 LS

JAPEX2024 日本万国博切手資料集 LV

## スタンペックスジャパン2025

*The world's greatest collectors*

# 世界の大収集家 [第1部] フェラリとその時代の郵趣

作品番号 No. L7

郵趣文献部門（単行本）

出品者：正田幸弘

本書は『たんぶるばすと』に連載中の「世界の大収集家」のうち 2020 年から 2022 年に掲載分を 1 冊にまとめたものです。前書きのほかに目次、年表、主な参考文献とその使い方、を加えています。22 名の郵趣家の本文は、基本的には連載時のものですが、① p83 では重要な追加、②カラー画像が入手できたものは、白黒から差し替え、③誤植の修正等、はしています。

注目してもらいたいのが、p145 以下の年表です。これは索引代わりですが、これを頼りに気になった項目の部分を見る、という使い方が有用だと思います。したがって、毎月の雑誌で既に読んだ内容ではあっても、年表を使って調べる、といった使い方が可能です。

切手収集の歴史を考えてみると、30 年を 1 単位として区分することができます。①切手カタログや雑誌が登場する 1860 年代が始まります。②1890 年代にはいると、収集家以外にも切手が高価に売買される場合が知られ、珍品の発見につながります。③1920 年代、世界最大のフェラリ収集は、公開オークションで分散しました。以後この売買方法が普及します。④第 2 次大戦後、富（珍品切手）はアメリカに集中します。⑤1980 年代以降は、専門収集の拡大、あるいは競争切手展普及の時代でしょうか。

「世界の大収集家」の連載では、第 1 部で①②の時代を扱っています。第 2 部では③④の時代です。⑤に入る前に、主役にはなれなかった脇役の収集家を第 3 部で扱い、もう少し厚みをつけたいと考えています。また、こういった各論的な内容とは別に、将来的には総論としての「世界郵趣史」にも取り組みたいものだと考えています。

この出品物（郵趣文献）は、郵趣文献部門展示会場における販売対象です  
詳細は本ガイド 7 ページをご覧ください。



The world's greatest collectors

# 世界の大収集家

【第1部】フェラリとその時代の郵趣

正田 幸弘



2023©

株式会社 鳴美

## 世界の大収集家（8）

## エドワード・ペンバートン（1844-1878）



【図1】ペンバートン

Edward Loines

Pembertonはバーミン

ガムに長く続く家族の

出である。先祖は17世

紀初期にWarwickshire

に移民して来た。しかし、Edward Warwick

Pemberton（1819-52）

は米国へ移住してニュー

ヨークに暮らし、そこでアメリカ人のSarah Loines（1819-44）と結婚した。有名な郵趣家は1844年12月10日に生まれたが、まだ幼い時に両親を失った。程なくして彼はバーミンガムの祖父のもとに送られた。<sup>(1)</sup>いとこのT.エドガー・ペンバートンと共に他の多くの少年と同様、色々な物を集めた。

彼の科学や自然史への興味は1860年代には明確で、15歳の時にいとこのエドガーと2人で、合同博物館を作ることにし、2人はコレクションを分担した。ところが、エドワードは、しだ、卵、植物、標本、石英、炭酸石灰または弗化石灰以外の結晶と鉄、銅、錫及び亜鉛を含む鉱物、単殻の貝類、海草及び巣の担当だった。<sup>(2)</sup>

切手を含むこれら以外はエドガーの担当だった。当然と維持管理されたこれらの物は、後の郵趣の科学的アプローチにつながっている。1861年11月11日に、切手と鳥類の交換が行われ、24カ国64枚の切手の所有者となる。

教育は家庭教師から受け、18才で家業のThomas Pemberton & Sons社に入社した。バーミンガムの真鍮製作所である。【図1】

## 1. 雑誌に販売広告、偽物対策への興味

彼の収集界への最初の登場はビートンのBoy's

*Own Magazine* 1861年9月号への広告である。「E.L.Pemberton、バーミンガム近くのWarstone House在中は、郵便による切手収集家との交換を希望します」。この1年後、同誌の1862年10月号には初の販売広告を出した。彼は英国で初めて印刷した価格表を作ったと考えられているが、現物は残っていない。<sup>(3)</sup>ただ、同誌1862年12月号からその価格表の内容が判る。

「売り物（切手）は850枚のコレクションでエッセイや民間会社切手は含まず。古いブラジル、古いブエノスアイレス、ニューカレドニア、モルタビア、ワラキア、ローマニア6枚、スペインの珍品、パルマ、モデナ、イス、タスマニア、トスカナ、ミケ、アンチグア、ネービス、オーストリア封皮8枚、セイロン、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン、グラナダ1859年5blue、1876年1、5、10未使用。印刷した価格表の希望者はバーミンガム、EdgbastonのBeaufort RoadのEdward Pembertonあて切手2枚送付のこと。」

彼の広告は*Monthly Advertiser*の創刊号（12月15日号）にも載り、同誌2号にはThornton Lewesの“Forged Stamps: how to detect them”が登場。これは17回続く連載となるが、他の16回はPembertonの名前である。1863年に同タイトルのパンフレットをエジンバラで出版した時は連名であるが、共に19才。ルイスは文芸評論家G.Henry Lewesの息子で、父親は、*Fortnightly Review*の創立者で、George Eliotの仲間である。Thorntonは背中のケガ後の闘病生活を経て25才で亡くなった。この著作について、ウィリアムズ兄弟は「この本の出版でペンバートンが学者として認められた訳ではないが、立派な研究者のひとりに入ったこととなる」と評価している。<sup>(4)</sup>

*The Monthly Advertiser*は切手収集に特化した世界初の定期刊行物（月刊誌）である。初号には英國初の切手カタログの編集者ブーティやグレイ博士の記事を掲載し、広告欄を含め八つ折りの8頁建である。【図2】

1863年1月の2号は*The Stamp-Collectors' Monthly Advertiser*、2月の3号は*The Stamp-Collectors' Review and Monthly*として12頁になる。Thomas William Kittの長期連載“Postage Stamp

# 出品者プロフィール



*Mr. SHODA Yukihikro*

## 正田幸弘 氏

1956年6月17日 北海道恵庭市に生まれる。1963年7月15日 福岡県久留米市内の郵便局で、名神高速道路開通記念切手を購入。1971年4月20日 郵便創業百年記念国際切手展第2部ジュニア・クラス第2部門入選賞。以来、全日展72ジュニアクラス第2部門銅賞等、切手展に多数出品。郵趣振興協会 賛助会員

高校時代はゼネラル収集を志向し、アイルランドの切手商から国別パケットを購入したりしていた。大学入学後、大泉学園のオームスタンプ等の貼り込み帳で未収品を穴埋めし、1975年11月の三田祭では一人で数百ページの展示をおこなった。

1979年 Collectors Club of Tokyo の会合で、石川良並会長より American Philatelic Societyへの入会を勧められる。1981年5月の George Turner 旧蔵品の文献オークションでは、スコットカタログ等を落札。このころから、切手でのゼネラル収集は無理でも、代わりに文献収集での代用を考えた。そしてその成果としての各種雑誌への寄稿を始める。

主な編著書は以下の通り

『郵趣雑誌に見る外国切手記事 1946-1979 (1982)』、『田沢切手案内 (1984)』、『各国一番切手列伝 1840-1857 (1996)』、『ブラジル切手概説 1843-1878 (2001)』、『新・紙の宝石 (2002)』、『郵趣雑誌に見る外国切手記事 (その2) 1980-1999 (2003)』、『文献に魅せられて (2004)』、『各国一番切手列伝 (その2) 1858-1871 (2006)』、『ブラジル郵便史概説 (2010)』、『文献散歩道 (2011)』、『国際展物語 1965-2004 (2015)』、『新・紙の宝石 (2017)』、『ブラジル：切手と郵便史 10稿 (2021)』

## スタンペックスジャパン2025

*All Japan Stamp Exhibition 74th <<All Japan Stamp Exhibition 2024>>*

# 全日本切手展 第74回 <<全日本切手展 2024>>

作品番号 No. L8

郵趣文献部門（単行本）

出品者：小藤田紘

郵趣などの分野における各種の記録の大切なことを思い、まずは活字にして記録に残したいという気持ちで刊行いたしました。

したがって、未熟の部分や記録したものを一冊にまとめる際の文章の補正に誤り、不手際がありましたら浅学非才の編集者の責任です。お許し戴きたいと思います。

永年「全日本切手展」と共に歩み楽しんできた者として、これからも、「全日本切手展」が継続されることを希望し、切手展に出品しました。生涯楽しめ、文化・知識も与えてくれる趣味に今後共 公益財団法人日本郵趣協会の会員として、切手収集を楽しみたいと思っております。

ご指導、ご協力を願い申し上げます、郵趣・切手収集を楽しみましょう。



全日本切手展

# 全 日 本 切 手 展

第74回《全日本切手展 2024》

小 藤 田 紘 編

## 「第1回全日本切手展」

開催 昭和26年(1951)4月17日~25日  
 会場 日本橋三越  
 主催 毎日新聞社  
 後援 郵政省  
 全国応募数 2,437点(内 北海道 45点)  
 中央搬入 120点(内 北海道 10点)  
 入賞 8点  
 入選 112点  
 入場者数 245,000人

### 全日本切手コンクール応募規定

- 1、目的……切手収集趣味の普及、向上に役立たせるとともに、  
 切手を通じての平和観念の宣伝
- 1、内容……郵便切手に関するもの
- 1、方法……3種にわけて募集する
- A、ベスト・テン(自己のコレクションから自信のある10枚を選定)
  - B、50枚のコレクション(テーマをもって整理したもの)
  - C、特殊コレクション(切手を貼付した各種物品など)
- 1、資格……アマチュアに限る
- 1、出品……住所、氏名、年令、職業を明記各地方郵政局に提出のこと、郵政局では各5種を選定した上、東京へ送る
- 1、展示……中央では、地方予選を経たものを審査した上、優秀なものを4月15日から22日までの郵便切手週間に、日本橋三越で展示する
- 1、賞……審査の上最優秀のものに郵政大臣賞その他5位までそれぞれ賞を贈る、なお出品者には記念として参加賞を呈する
- 1、審査(中央)……郵政省郵務局長、通信博物館長、東京郵政局長、朝日新聞社社会部長、同企画部長、同渡辺伸一郎、郵趣家三井高陽、小島勇之助、小倉謙、島津忠秀、三島良輔、加藤幸治、山田藤治、戸田竜雄、前田晃諸氏(予定)
- 1、主催……朝日新聞社、後援郵政省、協賛日本放送協会、日本郵便会

### 第1回全日本切手展概要

第1回は、主催者が朝日新聞から毎日新聞に変わったが、このいきさつは、いろいろな社内事情によるもので大した問題

はなかったようである。このことについて郵政省は「本切手展は昭和25年朝日新聞社において全日本切手コンクールとして企画開催されたものであるか、その後朝日新聞社においてこの企画の継続を放棄したので、郵政省側より毎日新聞社に依頼し昭和26年4月全日本切手展として開催させ」云々と説明している。協賛の顛覆はあって、各地方で郵趣連合が実質的に協力するというようにならなかった。

目的は、切手収集趣味を普及し、切手を通じて国際親善と文化的向上をはかることで、種目は、一般的の部と学生(新制高校以下)の部にわけ、応募資格は郵趣品の売買を業としない者とし、出品物の台紙の大きさは、現行よりもくらか狭く51.5×36.4であった。審査員は次の5氏のほかに浦島郵務局長と加藤毎日事業部長が加っていることが目立っている。

三井 高陽 小島勇之助 戸田 竜雄 山田 藤治  
 加藤 勝雄



### 中央審査員

三井 高陽 小島勇之助 戸田 竜雄 山田 藤治  
 小倉 謙 浦島喜久衛 加藤 勝雄

### 「第1回全日本切手展」入賞者名簿

#### ○一般の部

#### 郵政大臣賞

世界各国初期の切手

川上 金治 金沢市

## 出品者プロフィール



*Mr. KOFUJITA Hiroshi*

### 小藤田紘 氏

1944年生まれ。北海道帯広市在住。

ある日、私の元に親戚のお兄さんから届いた一通の手紙。そこには「ビードロを吹く娘」の大型の切手が貼られていました。当時私は13歳。その美しさに心を奪われ、それから切手収集に夢中になりました。

1963年日本郵趣協会入会、JPS帯広支部所属。ジャポニカの切手・昭和から令和連続日付印・記念時刻証明実通便・面白切手消印・文献資料の収集、1992年より「郵趣記念日」発行。  
永年「全日本切手展」と共に歩み楽しんできました。

## スタンペックスジャパン2025

*Koban Stamps and Their Times, Recent Information*

### 小判切手とその時代 最近の情報

作品番号 No. L9

郵趣文献部門（雑誌）

出品者：小判振舞処

小判振舞処は、故長田伊玖雄氏が2001年のフィラ日本開催の折に、大盤振る舞いは無理だけど小判振舞いなら、と洒落で開設されたところから始まります。

長田氏は、小判切手の収集家として、国際展で金賞を獲得されるほどご活躍された傍ら、最初は私信の形でも情報発信をされました。

特に小判切手の製造面に力を入れられ、小判切手収集に定常変種の概念を導入され、ペーパーチップ、ヘアライン、さらには同時期に凸版印刷された印紙にも目を向けられ、独自のworldを開拓されました。

「最近の情報」の第1号には、旧小判1銭黒と1銭茶に現れる同一変種（「帝」の変形、右上縦内太枠クラッシュ、左上内横枠の切れ）、所謂マッチド・ペアが紹介され、これは日専にも採録された代表的なものです。その後も次々と発見が続きました。

小判振舞処の最大のイベントが、JAPEX'06企画展示「小判切手130年」です。目玉は30銭11L大集合でしたが、銘版、枠線、布告・みほん帳、カラーガイド、小判切手バラエティ、不統一印、ボタ印、旧小判5厘、旧小判4銭、小判葉書、絵封筒、U小判二重丸型印、外国郵便と、幅広い展示となりました。

長田氏の豪快かつ繊細な人柄は、若手から重鎮まで多くの方々を惹きつけ、まとめられました。澤先生、番野さん、榎さんが振舞処宴会に参加されていたことなど、今思い出しても夢のようなひとときでした。

長田氏が亡くなられて早くも3年が過ぎ、「最近の情報」の発行頻度は少々落ちておりますが、継続発行を維持しております。

最近は、通送経路、郵便制度、郵便史と幅広い方向に目を向けられる方が増えています。特に、これまでハードルの高かった各航路のシッピングリストの解明を試み、朝鮮航路、北太平洋航路、横浜上海航路、ウラジオストク日本海航路と、収集する上での必携書を次々にまとめ上げられた立山一郎氏には頭が下がります。この労作を参考に調査し、投稿をして下さる方が増えているのは非常に良い傾向だと思います。

この出品物（雑誌）の定期購読申込は、郵趣文献部門展示会場における販売対象です  
詳細は本ガイド7ページをご覧ください。



小判葉書の未納不足 取り扱いの変遷

梅原 徹

小判切手時代の料金未納や不足の郵便物を蒐めていると、規則に照らすと明らかにダメだと思えるのに、なぜかそのまま通用したり、未納や不足料金を取られはしても、税額に納得がいかない例によく出くわします。そうした例は葉書、とくに明治15年末までの郵便規則時代に多いように思えます。ここではそんな事例を中心に紹介してみましょう。

図1は小判5厘葉書が明治11年10月24日に京都で市内便として使われた例ですが、葉書の印面に日付を書き込んだために、1銭をとられています。こうした場合は葉書とは認められず、書状となり、市内書状料金1銭の倍、2銭が未納料金として徴収されるはずですが、なぜか1銭ですまさっています。



図1

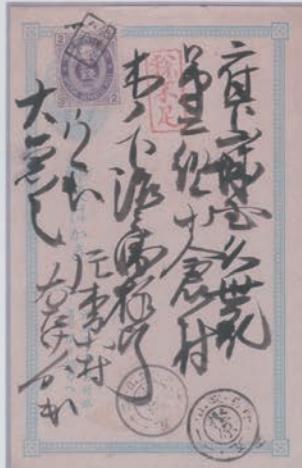


図2

図2も同様に小判1銭葉書の印面に筆書きがあるために、2銭の不足料をとられています。山城・櫻原から宇治に近い久世郡小倉村に宛てられた葉書ですが、これも葉書とみなされたようで、1銭の倍、2銭の不足ですまさっています。使用年代は不明ですが、先払又ハ不足の角印で消されているので、郵便規則時代であることは確かです。

図3は明治11年8月17日に京都から東京に宛てられた小判1銭葉書ですが、印面に差出日付と時刻の墨書きが掛かっています。付箋には切手の如き模様に文字書きがあると正しき端書とは認められないもので、先払い配達するところだが、今回限り、そのまま配達するので、今後は印面に墨がつかないように差出人に伝えよと書かれています。何とも優しく、丁寧な通知です。

# 出品者プロフィール



**KOBAN FURUMAIDOKORO**

## 小判振舞処

定期購読のご案内

小判振舞処の発行する本雑誌は、令和7年1月現在、年会費2,500円で、郵送によりお届けします。

新規購読をご希望の方は、以下の発行所にご連絡・ご送金ください。

発行所 〒 558-0011 大阪市住吉区苅田9丁目12番1－201号

小判振舞処 事務局 水口 公秀

E-mail : mina-2441@nifty.com

なお、年会費の振込先は以下の通りです。

ゆうちょ銀行 14110-74913591 ミナクチ キミヒデ

りそな銀行 我孫子支店 (131) 普通 0410183 ミナクチ キミヒデ

## 全国切手展「スタンペックスジャパン」の歴史

全国切手展「スタンペックスジャパン」は、2019年（令和元年）に、郵政博物館（公益財団法人 通信文化協会）と特定非営利活動法人 郵趣振興協会（以下、「当協会」）により翌年からの開催が企画された全国切手展です。

国際郵趣連盟（FIP）の定める審査規則を適切に運用する為、審査員の人選はじめ、我が国で開催される全国切手展の中で、FIPの審査基準に最も準拠する度合いが高く、審査結果が世界的に通用する切手展です。

この様な展覧会の性格が形作られた背景には、当協会の吉田敬理事長が展覧会の企画にあたり、国際切手展における審査経験が日本人の中で突出して多く、世界中の多くの審査員から尊敬の念で接されている佐藤浩一氏<sup>1</sup>にプロジェクト立ち上げへの参画を要請し、両者で数ヶ月に渡り納得のいくまで討論を行ったことがあげられます。

以前は、国際切手展への出品に慣れていないと、国内切手展での高評価にも拘わらず思いがけない結果に落胆された経験をお持ちの方も少なくなかったようです。そのような失望を防ぐ為に、我が国初の、世界切手展基準の審査と指導を受ける場として、郵政博物館と郵趣振興協会により開始された展覧会がスタンペックスジャパンです。本展覧会のクリティーク、ホームページや講演の活用を経て、以後の国際展で飛躍されたフィラテリストを多数輩出して参りました。

毎年桜の咲く時期の前後に開催しております。本展覧会にご出品された皆様の国際切手展でのご活躍を祈念いたします。

\*1 國際郵趣連盟（FIP）伝統郵趣コミッショナ チェアマン、伝統郵趣・郵便史・文献部門におけるチームリーダー資格及びジュリーセクレタリー資格を持つFIP登録審査員

## A History of Stampex Japan

Stampex Japan is a nationwide stamp exhibition planned by the Postal Museum Japan and the Society for Promoting Philately in 2019.

In order to properly apply the judging rules set by the FIP, this exhibition is the most highly compliant of all the national stamp exhibitions held in Japan with respect to the FIP's judging standards, including the selection of judges, and the results of the judging are accepted worldwide.

The background to the development of this exhibition is that Mr. YOSHIDA Takashi, President of the Society for Promoting Philately, asked Mr. SATO Koichi<sup>1</sup>, who has overwhelming experience in judging international stamp exhibitions than any other Japanese judge and is held in high esteem by many judges around the world, to participate in the launch of the project, and the two sides discussed the project for several months until they were satisfied with the outcome.

In the past, many Japanese exhibitors who were not accustomed to exhibiting at international philatelic exhibitions were disappointed by unexpected results despite the high evaluation of their collection at domestic exhibitions. Stampex Japan is the first Japanese stamp exhibition to be judged and guided by the World Philatelic Exhibition standards to prevent such disappointments. Through the use of this exhibition's critiques, website, and lectures, many exhibitors have made great strides at international exhibitions since then.

The exhibition is held every year around the time the cherry blossoms bloom. We wish all the exhibitors' great success at international philatelic exhibitions.

\*1 FIP Traditional Philately Commission Chairman, FIP accredited Jury ; Team Leader of Traditional Philately, Postal History and Literature Classes, FIP Jury Secretary.



## - 全国切手展 スタンペックスジャパンのあゆみ -

第1回全国切手展 第2回全国切手展 第3回全国切手展 第4回全国切手展 第5回全国切手展  
2020.3.6-8 2021.4.10-12 2022.3.26-28 2023.3.25-27 2024.3.30-4.1



第1部 スポーツ切手展  
2月22日(土)～3月1日(日)

第2部 競技切手展  
スタンペックスジャパン2020  
3月6日(金)～3月10日(火)

どものためにしただらけ多いであろう切手集め、収集したコレクションを競う切手集め。競争する切手集めは、日本で初めてのスタンペックスジャパンは、日本における日本の高いレベルの競争力と競争意識の高さを世界に発信する、ぜひご参加ください。

第3部 from 1896 to 2016  
3月14日(土)～4月5日(日)

\*第1部及び開幕前の企画展示室は閉鎖、実際の展示のみになります。

春休み特別展示 (毎日8時～8時)  
いりやまさとし  
「パンダたいそう」絵本原画展  
3月20日(金)～4月5日(日)

休館日：3月4日(水)・5日(木)  
開館時間：10:00～17:30 (入館17:00まで)  
※3月10日(火)のみ会場表示は13:00までです  
たまたま常設の展示物を観るだけでも構いません。  
主催：郵政博物館(公財財團法人郵政博物館会)  
特定非営利活動法人郵政博物館会  
株式会社講談社(ゆめうべ)

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

**ご招待券** [非売品]  
(1枚につき御1人様1回有効)

## スタンペックスジャパン2021

STAMP EXHIBITION  
JAPANESE STAMPS  
2021/X

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI



## ご招待券

1枚につき2枚まで有効  
2023年3月13日～27日開催期間  
10日(土)10時半～16時半  
11日(日)10時半～16時半  
12日(月)10時半～16時半  
13日(火)10時半～16時半  
※最終入場時間16時

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

## スタンペックスジャパン2022

STAMP EXHIBITION  
JAPANESE STAMPS  
2022/X

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI



## ご招待券

1枚につき2枚まで有効  
2023年3月24,25,27日開催期間  
26日(土)10時半～16時半  
27日(日)10時半～16時半  
28日(月)10時半～16時半  
※最終入場時間16時

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

## スタンペックスジャパン2023

STAMP EXHIBITION  
JAPANESE STAMPS  
2023/X

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI



## ご招待券

1枚につき2枚まで有効  
2023年3月25,26,27日開催期間  
25日(土)10時半～17時半  
26日(日)10時半～17時半  
27日(月)10時半～17時半  
※最終入場時間17時

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

## スタンペックスジャパン2024

STAMP EXHIBITION  
JAPANESE STAMPS  
2024/X

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI



## ご招待券

1枚につき2枚まで有効  
2024年3月30,31,4月1日開催期間  
3/30(土)10時半～17時半  
3/31(日)10時半～17時半  
4/1(月)10時半～17時半  
※最終入場時間17時

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

2020年は緊急事態で中止となりました。

出品者への適切なフィードバックを通じて、コレクションの発展に寄与する

## 第6回全国切手展「スタンペックスジャパン2025」作品募集要綱

(特非)郵趣振興協会/(公財)通信文化協会(郵政博物館)

競争切手展は、欧州のフィラテリーから生まれ、世界の様々な国籍・人種のフィラテリストが参加する国際郵趣連盟(以下、FIP)の規範作りの下、永年に渡り進化し続けてきたフィラテリーの文化であり、審査競技です。

全国切手展「スタンペックスジャパン2025(以下、本展覧会)」は、この審査競技を適切に運用する競争切手展で、審査員の人選はじめ、我が国で開催される競争切手展の中で、FIPの審査基準に最も準拠する度合いが高く、審査結果が世界的に通用する競争切手展です。また、出品者への適切なフィードバックを通じてコレクションの発展に寄与することを目指すことも、本展覧会の特徴の一つです。

つきましては、以下の記載内容により、皆様からの競争出品を募集いたしますので、ふるってご応募ください。

### 1. 実施

会期: 2025年3月29日(土)~3月31日(月)(3日間)

会場: 郵政博物館

(東京都墨田区・東京スカイツリータウン内)

規模: 90フレーム

主催: (特非)郵趣振興協会/(公財)通信文化協会(郵政博物館)

### 2. 審査体制

審査は、FIPの定める国際切手展の審査基準(以下FIPルール<sup>①</sup>)に準拠して行い、各出品作品に得点を与えます。これを実現する為に、主催者は、世界的に通用するFIPルールの理解と運用に優れた人物を審査委員長として招聘することに注力する事とします。また、審査委員長が決定した後は、審査業務ならびに審査員の選任は後述する審査委員会に一任し、審査業務に関する、審査委員会の独立を妨げないものとします。

審査委員長は、第4項の部門の審査資格を持つFIP登録審査員を中心に、審査員の人選を行い、審査委員会を組織します。審査の方式、賞の決定については、現在の世界での競争切手展の潮流に従つたものとなる前提で、審査委員長がその運用を決定します。

なお、現在世界で開催されている国際切手展に対する切手コレクションの出品資格の1つは、『FIPルールに準拠して開催される全国切手展で75点以上を獲得すること』です。本展覧会で75点以上を獲得した作品は、それに該当することとなり、国際切手展への出品資格を獲得します。

\*1 本展においては、以下の規則になります。

GREV, SREVs & Guidelines (伝統郵趣、郵便史、ステーショナリー、郵趣文献、ワンフレーム)

### 3. 授賞の概要

ワンフレーム部門を除き、審査得点に応じて、それぞれ、大金(90点以上)、金(85点以上)、大銀(80点以上)、銀(75点以上)、大銀(70点以上)、銀(65点以上)、銀銅(60点以上)、銅(55点以上)の各賞を授与します。ワンフレーム部門への出品作品には審査得点のみを授与します。

大金賞受賞作品の内の1作品にグランプリを授与することがある他、特別賞を授与することがあります。

### 4. 出品部門

- 伝統郵趣部門
- 郵便史部門
- ステーショナリー部門
- 郵趣文献部門
- ワンフレーム部門

\*ワンフレーム部門は1)伝統郵趣、2)郵便史、3)ステーショナリーに限る

### 5. フレームの割当数と出品料およびリーフサイズ

・伝統郵趣部門、郵便史部門、ステーショナリー部門のフレームの割当数: 5または8フレームです。  
・出品料は以下の通りとします。

部門	出品料	
	(5フレーム)	(8フレーム)
伝統郵趣 郵便史 ステーショナリー	15,000円 *郵趣振興協会会員は8,500円	24,000円 *郵趣振興協会会員は13,600円
郵趣文献	3,000円 *郵趣振興協会会員は2,000円	
ワンフレーム	5,000円 *郵趣振興協会会員は4,000円	

- ・第7項で後述する展示作品の決定後、出品料支払の詳細を連絡します。支払期限は2月1日です。
- ・リーフサイズは自由ですが、切手コレクション展示パネルの1フレームの大きさは横98cm×縦123cmですので、その範囲におさまるように作品を作成してください。

## 6. 出品規約と出品申込

出品申込に際しては、所定の出品申込書に必要事項を記載の上、タイトルリーフを含む3リーフ<sup>12</sup>をカラーコピーもしくはメール添付画像と共に、本展覧会の出品申込書の送付先にお送りください。

なお出品申込書に記載の通り、出品申込書の提出を以て、本作品募集要項の記載内容に従うことを承諾したものと見なします。

出品申込時に提出したタイトルリーフは、その後のリーフ制作の工程で変更があっても構いません。

\*2 文献部門の場合は、タイトルリーフの代わりに、表紙を含む3枚のカラーコピーをお送りください。

### 出品申込書の送付先（各種お問合せ先）

- ・電子メール info@kitte.com
- ・ファックス 03-6700-1585
- ・郵便 102-0083 海事ビル内郵便局留置  
郵趣振興協会

### 出品申込の受付期間

2024年10月1日（火）～2024年12月21日（土）

## 7. 展示作品の選定および選定結果の通知

本展覧会の規模は90フレームと小さい為、出品申込された作品を全て展示することが困難な場合も想定されます。この為、審査委員会では、出品申込の受付期間終了後に、出品申込時に提出された書類等を下に、展示作品の選定を行います。

展示作品の選定結果は、2025年1月1日に当協会のホームページで発表しますが、それに先立ち、全ての出品申込者に郵便等で結果をご連絡します。

なお選定の結果展示頂けない作品に対する理由開示は一切行いません。また、出品申込が受理された後の展示キャンセルは原則として受け付けません。

## 8. 展示作品の搬入と展示作業および展示作品のセキュリティ（文献部門以外の部門）

・第7項で展示が認められた出品申込者（文献部門を除く）には、本展覧会専用の出品物提出用の封筒（以下、出品封筒）を送付します。出品物は、この封筒に入れて提出してください。

- ・出品物は取り外し可能な保護カバーをつけ、各リーフの表面右下に展示順の番号を記してください。
- ・作品の搬入は、郵送と郵政博物館への持参で受け付けます。詳細は出品封筒の送付時にご案内差し上げますが、現時点では、以下の通り予定しております。

### 郵送による作品の送付（予定）

2025年3月22日（土）午前中を配達指定日時とし日本郵便のゆうパックにてお送りください

### 持参による作品の搬入（予定）

2025年3月22日（土）午前11:30から午後1時の間にご持参ください

### 送付先・持参先

131-8139 墨田区押上1-1-2  
東京スカイツリータウン・ソラマチ9階  
郵政博物館 スタンパックス係

・会期中の作品のセキュリティについて相応の対策を講じますが、作品の輸送時、保管時、会期中の展示・撤去の際のマテリアルの紛失・汚損などについては責任を負いません。出品物の保険については出品者個人の責任と負担において付保するものとします。

・物理的に切手コレクション展示パネルに格納できない作品（厚すぎるリーフ含めて）やF I Pルール上禁止されている黒色ないしは濃色のリーフが含まれている作品は、その一部もしくは全部の展示を中止します。なお、これ以外にも主催者は理由を開示することなく、出品作品の展示を拒否する等の権限を有しますが、展示されなかった場合も出品料は返却されません。

・大切なご到着した作品は審査の対象外となります。作品未着の場合、出品料は返金されません。

## 9. 国外からの出品に対する特例

外国に居住する出品者からの出品に関しては、第8項にも関わらず、以下を選択できるものとする。

・2025年3月22日までに全ページをスキャンし、PDFファイルとして送付することを条件に、作品搬入日時を2025年3月28日（金）10時から12時に行うことを認める。

## 10. 展示作品の搬入（文献部門）

- ・第7項で展示が認められた文献部門の出品申込者には、出品作品の提出に関する案内をお送りします
- ・文献部門の作品提出は原則として郵送のみを受け付け、提出期限は2025年1月中を予定しています。

## 11. 作品の返却

作品は、4月1日夕方までに返却を開始します。会場引取を予め希望した方以外は、実行委員会指定の梱包で着払いセキュリティパックにて出品者指定の郵送先に返送します。搬入時の出品用封筒以外の個人的な梱包等は、主催者の判断により廃棄することがあります。

## 12. 審査結果の発表と授賞式

展示作品は、審査委員会が会期前に審査を行った上で、開場までに賞を各作品の第1フレーム左上に表示致します。

枝点を含めた審査結果は、同会場で配布すると共に、ホームページで発表します。

授賞式は、切手展初日（3月29日）の夜に開催予定のジャパンフィラテリストサミット2025（着席会食、有償）において、実施する予定です。

## 13. クリティーク

クリティークは『審査員との対話』と和訳されることもありますが、出品者が本展覧会に競争出品した作品に関し、直接、審査員から個別に今後の改善点等について助言を受ける機会です。

『出品者への適切なフィードバックを通じ、コレクションの発展に寄与することを目指す本展覧会では、このクリティークを最も重要な行事の一つと考えています。

クリティークは会期2日目の開場時刻30分後に開始することを予定しています。会場へお越しいただけない出品者に対しては、ビデオ会議サービスを通じたクリティークも提供予定ですので、全ての出品者に、必ずご参加いただきたいと考えています。

クリティークでは『世界で開催されるFIP登録審査員により審査される国際切手展で上位の賞を獲得できる為に、どのような点を改善すれば良いか』について、審査委員会より、国際展の潮流を踏まえてお話ししていただきます。

この点を踏まえた上で質問・相談に対しては審査員は、原則として、時間を限定せずに対応いたしますので、疑問点などは予め準備して臨むことをおすすめいたします。

クリティークは、出品者以外の参観も許可しますが、審査員が認める場合を除き私語を禁止します。また、主催者以外によるクリティークの動画撮影は禁止します。

## 14. 出品者の個人情報の取扱、作品の撮影・掲載

出品者の個人情報は、法令により開示を求められた場合を除き、出品者の同意なしに業務委託先以外の第3者に開示・提供することはありません。ただし、出品目録ならびに受賞リスト等には、審査結果に加えて、氏名・住所（都道府県名まで）を掲載しますので、ご了承ください。

世界の競争切手展において、フラッシュを使用しない作品の撮影は、参観者に許されており、本展覧会もその運用を踏襲します。また、出品受付時にご提出いただいたタイトルリーフを含むページのコピーは、展覧会のPRを目的として、本展覧会の目録等に掲載すると共に、ホームページを通じて、主催者以外の方がダウンロードしご利用いただけるようにします。

会期中には、ご来場いただけない方を対象に、ホームページ、オンライン会議サービスや動画配信サービスを利用した、作品紹介を行います。この用途に供する為、展示作品は全ページを撮影・スキャンします。

## 15. 開催を中止した場合の対応

主催者は、作品募集開始時点での想定できない感染症の流行等の事由により、本展覧会の一部ないし全部について、中止の決定を行うことがあります。展覧会の開催を中止した場合の出品料の取り扱いは下記の通りとします。

(1) FIP登録審査員による審査並びに書面等によるクリティークまでを主催者が提供でき、出品者がそれを希望する場合：20%返金。

(2) FIP登録審査員による審査並びに書面等によるクリティークまでを主催者が提供できない場合、もしくは出品者がそれを希望しない場合：100%返金。

## STAMPEX JAPAN 2025 National Philatelic Exhibition Individual Regulations (IREX) Abstract for overseas exhibitor

Society for the Promotion of Philately / Japan Postal Museum  
29-31 March 2025 – JAPAN POSTAL MUSEUM

The purpose of this Individual Regulations (IREX) for STAMPEX JAPAN 2025 is to inform the exhibitors about the practice specific to this exhibition. All exhibitors should read this regulations before sending applications for STAMPEX JAPAN 2025. This is an abstract for overseas exhibitors and the Japanese text shall prevail in the event of any discrepancies in the text arising from translation.

1. The STAMPEX JAPAN 2025 Exhibition organizers
  - 1.1. The STAMPEX JAPAN 2025 National Philatelic Exhibition is organized by Society for the Promotion of Philately and Japan Postal Museum.
  - 1.2. STAMPEX JAPAN 2025 will take place at Japan Postal Museum between 29-31 March 2025.
2. **Regulations**
  - 2.1. The exhibition is governed by the following regulations:
    - FIP Regulations for exhibitions (GREX)
    - General Regulations of the FIP for the evaluation of competitive exhibits at FIP exhibitions (GREV)
    - Special Regulations and Guidelines for the evaluation of competitive exhibits (SREV) – one SREV per class
    - This Individual Regulations (IREX)
3. **Award**

With the exception of the One-Frame category, awards will be given according to judging scores: Large Gold (90 - ), Gold (85 - 89), Large Vermeil (80 - 84), Vermeil (75 - 79), Large Silver (70 - 74), Silver (65 - 69), Silver bronze (60 - 64) and Bronze (55 - 59), respectively. Entries in the One Frame category will only be awarded judging points. A Grand Prix may be awarded to one of the Large Gold awarded exhibit, and several special prizes will also be given to some exhibits.
4. **Classification of exhibits**
  - 4.1. The competitive exhibits are classified in the following Classes:
    - Traditional Philately
    - Postal History
    - Postal Stationery
    - Philatelic Literature
    - One-frame
- \* One-frame class is limited to 1) traditional philately, 2) postal history and 3) postal stationery.
5. **FRAME ALLOCATION, and FRAME FEES**
  - 5.1. Exhibits are allocated 5 or 8 frames for three classes of Traditional Philately, Postal History and Postal Stationery..
  - 5.2. In One-frame class, exhibits are allocated one frame.
  - 5.3. The participation fee in the Competitive Classes is 3,000 Yen per frame (currently \$20 at exchange rate in Sep 2024). Single frame exhibits are 5,000 Yen.
  - 5.4. The participation fee for Philatelic Literature class is 3,000 YEN
  - 5.5. When the application is accepted, all the exhibitors must pay the participation fee to the Exhibition organizers no later than Feb. 1st, 2025.
  - 5.6. We recommend PayPal for sending fees and PayPal fee must be paid by the exhibitor.
  - 5.7. A frame can hold 16 sheets in four rows of four (4 x 4) contained in transparent protectors, not exceeding 29.5 cm tall by 23 cm wide.
6. **CONDITIONS OF ENTRY**
  - 6.1. When applying your exhibit to this exhibition, fill in the prescribed application form and send it together with a colour scanned image of three leaves including the title page.  
By submitting the application form, as indicated on the application form, you agree to abide by the contents of the call for entries.
  - 6.2. The entry form must be duly completed in English or in Japanese.
  - 6.3. A separate entry form is required for each exhibit.
  - 6.4. Completed entry forms must be received by the Organizing Committee no later than 21 December 2024 through the following email address. [info@kitte.com](mailto:info@kitte.com)
  - 6.5. The Organizing Committee will reply a notification of receipt of the application to the exhibitor. If an exhibitor doesn't receive this notification within a week, it must go to spam folder and not received by the Organizing Committee.
7. **NOTIFICATION OF ACCEPTANCE**
  - 7.1. Due to the small size of the exhibition (90 frames), it may be difficult to accept all the exhibits submitted. For this reason, the Organizing Committee will select exhibits to be accepted after the entry period, based on the documents submitted at the time of application.
  - 7.2. The accepted exhibits will be announced on the website on January 1st, 2025, prior to which all applicants will be informed individually. No reason will be given for non-accepted works, and withdrawal of an exhibit will not be accepted once an application has been accepted.
8. **EXHIBIT PRESENTATION**
  - 8.1. The write-up of the exhibit (except class L - Literature) must be in English or in Japanese.
  - 8.2. All exhibits must be mounted on white or light-coloured pages and each sheet must be placed in a transparent

protective cover. No exhibit mounted on black or dark-coloured pages will be accepted.

- 8.3. The sheets must be numbered consecutively, on the front at a corner, to aid the correct mounting of the exhibit. (Lower right preferred)

#### 9. DELIVERY OF EXHIBITS

- 9.1. Overseas Exhibitor must send a PDF files containing all the pages to the Organizing Committee no later than Mar. 22nd, 2025.
- 9.2. The official reception period of physical exhibit for overseas exhibitors at Japan Postal Museum is between 10:00 and 12:00, Mar. 28th, 2025, however, we are flexible if an exhibit will be delivered by 12:00 Mar. 28th, 2025.
- 9.3. The Organizing Committee does not have any plan for Customs Clearance documentation.
- 9.4. In the event that an exhibit is delivered late or fails to be delivered, or in the event the page size or language does not comply with the provisions of Articles 8.1 or 5.7, the exhibit will not be judged, and the participation fee will not be refunded.
- 9.5. The Exhibitor mount his/her exhibit by him/herself with an assistant of the staff of the Organizing Committee.

#### 10. PHILATELIC LITERATURE EXHIBITS

- 10.1. Exhibitors in Philatelic Literature Class must send two copies of each title or volume, which will not be returned. The literature will first be placed at the disposal of the Jury and will later be on display in a philatelic reading area throughout the duration of the Exhibition. After the exhibition all literature will be at the disposal of the Organizing Committee, and one of each will be donated to Japan Postal Museum.
- 10.2. The Organising Committee requires Philatelic Literature exhibits to be received no later than 1 February 2025 in order that preliminary judging may take place.
- 10.3. The address to which Philatelic Literature exhibits must be sent follows:  
Stampedia, inc. Parkhouse Kojimachi Place #803, 4-7 Kojimachi, Chiyoda, Tokyo, 1020083, JAPAN  
Customs declarations should state the book is a gift of zero value.

#### 11. INSURANCE AND SECURITY

- 11.1. Exhibitors are responsible for securing appropriate insurance for their exhibits for the entire time that the exhibits are out of their hands. The Organising Committee is not responsible for such insurance, and all expenses in securing insurance are the responsibility of the exhibitor. The Organising Committee will not be liable for any loss of or damage to any exhibit, in whole or in part, whatever the cause.

#### 12. DISMOUNTING OF EXHIBITS

- 12.1. Overseas exhibitors will be able to hand in their exhibits directly at Japan Postal Museum on 17:30 Mar. 31st, 2025 without prior arrangement.

#### 13. JUDGING OF EXHIBITS AND AWARDS

- 13.1. Exhibits will be judged and awarded prizes by the jury appointed by the Organizing Committee consisting of accredited FIP and FIAP judges in accordance with the principles in the GREV and SREVs.
- 13.2. The Jury will allocate awards and special prizes in accordance with elements of Article 8 of the GREX.
- 13.3. Awarding ceremony will be held at Japan Philatelist Summit 2025 (seated dinner, paid for), which will be held between 18:30 and 20:30, Mar. 29th, 2025.
- 13.4. Jury feedback session will be held at Japan Postal Museum at 10:00, Mar. 30th, 2025 either in Japanese or in English.

#### 14. LIABILITY

- 14.1. The Organising Committee, the Jury, the voluntary personnel, and employees accept no liability for any loss or injury suffered by exhibitors or members of the public arising directly or indirectly from any cause whatsoever related to the exhibition.
- 14.2. The laws of Japan shall govern interpretation of these regulations, and any legal cases arising shall be settled within the jurisdiction of the courts of Japan.
- 14.3. This is an abstract for overseas exhibitor, and in the event of any discrepancies in the text arising from translation, the Japanese language text shall prevail.

#### 15. CONTACT ADDRESSES

- 15.1. The Organising Committee  
Website: <https://kitte.com/stampex2025>  
The Secretary, Stampex Japan 2025 is Mr YOKOYAMA Hiromi  
Email: [info@kitte.com](mailto:info@kitte.com)

- 15.2. Society for the Promotion of Philately  
President, Society for the Promotion of Philately is Mr. YOSHIDA Takashi  
Email: [yoshida@kitte.com](mailto:yoshida@kitte.com)

## 全国切手展「スタンペックスジャパン」受賞履歴（抜粋）

2021～2024年

毎年桜の咲く時期の前後に開催しております。本展覧会にご出品された皆様の国際切手展でのご活躍を祈念いたします。

 <p>2022/3/26-28 実行委員長 斎享 審査員長 佐藤浩一 審査員 山崎文雄 アブレンティス 吉田敬</p>	<p><b>Grand Prix</b> Japan Definitive Issues 1914 - 1925, Mr. NIWA Akio</p> <p><b>Special Prize</b> Japan Definitives 1937-1940, Ms. KIKUCHI JAPAN CHRYSANTHEMUM SERIES 1899 - 1910 Mr. MURAYAMA Postal History of Japanese Special Delivery Mail by the name of "Sokutatsu" 1911-1948 Mr. YOKOYAMA</p> <p>全 14 作品（伝統郵趣 7、郵便史 5、ステーショナリー 2）</p>	 <p>Mr. NIWA Akio</p>
 <p>2023/3/25-27 実行委員長 守川環 審査員長 佐藤浩一 審査員 フアン・チェンフェイ、 設楽光弘、山田廉一、吉田敬</p>	<p><b>Grand Prix</b> Hawaii, Mr. YAMAZAKI Fumio</p> <p><b>Special Prize</b> Japan Etched Stamps, Mr. KURODA France 1849-1862, Mr. ARIYOSH Early Mail and The Foreign Post Offices in China, 1745-1898, Mr. OHBA</p> <p>全 12 作品（伝統郵趣 7、郵便史 4、ステーショナリー 1）</p>	 <p>Mr. YAMAZAKI Fumio</p>
 <p>2024/3/30-4/1 実行委員長 横山裕三 審査員長 佐藤浩一 審査員 アンドリュー・チヨン、山田廉一、吉田敬</p>	<p><b>Grand Prix</b> France 1849-1862, Mr. ARIYOSHI Nobuto</p> <p><b>Tejima Yasushi Award</b> Japan Etched Stamps 1871-1876, Mr. KURODA</p> <p><b>Special Prize</b> Postal History of Jianzhou in China 1898-1949, Mr. FUKUDA</p> <p><b>Best One-Frame</b> 1943 MALAY 4C POSTAL CARD, Ms. KIKUCHI</p> <p>全 21 作品（伝統郵趣 9、郵便史 4、ステーショナリー 2、ワンフレーム 3、郵趣文献 3）</p>	 <p>Mr. ARIYOSHI Nobuto</p>

[AD]

# スタンペディアオークション

第33回セール

フロア 2025年4月12日(土) 12:30

会場 東京都中央区日本橋富沢町8-10 線商会館



セール回	フロアセール	下見会
第33回	2025年4月12日	4/5 線商会館 1階
第34回	2025年9月27日	9/6 線商会館 1階

スタンペディアオークション株式会社

〒102-0083 千代田区麹町4-7 パークハウス麹町プレイス803

FAX: 03-6800-5384 auction@stampedia.net

<http://auction.stampedia.net>

# 切手とコインの大即売会

第38回

JSDA 切手まつり

第34回

さくらコインショウ



2025年 3月21日(金) 11:00 ~ 18:00  
 22日(土) 10:00 ~ 18:00  
 23日(日) 10:00 ~ 16:00

※最終日 入場は15:30分まで

会場 日本橋プラザ  
3階 展示室

**会場で  
切手・コイン 買い取ります!**

会場内「無料鑑定・買取りコーナー」  
にて、切手・コインの買取を行います。  
金・銀・プラチナも歓迎。ぜひ、お持ち  
より下さい。

全国より 32社出店

アベノスタンプコイン社/アローインターナショナル/薄井美術店/駅前コイン/エーススタンプ/  
ケネディ・スタンプ・クラブ/公博/コレクションハウス/城南堂古美術店/収集ワールド/新橋スタンプ商会/  
杉本梁江堂/世界コイン/セキグチ/世田谷スタンプコイン/大日スタンプコイン/トレジャーループ/  
日本郵便趣味協会/ネットジャパン/野崎コイン/八王子ムサビコイン/フクオ/フクオスタンプ社/  
ファミリースタンプ/松浦古銭堂/ユキオスタンプ/陽光郵泉社/レトロコイン/ワタナベコイン/和楽屋/  
ワールドコインズジャパン/BTコレクション

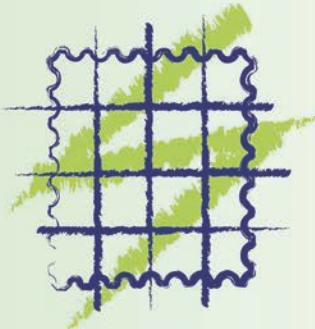


最寄り ● 東京駅八重洲北口 ● 地下鉄日本橋駅B3出口  
東京都 中央区日本橋2-3-4



日本郵便切手商  
協同組合 HP

【主催】日本郵便切手商協同組合 【後援】日本貨幣商協同組合



# ONE-FRAME CHAMPIONSHIP TOKYO

2025.7.5 - 7.21

3日間で1,188人来場。ワンフレ ONLY の、非競争全国切手展  
今年もあの楽しい切手展がやってくる！

「東京ワンフレームチャンピオンシップ 2025」は、「ワンフレーム作品」に限定した非競争全国切手展です。国際郵趣連盟の審査規則に準拠して開催される切手展を「競争切手展」と呼びますが、本展覧会はそれに該当しません。

非競争切手展であるものの、全国展を謳う為に、十分な宣伝を行い、豪華な展示目録（A4判、フルカラー、88頁、前年実績）も作成します。

昨年開催の「東京ワンフレームチャンピオンシップ 2024」では、3日間で1,188人の郵政博物館へのご来場をいただきました。東京スカイツリータウン・ソラマチという絶好のロケーションで、一般客・観光客のご来場が多数あり、郵趣振興の観点でまたとない好機となりました。

また、その内、土日来場者841人の57%の478人に会場人気投票にご参加頂きました。それと並行して開催された、オンライン投票には92人の収集家の投票参加を頂きました。本年は期間を延長すると共に、錦糸町マルイでも展示を行います。より多くの方にご覧いただくことができると期待しています。

あなたのワンフレーム作品を多くの人に見てもらう為のまたとない好機です。是非ご活用ください。



展示作品のフレーム下に投票ボードを設置。来場者にシールを貼って投票して頂いた。(鈴木盛雄さんの作品)



2024年チャンピオンの須谷伸宏さんの「波消(集めにくいものばかり展示した!)」に授与された副賞『伝統芸品『江戸切子』』

### 出品申込書の送付先 (各種お問合せ先)

- ・電子メール info@stampedia.net
- ・ファクス 03-6700-1585
- ・郵便 102-0083

海事ビル内郵便局留置  
スタンペディア内  
ワンフレーム展係

\*所定の「出品申込書」をご利用ください。

7/19-7/21 全日本切手まつり2025					7/5-7/21 東京ワンフレーム チャンピオンシップ 2025	
Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday	Sunday
30	1 フィラテリスト ナイト	2	3	4	5 切手 市場	6
7	8	9	10	11	12	13 オ日本
14	15	16 オ南方	17	18	19	20
21 海の日	22	23	24	25	26 全日本切手まつり 2025	27
28	29	30	31	1	2	3

7/19 外国 7/20 昭和

東京ワンフレームチャンピオンシップ2025は、以下3期で、合計半月間、開催されます

期間	展覧会名称	展示場所
2025/7/5-6	東京ワンフレームチャンピオンシップ2025 (前半展示期間)	郵政博物館
2025/7/10-21	東京ワンフレームチャンピオンシップ2025 (クラウド展示期間)	インターネット
2025/7/19-21	第1回全日本切手まつり2025 inすみだ (東京ワンフレームチャンピオンシップ2025の後半展示を含む)	錦糸町マルイ

# 全日本切手まつり 2025

期間：2025年7月19日（土）～21日（月・祝）

場所：錦糸町マルイ8階すみだホール

主催：無料世界切手カタログ・スタンペディア<sup>株式会社</sup>、錦糸町マルイ

後援：（特非）郵趣振興協会 / （公財）通信文化協会（予定）

切手展の種別：非競争全国切手展（入場無料）

展示規模：200フレームの郵趣コレクション

ディーラーブース：15社19ブース（2月時点）



# 競争切手展はそんなに大事なものでしょうか？

## 非競争全国切手展、はじめました

「フィラテリストマガジン 2024年元旦号外」で「競争切手展はそんなに大事なものでしょうか？」という記事を当社代表の吉田敬が執筆しました。

この記事は、競争切手展が全てではない事を訴求した記事でしたが、著者が国際展上位入賞者であったことから、反響は小さくありませんでした。中には、国際展出品者の方からの反論もございました。

しかし、多くの人にコレクションをみてほしい反面、本音ではFIP規則に従った作品つくりや審査を望んでいない出品者が大多数で、その方達は当該記事で提唱された様な来場者の多い非競争全国切手展<sup>†</sup>を望んでいることを強く再認識しました。

また、審査員の交通費やホテル代を負担する競争切手展はどうしても経費が増加し、出品者が負担する出品料金は大きくなりがちです。もちろん、きちんとした競争切手展の運営には必要不可欠なコストです。



展覧会	フレームあたり出品料	例：5Fr	例：8Fr
全国切手展 A	@ 3,000 円	15,000 円	24,000 円
全国切手展 B	@ 6,000 円	30,000 円	48,000 円

両展覧会とも会員向け割引料金を設定している。上記は一般向け料金。

しかし審査員が参加しない非競争切手展には、開催費用を大幅に節約できるメリットがあります。そこで、このメリットを生かし、出品者の費用負担を大幅に低減した新たな切手展「全日本切手まつり」を2025年より開始することにしました。

日本の郵趣振興にあたり2025年の出品料金は以下の通りとします。また本展覧会は2030年までの開催は決定しています。今後のコレクション披露にご活用ください。

展覧会	フレームあたり出品料	例：5Fr	例：8Fr
全日本切手まつり	@ 1,000 円	5,000 円	8,000 円

上記の費用には、期間中の展示や、1500部以上発行予定の公式パンフレットへの1人1ページの掲載やインターネットでの紹介等一才の費用が含まれています(送料・保険等は各自負担)。また、本展覧会は非競争切手展ですが、出品者の励みとする為に、複数の選定者による特別賞の贈呈を予定しています。

\*1 国際郵趣連盟の審査規則に準拠して開催される切手展を「競争切手展」と呼びますが、本展覧会はそれに該当しない切手展です。

# STAMPEX JAPAN 2025

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

スタンペックスジャパン 2025 記念出版のお知らせ

## 日本のフィラテリスト 世界切手展 参加記録 ver 0.8 2025 年版

### *Japanese Philatelists' Participation to F.I.P. Exhibitions ver 0.8 2025 edition*

PHILANIPPON 2011 日本国際切手展 2011						Agence Philadelie's Participation to F.I.P. Exhibitions 2025 edition ver 0.8 (Rev.2023)					
部門 Class	作品名 Title	F	作品オーナー <sup>Exhibition</sup>	Pts.	メダル Medal	部門 Class	作品名 Title	F	作品オーナー <sup>Exhibition</sup>	Pts.	メダル Medal
伝統凱道 Traditional	Hand Engraved Stamps of Japan (1871-1875) Japan Enchanted Stamps 1871-1875	8	田代文四郎	金		Taiwa Series 1870-1940(Old White Paper Series & Watermarked Old Die Series)	8	山田英司			
	Hand Engraved Stamps of Japan	8	千葉萬一	大金		Japan General Post 25th Issue 1937-1947	5	東山博昭			大金賞
	Japan Hand-engraved Stamps 1871-1876	8	坂下重一	大金		Japan Showa Issues 1937-1946	8	林 茂博			金賞
	Dragon Stamp Cover 1871-1884	8	鈴木秋一	大金銅		Japan Showa Series 1937-1946	8	伊藤 勝美			大金銅
	Japan 1871-1875 Hand Engraved Stamps	8	宇多井耕	大金		Japan Showa Issues 1937-1946	5	山下智也			大金銅
	Japan The Old Koban Issue 1876-1879	8	酒井文義信	大金		Japan Showa Stamps 1937-1946	5	須原 伸宏			大銀
	Japan Old Koban Series 1876-1879	8	稻葉萬一	大金		Japan Definitive Stamps 1950-1965: Animal, Plant & National Treasure Series	5	山野聰名			金賞
	Japan Old Koban Series 1876-1879	5	河野尚一	大金		Japan 1950-51 Animal, Plant & National Treasure Series (1950-51) The First Unit (With/W/o "0")-Issued:1950-51!	5	赤堀 実司雄			大賞
	Japan 1876-79 The Old Koban Series- Japan 1876-79 E.Koban Stamps	5	長野裕一	金		Japan 1950-51 Animal, Plant & National Treasure Series (1950-51) The Second Unit (Without "0")-Issued:1952-59!	5	赤堀 実司雄			銀賞
	Japan Definitives 1883-1892 UPU and New Koban	5	浅井治	大金		Animal, Plant & National Treasure Series 2nd Unit Without "0"-Issued:1952-59!	5	矢崎秀明			銀賞
	Japan Chrysanthemum Series 1899-1908	8	山田 雄一	金		Japan Commemorative Issues 1894-1944	8	西川 駿			銅賞
	The Chrysanthemum Series 1899-1908	8	熊田文雄	金		Ryukyu 1941-52	5	上村 駿久			銅賞
	Japan Chrysanthemum Series 1899-1910	5	萬谷久司	大金		Ryukyu 1941-52	8	石澤 亮			大銀
	Japan Definitives 1899-1908	5	村山文裕	金		Japan Occupation Stamps of Malaya	5	小島利之			金賞
	Japan Chrysanthemum Series 1899-1907	5	吉家文和	金		The Security Markings on the Japanese Stamps	5	丹沢泰彦			金賞
	Japan Chrysanthemum Series	5	寺中良幸	金		Australia - Kangaroo and Map Design Postage Stamps - Australia - Kangaroo and Map Design Postage Stamps -	8	貴島 智惟			金賞
	Taisho Series 1913-1935, Japan	8	中川孝洋	大銀	China:De-Sun Yee Sun Issue, Central Trust Print	5	Jun Kuyama			金賞	
	Japan Earthquake Emergency Issue 1923-1924	5	西本立賀	大金	Domestic People's Republic of Korea, The First Decade	8	永井正原			大銀	
		5	陳食達	金	China De-Sun Yee Sun Printed by the Dah Tung Book Co.; Shanghai	8	前田謙三			金賞	
					Japanese Occupation Stamps of China	5	川嶋徹夫			大銀	
					Imperial Korea 1954-1955	8	小林義昌			大銀	
					LITHUANIA Stamp of the Angel and the Vytais (1960-1993)	5	吉田義昌			大銀	
					Sri Lanka Definitive Stamps (1862-1907)	5	荒木実雅			金賞	
					France: Two Pairs	5	小林豊			大賞	
					Czechoslovakia His Royal Highness King George V 1908-1918					大賞	
					Romania King Carol II 1908-1918					金賞	
					German King Wilhelm II 1908-1918					金賞	
					Romania "King Ferdinand I" 1908-1918					金賞	
					The Admirals Issue of The United States, The United States, U.S.Washington-Fr					金賞	
					Mexico - 1856 First					銀賞	

国際郵趣連盟が 2026 年に 100 周年を迎えることを記念し、その間の日本人の世界展認定記録をパームレスパンフレット等の公式報道等よりまとめました。Ver 0.8 では、2011-2025 年を掲載しています。  
発行方法は未定ですが、期間中の何らかのイベント等での非売品としてのプレゼントを予定しています。

Japanese Philatelists' Participation to  
F.I.P. Exhibitions  
2025 edition ver 0.8  
2011-2025



# 郵趣振興協会

Society for  
Promoting Philately

## 第9期正会員・賛助会員を募集中です

末長くフィラテリーを楽しめる仕組み作りをする公益郵趣団体です。2017年から始まった活動は9期目を迎えます。郵政博物館との連携を基に全国切手展スタンペックスジャパンを主催するほか、オンラインの郵趣例会やコレクション展示の振興活動を行っています。

公益郵趣団体ではありますが、展覧会や各種行事の出品料割引など、特典を少しずつ拡充しています。是非会員となっていただき、我が国における郵趣振興にご協力ください。

賛助会員の年会費は6,000円です。ご入会いただける場合は、詳細資料・入会用紙を郵送しますので、ご連絡ください。インターネットでも詳細を掲載しています。



102-0083 海事ビル内郵便局留置 郵趣振興協会 <http://kitte.com>

書名：スタンペックスジャパン2025 公式ガイドブック

副題：フィラリストマガジン号外39号

発行日：2025年3月11日

部数：2,000部

発行者：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

発行人：吉田敏

編集部：菊地恵実、北川朋美

\*当誌は「スタンペディア日本版」の機関誌です。

Name of the book: The Official Guide of the Stampex Japan 2025

Sub Name: The Philatelist Magazine Extra Edition 39

Date of issue: March 11th 2025

Number of printing 1,200 copies

Publisher: Stampedia, inc. Takashi Yoshida

Editor: E. Kikuchi, T. Kitagawa



# STAMPEX JAPAN 2025

STAMP EXHIBITION

STAMPEX  
JAPAN 25

29TH-31ST MARCH  
NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION

AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN  
TOKYO SKYTREE TOWN "SORAMACHI"



<http://kitte.com/stampex2025>